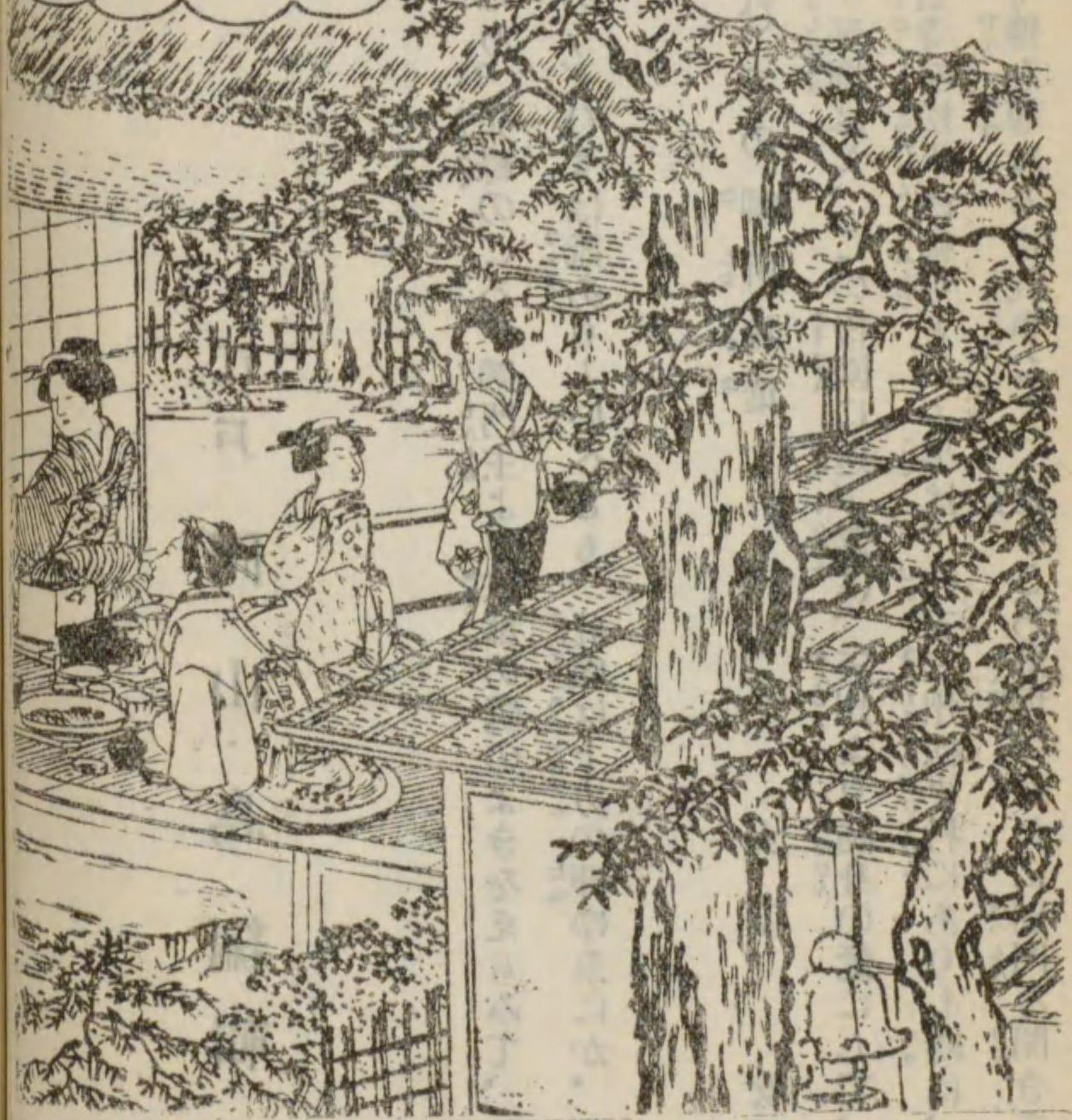


根岸の里

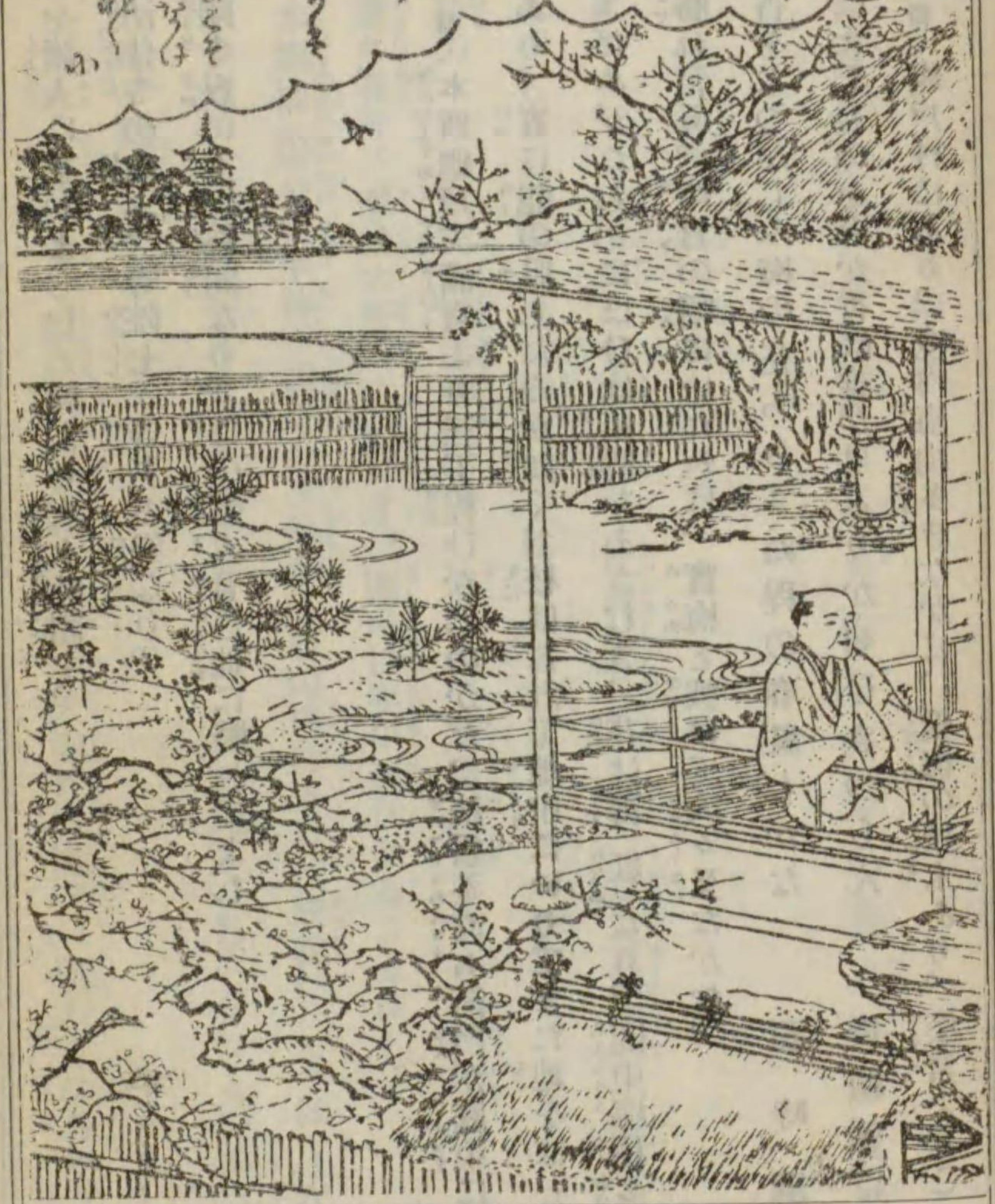
車藏山の北の麓に  
 此里の里ありて  
 昔は古名小入といふ事と  
 ありて今も此處の  
 名を以てしる人  
 多し其の仔細の  
 由りては知る所  
 茶の湯味さりや  
 美の川の  
 せうりとも  
 なり本朝  
 江戸の



極せり  
 叔春鳥と  
 中其の  
 といふ

枝直

まる中  
 色女  
 の  
 うめ  
 小



四月十七日神影を諸人にをがましむ。朝より人々参詣す。

鶯谷 谷中三崎法住寺の向ふ、寺院七ヶ寺ある谷なり。

鶯谷 小石川金剛寺坂の上の谷間なり。この鶯も音色他に勝れてよし。

○梅

梅屋鋪 立春より三十日 本所龜戸天満宮より三丁程ひがしのかた、清香菴喜右衛門が庭中に臥龍

梅と唱ふる名木あり、實に龍の臥したるが如く、枝はたれて地中にいりてまた地をはなれ、

いづれを幹ともさだめがたし。にはひは蘭麝をあざむき、花は薄紅なり。園中梅樹多しと

いへども、殊に勝れたり。四月の頃にいたれば、實梅と號けて人々又ながむ。

吹きくれば香をなつかしみ梅の花ちらさぬ程の春風もがな 源時綱

心あらばとはましものを梅が香は誰が里よりか匂ひきつらん 俊頼朝臣

龜戸天満宮境内 同 龜戸村にあり。境内梅樹多きなかに、飛梅の稚木あり。築紫よりこよに

うつす。菅公左遷の時うめを詠じ給ふ歌、

古知布加波爾保比於舉世與字米乃波奈阿留志那之登底波婁那

和須辰楚

是によつて、梅とんで謫所の庭に生ずといふ。

御嶽社 同 同所にあり。この境内にも梅あり。此神は菅神の師、法性坊阿闍梨の靈神なり。

卯の日に参詣あり。とりわけ正月の初卯日は、はつ卯と號けて、人々群集す。

百花園 同 寺島村のうちなり。白髭明神のわき、俗呼んで新梅屋敷といふ。白梅おほし。諸

木薬草のたくひ數多有り。季候の所々にいだす。園中に年中花たゆることなし。

駒込鱧繩手 同 本郷通追分の手前、組やしき外がこひの内にあり。或説に、こはうなぎ繩

手にあるべからず、むかし苗木をそだてしところなれば、苗木繩手なるべきかといふ。また

往來曲行してあれば、鱧繩手といふか。

茅野天神境内 同 芝増上寺地中、松林院に安置する處の天満宮の境内、梅あまたあり。





宇米茶屋 同 麻布三子坂にあり。一重の白梅なり。正月下旬 寒暖に上るべし。盛なり。ほかよりは遊

し。古木なり。遊行他阿一海上人、この梅に題して歌あり。

この花の色は白かね名に高く千歳をこめてみみるとこうめ

麻布龍土組屋舗 立春より六七十日 梅樹家ことの入口にあるもあり、または後園にあるもあり。

蒲田村 同 和名抄荏原 郡加萬太 大森の右のかた、郊野に數多し。文政のはじめの頃、梅木堂和中散川崎の

よりたる この後園、ならびに往還の兩側へ梅樹五百本を植ゑ、見勢より北のかた、枝折戸をし

つらひ、蒲田といへる二大字の額をかけたなり。野梅をのこらすことにあつめ、一眼に見渡す

なり。その外、園中種々の花あり。なほ花の部分のところぐに出す。

杉田村 同廿七八日 東海道中程谷宿より、金澤道の方へ一里ほど行けば、民家のはた一面なり。

實は種小く、専ら江戸にて是を賞翫す。花の頃は東都の遊客旅立ちぬ。

○椿

向島 同 秋葉権現の門前より東のかたへ十四五間もさきなる家に、二百種の異なる花をあつめ植ゑたり。

平井聖天 同 西葛西領下平井村、渡を渡りてむかふの河岸通り、いろくの椿多し。

妙龜山總泉寺 同 橋場にあり。この處を古名石濱といふ。昔頼朝卿、常胤、廣常に命じて、

隅田川にうき橋をかけしめ、川をわたり、豊島の上、瀧の川板橋に陣をとるとあれば、その

頃の橋場ならん歟。この寺の奥庭に椿あり。他にことなる大樹あり。千葉介常胤の石塔あり。

弘治二丁巳年十一月八日卒とあり。宇津宮彌三郎の石塔もあり。弘安徳治の年號なり。當院

に藻屑物語といふ本あり。是は淺草西福寺の邊にありし頃、十六歳なる伊丹左京といふもの

と、十八歳なる舟川采女といへるものと、討果したることをしるしたる物語なり。

椿山 同 關口の通り、上小橋を渡り、右のかたへ上る坂の上二圓をいふ。今はたえたり。

上野下寺 同 東叡山中、屏風坂の手前、寺院のうしろ、下寺通りより見あぐれば、椿つらな

○桃

桃園 同六十七八日目 四谷中野村、依三台命一植うる。昔は多くありしが、今は過半枯れて無し。

御薬園 同 九段坂の上、東むき御堀ばた通御かこひのうち、紅白の桃數百樹あり。

大師河原 同 大師より羽根田への通筋、ところぐくに桃あり。花の色は紅白ひとつならず。

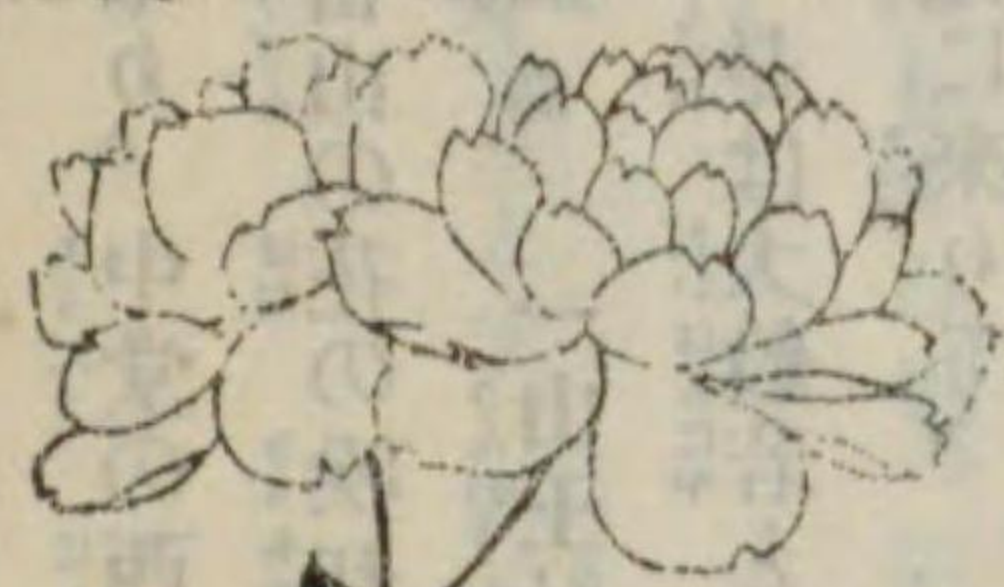
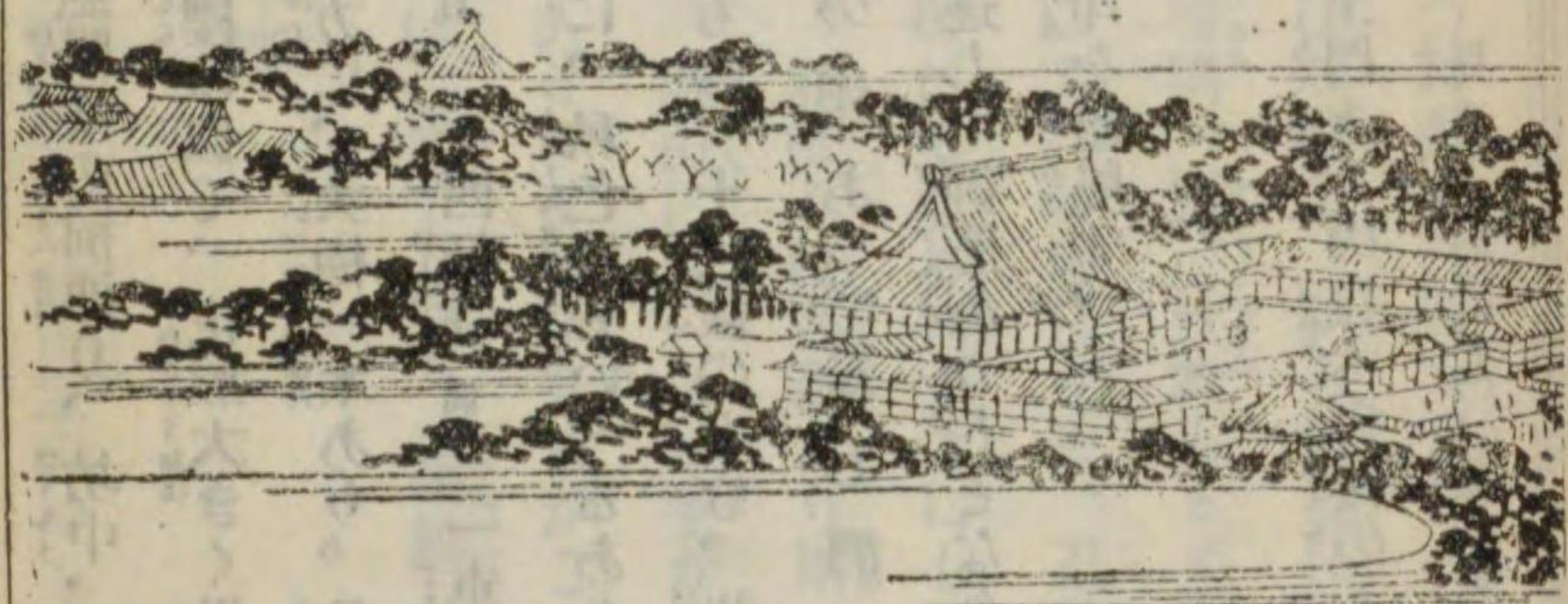
吉川 同 日光道中越ヶ谷のさき、田畑の畔、あるひは民家の構のうちに多し。

流山 同 下總松戸より二里ほどさき、野田の邊なり。此處は活業とするゆゑに、桃林いと多

○櫻

東叡山 上野 一山のさくら種々ありて、開花の遅速 當山は東都第一の花の名所にして、彼岸櫻より咲

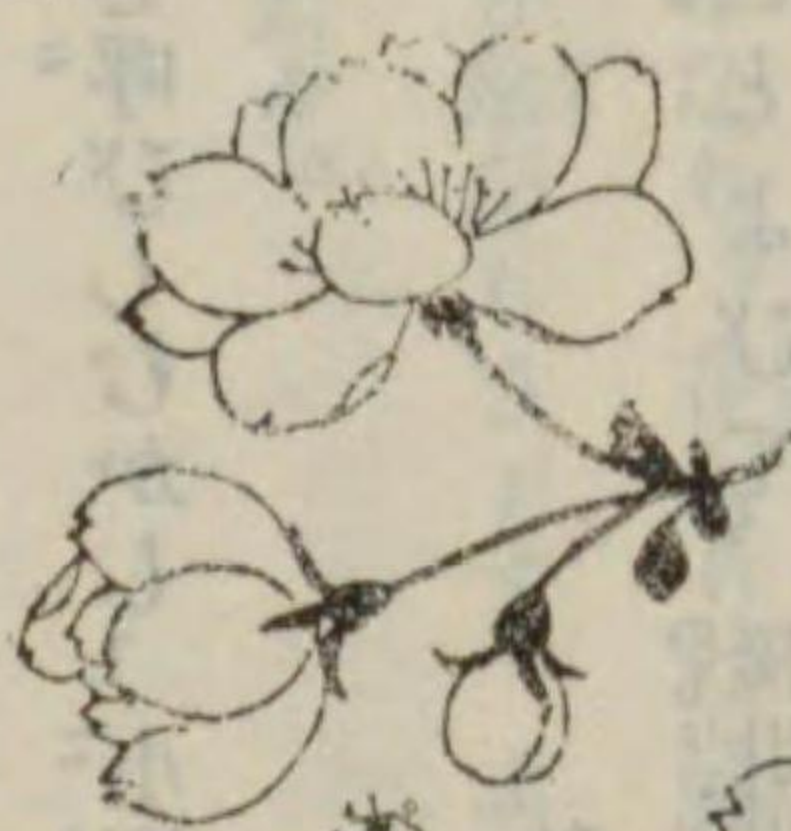
き出でて、一重、八重、追々に咲きつゞき、彌生の末まで花のためる事なし。



虎ノ尾



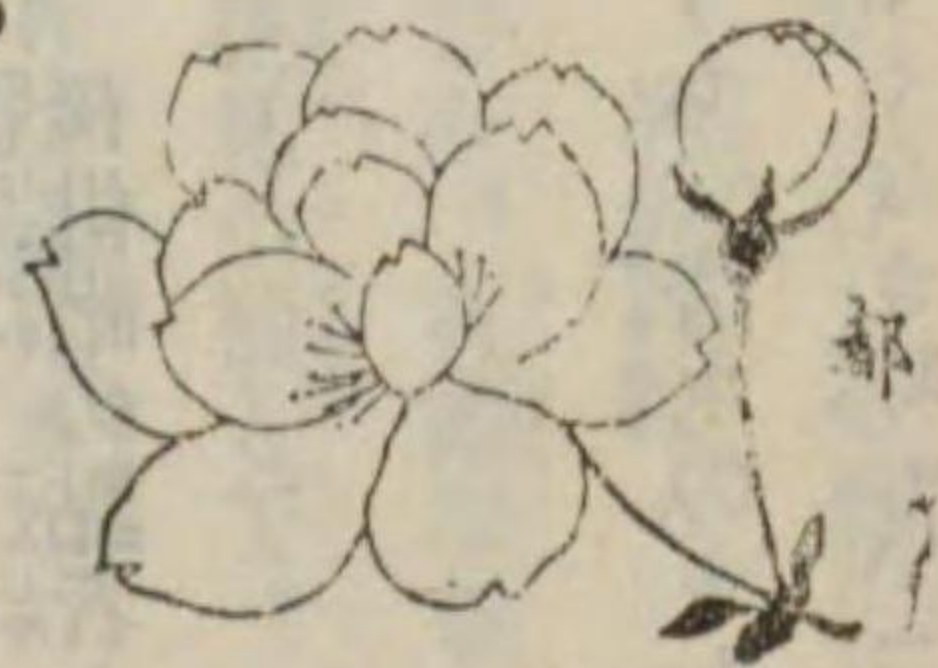
梅實丸



淡黄

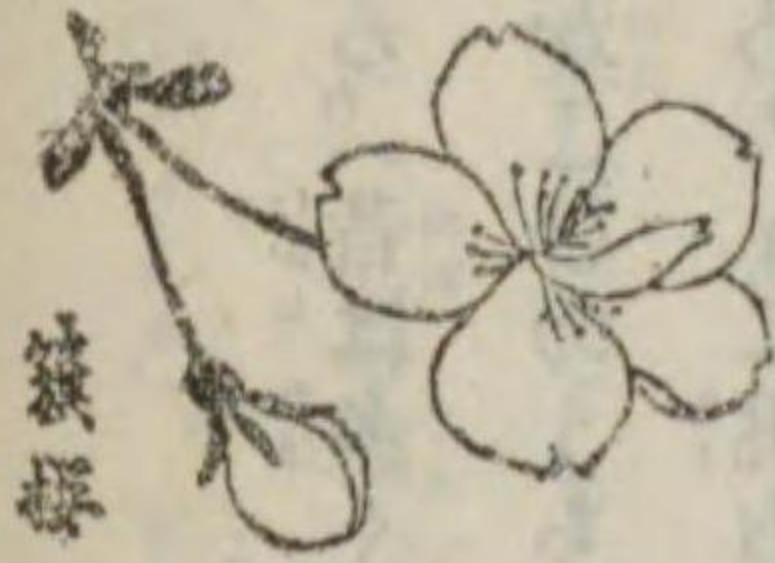
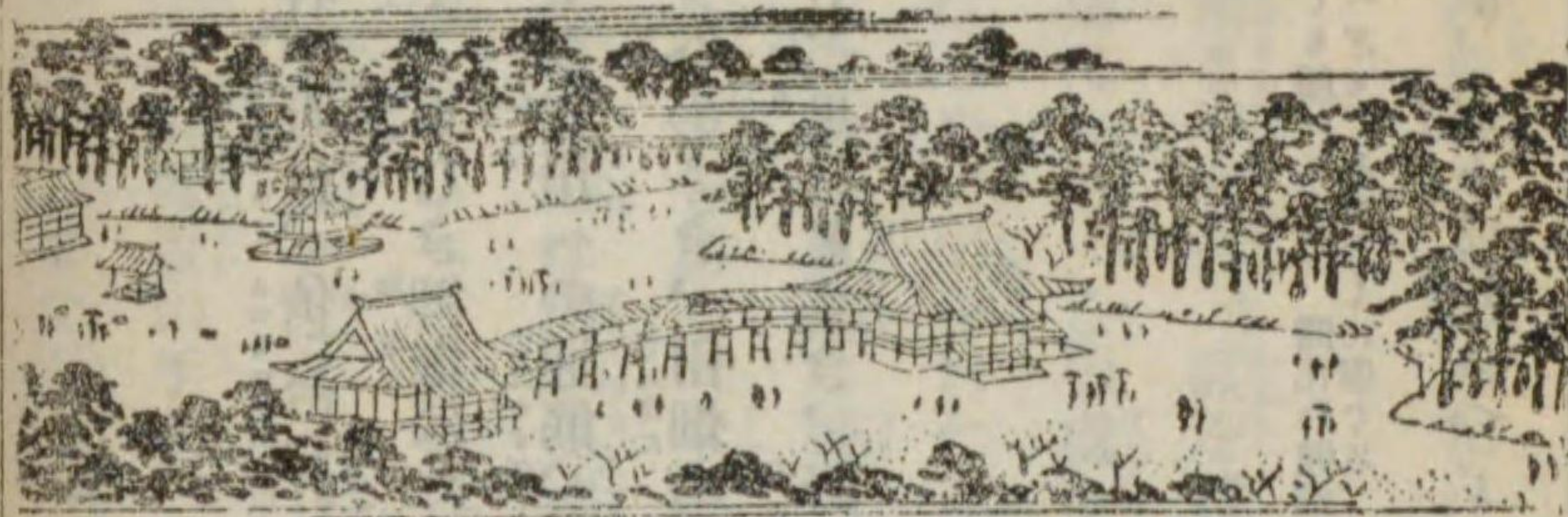


大梅



部

上野の  
東叡山

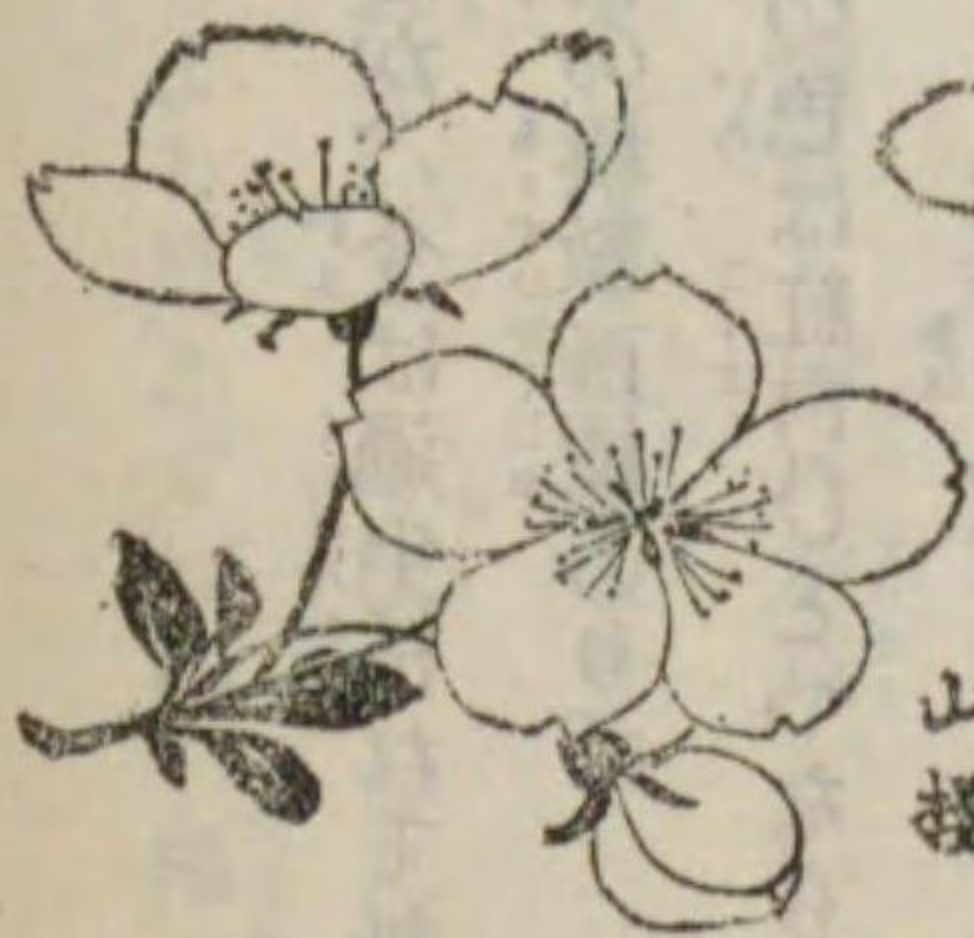
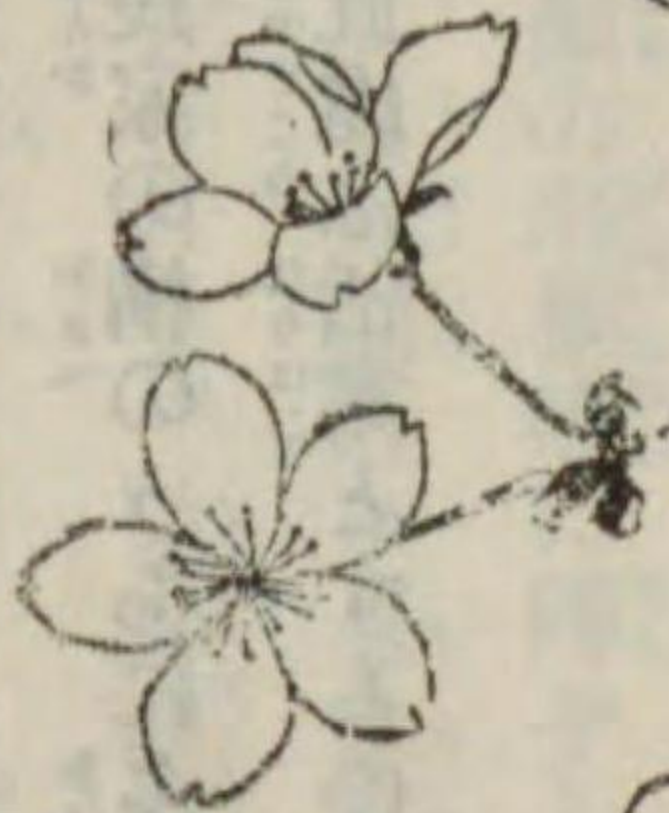


紫翠

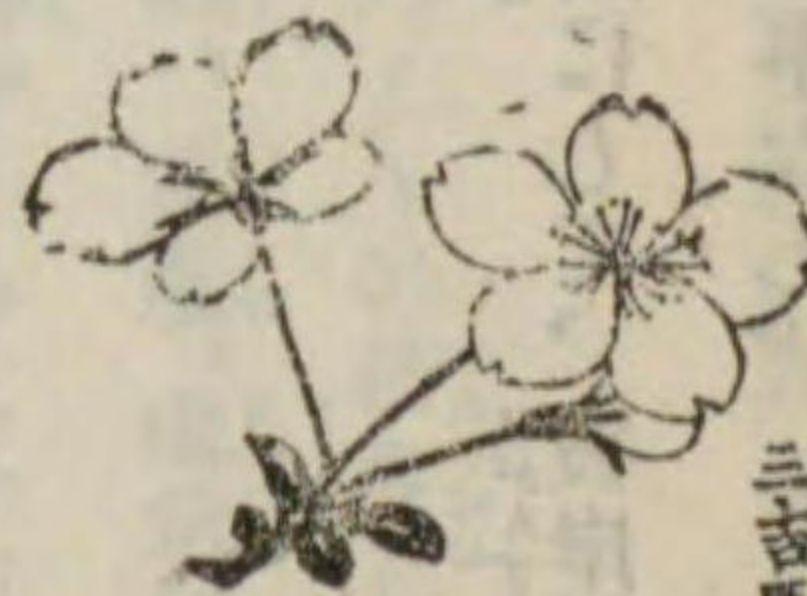


彼岸

水上



山桜



三浦

一糸櫻 同六十日目 慈眼堂の前通り、坊中、寒松院、等覺院、護國院

一イヌ櫻 同 彼岸櫻に似て、花形大きく異なり。中堂の西、寒松院の前より、谷中のかたへ

行く道より左の方に、大樹一本あり。是當山の花の咲初なり。

一大佛の邊 同六十日目 一四軒寺 同 一車坂 同 一山王社頭 同 一清水觀音 同

清水觀音のうしろに、秋色櫻といへるあり。是は大般若と呼びしむかし、小網町菓子屋のむ

すめ、お秋といふもの、十三歳のとき、花見に來りて、

井のはたの櫻あぶなし酒の酔

秋色

此句、宮の御聽に達し、御感ありしとなり。この少女秋色とよびて、後俳諧の點者となれり。寶井其角が點印を附屬す。

紫一本に、

東叡山黒門より仁王門までの竝木の櫻のしたに、花見衆なし。松山のうち、清水のうしろに幕をはしらかして、見る人おほし。幕のおほきときは、三百餘あり。すくなき時も、二百あ

まり有り。此外につれだちたる女房の上著の小袖、男の羽織を、辨當かよけたる細引にとほして、櫻の木にゆひつけて、かりの幕にして、毛氈、花むしろしきて、酒飲むなり。鳴物はならず。小歌、淨瑠璃、踊、仕舞もとどむる事なし。本町通り町をはじめ、有徳なるも、さもなきも、町かたにて、女房むすめ、正月の小袖と云ふは仕立てず、花見小袖とて、成るほど手をこめ、結構のだてなる物すきにしたるを著て出づるなり。花よりなほ見事なり。花の頃は、空くもりて、おほくは晝過より雨ふる。しかれども傘をもささず、よき小袖をすきとぬらしてかへるを、遊山にも、また手がらにもする也。云々。

この文は天和中のありさまを今見るがごとし。

當時の婦女の小袖は、結構と雖も、絹袖をかぎりとす。今より見れば、其質素なる事甚し。

○彼岸櫻

花屋鋪 同五十日目 番町 厩 谷杉田家のやしきをいひしなり。今厩 谷松平氏のやしきをいふ。

天明の頃は、佐野善左衛門殿の第宅なり。大樹にて、櫻やしきとも唱ふ。

成子乗圓寺 同 四谷新宿のさき、堀内道にあり。是又大樹なり。ちかきころ、大門の左の方

なる明地へ、櫻の苗木を植込みたり。

無量山壽經寺傳通院 同 小石川安藤坂の上なり。此境内にあり。また大黒天の社地にも多

くあり。

正念寺 同 駒込土物店新道なり。この梵刹は櫻多くある故、里俗是を櫻の観音といふ。

寶珠山延命院 同 谷中日暮里妙隆寺へ行く道の角なり。

日暮里 同 谷中日暮の里は、江戸鹿子、江戸摠鹿子、紫一本等に、谷中新堀と見えたり。且

摠鹿子の山の部に、新堀山と載せたるは、今俗の道灌山と唱ふるこれなり。また紫一本に、

堀の部に、新堀としして、所のものは日暮里といふ。かよれば天和の頃、音訓かよはし

て日暮里と書けるにや。好事のものゝ所爲なるべし。後亦日暮里を日ぐらしの里と唱ふるほ

どに、終に舊の名をばよばずして、日ぐらしとのみとなふるもの多かり。此地彼岸櫻より咲

きそめて、彌生のすゑまで花あり。この末櫻の部には別にいださず。いま日ぐらしの里と唱  
への定りしは、修性院の庭中なる 碑を見て知るべし。

たれとなく咲きそふ花のかけに来てけに日暮の里ぞ賑ふ 従一位資枝

木下侯庭中 同 麻布廣尾にあり。幹の太さふた抱半、南北へ廿一間壹尺餘、東西へ十九間餘

たど小山に雪をあびたるがごとし。花の頃は見物をゆるされしが、近き頃止められたり。

慈眼山光林寺 同 麻布新堀ばた、當寺はもと市兵衛町の邊にありしとなり。この境内に大樹

あり。しだれたる枝は地につきて瀧の落つるがごとし。此花の色、成子乗圓寺の花によく似

たり。この光林寺の前、新堀のむかふを、すべて廣尾の原と唱へ、櫻の咲きいづる頃よりし

て、貴となく、賤となく、おもひくのわりご酒肴をもたらし來り、毛氈、花筵をしき、こ

こにまとるし、かしこにたむろして、打興するありさま、天和の頃の光景を思ひいづるばか

りなり。

牛天神 同 小石川別當龍門寺、この山中花多し。門前をながるとは、神田へかよる上水なり。



○櫻

隅田川堤

同七十日頃

隅田村

隅田(スダ)の文字のかきざま、古書に

隅田川は江戸第一の花の名所にして、

此花は、享保の頃、依三台命植ゑし處の物にして、今も枝を折る事を禁ずるは、諸人の知る所なり。堤曲行にして、木母寺大門へ向ふ所、左右より、櫻の枝おひかさなりて、雲のうちにいるかと思ふばかりなり。この地は、櫻にかぎらず、四時ともにいとよき地なれば、都より下りたまふやんごとなきおほんかたも、ひとたびは御遊覧あるなり。

伊勢物語

むさしの國と、しもつふさの國との中に、いとおほきなる川あり。それをすみだ川といふ。その河のほとりにむれるておもひやれば、かぎりなく遠くも來にけるかなと、わびあへるに、渡守、はや舟にのれ、日も暮れなむといふに、乗りて渡らんとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さるをりしも、白き鳥の嘴と脚とあかき、鳴○

おほきさなる、水の上にあそびつゝ魚をくふ。京にはみえぬ鳥なれば、みな人えしらず。渡守にとひければ、これなむ都鳥といふをきとて、

名にしおはばいざこととはむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

在原業平

道興准后 回国雜記

かくて隅田河のほとりにいたりて、みなく歌よみて、披講などして、いにしへの塚のすがた、哀さ今のごとくにおほえて、

古塚のかけ行く水のすみだ河聞きわたりてもぬるゝ袖かな

同行の中に、さどえを携へける人ありて、盃酌の興をもよほし侍りき。猶ゆきくゝて、川上にいたり侍りて、都鳥たづね見んとて、人々さそひけるほどに、まかりてよめる。

こととはむ鳥だに見えよすみだ河都戀しと思ふ夕べに

思ふ人なき身なれども隅田河名もむつまじき都鳥かな

梅柳山隅田院木母寺

隅田村にあり、大門を入りて右の方に小池あり、この邊に大樹の櫻

あり。境内一の佳木なり梅若丸の墓は本堂のかたはらにあり。むかしの柳は枯れて、株のみ  
 のこれり。若木の柳を植ゑ添へたり。その柳のもとに小社あり、山王の社となへ、梅若丸  
 をまつるといへり。當寺の什物多き中に、梅若丸の母、妙龜尼の畫像、是等を就中什寶とな  
 す。梅若丸忌日三月十五日とし、ことに參詣群集す。梅若丸の説は、諸書に考へあれば、こ  
 こにもらしつ。

來て見れば植ゑし柳のしるしのみ春風渡る隅田河原に 一條關白康道

吹く風ものどけき花の都烏治れる代のことやとはまし 少將内侍

わたりする人もあはれやまさるらん隅田河原の春の曙 内大臣基家

羅山子

漾々溶々一葉身 河邊秋景只懷春

自從在五詠歌後 流水飛禽愁殺人

隅田河八景

隅田秋月 關屋落雁 潮入夕照 橋場夜雨

待乳山晴嵐 駒形歸帆 洲崎晚鐘 富士暮雪

水神社 木母寺の門前より左の方へ三丁ほど行けば森あり、ちかごろ風流の遊客、櫻を植ゑ

添へて、堤と同時に花盛なり。

新吉原 山谷にあり。毎年三月朔日より、大門のうち中の町通り、左右を除けて中通りへ櫻

數千本を植うる。常にはこれ往來の地なり。としごとの寒暖によつて、花遅ければ朔日より

末に植込むこともあり。葉櫻になりても、人なほ群集す。此地慶長年中までは、麴町、鎌倉

河岸、大橋、今の常盤、柳町、岸の通、同十年の頃、柳町御用地になり、元誓願寺前にうつる。其

後庄司甚右衛門といふもの、願によつて、元和三年三月、傾城町一ヶ所に仰付けられ、堺町

の邊にて二丁四方の地を下さる。此地葭茅の沼なりければ、葭原とよぶべきを、吉の文字に

書きかへたりとぞ。當地へ移りたるは、明暦三年なり。此頃は、みな遊里へ馬にてかよひけ

るなり。いま馬道といへるは、この餘波なり。寛文の頃までも、此姿をうしなはざりしと

西のへ 賑

また

花の

小廓

新吉原



阿房子  
三千の官  
何丸

何丸

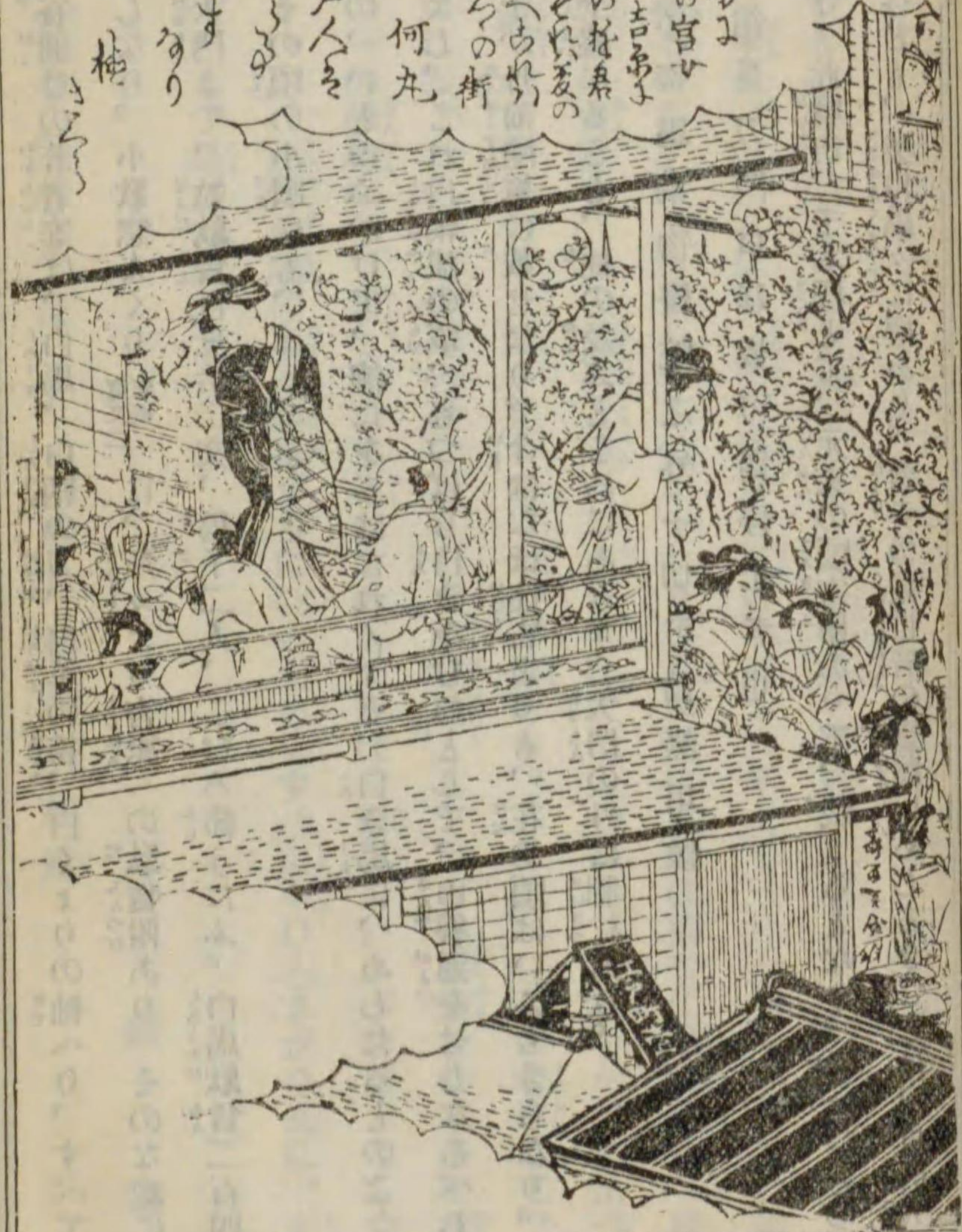
江戸人

あ

す

あり

梅



みえて、三谷通ひの若者等は、白馬、白鞆の刀、白革の袴、白くよりの袖へり、すべて白きを風流とせしなり。小歌惣まくりに、寛文二年所々より吉原への駄賃附あり。そのなかに、浅草見附より大門まで、竝駄賃百三拾二文、馬子二人、こむろ節うたふ。白馬駄賃二百四拾文とあり。又その頃の小唄にも、

春の日の、いとゆふかけて、柳たをるはたれくぞ、白き馬に、めしたるとのご

と唄ひけるよし、これ白鞆組の輩、もつばら白きをむねとして、山谷通をせしなるべし。委きことは、予が丹前隨筆に載せたり。今はなほ往古よりも、花の頃はいふもさらなり。四時晝夜ともに全盛なること、他の及ぶところにあらず。大門の外に制札あり。

一何者不寄馬乗物醫院之外一切可爲無用候

附鎗長刀門口江皆可爲停止者也

金龍山浅草寺 此境内、千本櫻とて、元文の頃寄附ありて、栽うるとなり。今はひとつ處にあらずといへども、奥山處々に櫻あり。當寺の觀世音の靈驗いちじるきことは、世の人みな

知る事ながら、その要を摘んでいはん。抑人皇三十四代推古天皇の御宇、進中臣といふ人、あやまれることありて、こよに左遷せらる。其臣檜熊、濱成、武成といふ三人の兄弟、主人の跡をしたひ來り、中臣に仕て漁を營む。推古帝三十六年戊子三月十八日、三人の兄弟宮戸川の沖に網をおろすに、あやしきものかよれり。月かけに見れば觀音の佛體なり。則ち草をむすびて此像を安置す。その翌日近邊の草刈わらは、十人つれて、朝草をかりに出づる草陰より、光明かどやきたり。驚き見るに、大悲の像あり。この處へ三人の者來りて、しかじかの事をかたる。おのく奇異の思ひをなし、藜を柱としてかりの草堂をむすびて尊む。この處、今の一の權現なり。藜をもつて作れるあとなれば、藜堂といふべきを、今あやまつてあかん堂といふ。此外奇瑞の事は數擧ぐるにいとまあらず。山中ひろきがゆるに、末社靈物多しといへども、是には説かず。

蕉 窓

浅草寺中春不浅

百花如海人相趁

鼻觀圓通有勝因

香風更送鐘聲轉

神田大明神社頭 同七十二三日頃 本宮のうしろに櫻あまたあり。又東のかた茶店よりのぞめば、  
 浅草、本所、築地のほとりまで、眺望他にこえたり。祭る所の神、大巳貴命、平將門の  
 靈二坐、内外神田の産土神にして、祭禮隔年九月十五日なり。東都の大祭なり。社傳に曰く、  
 人皇四十五代聖武天皇天平二庚午鎮坐、往古は神田とて一國に二ヶ所の御田ありて、大神宮  
 へ初穂の神供を納む。當國は豊島郡芝崎村にあり、大巳貴命は地主の神なれば、其處に多  
 く此神を祀るなり。足立郡に神田村と云ふあり、其類ならんか。將門の靈を祭る事は、人皇  
 六十一代朱雀帝の御宇、平將門むほんを企てしかば、天慶三庚子二月十四日、平貞盛、  
 藤原秀郷、是を征す。其頃將門の弟御厨三郎平將頼、武藏國多摩郡中野古戰場に、その猛  
 氣とどまり、人民をわづらはしむること年あり。延文の頃、一遍上人三代眞教坊、當所遊行  
 のとき、村民此事を歎く。その黨の長なれば、將門の靈を相殿に祭りて、神田大明神二坐と  
 す。かたはらに草庵を立てて、芝崎道場と呼ぶ。これ神田山日輪寺なり。芝崎村はむかし大

炊殿橋、今神田橋のうちなり。神職の芝崎と名乗るも、此在名なり。

櫻馬場 昌平坂聖堂西の方横手の馬場なり。むかしは櫻楓の大木ありて名とするよし、今は

柳のみなり。常に御旗本方弓馬騎射の稽古あり。

天澤山龍光寺 同七十日頃 駒込土物店にあり、此境内に御所櫻といふあり。寛永の頃、依二台命一

都よりとりよせたまひ、この梵刹に賜ふ。今本堂の前にあり、古木の太樹なり。

諏訪山吉祥寺 同七十五日頃 駒込に有り、大門より本堂まで壹丁程のあひだ、左右櫻の並木な

り。當寺むかしは今の水道橋の外に有りしを、此地にうつさる。故に水道橋を、いにしへ吉

祥寺橋と唱へしとなり。駒込に引移る事は、由緒あれども、寺傳に譲りて是にいはず。

白山神社 小石川指谷にあり。別當中井氏。此社地に旗ざくらといふ有り。永承六年、阿倍

一統を征伐として、義家公奥州へ發向の街道なり。其時此櫻に旗を立てたまひ、八幡宮を勸

請せんと祈誓により、この名あり。花に旗のかたちあるといへり。

花溪山道榮寺 同七十日頃 小日向服部坂のうへにあり。

飛鳥山勝景

筑波茂陰

はつちの木の影もさかすか  
あつちの木の影もさかすか

王子深樹

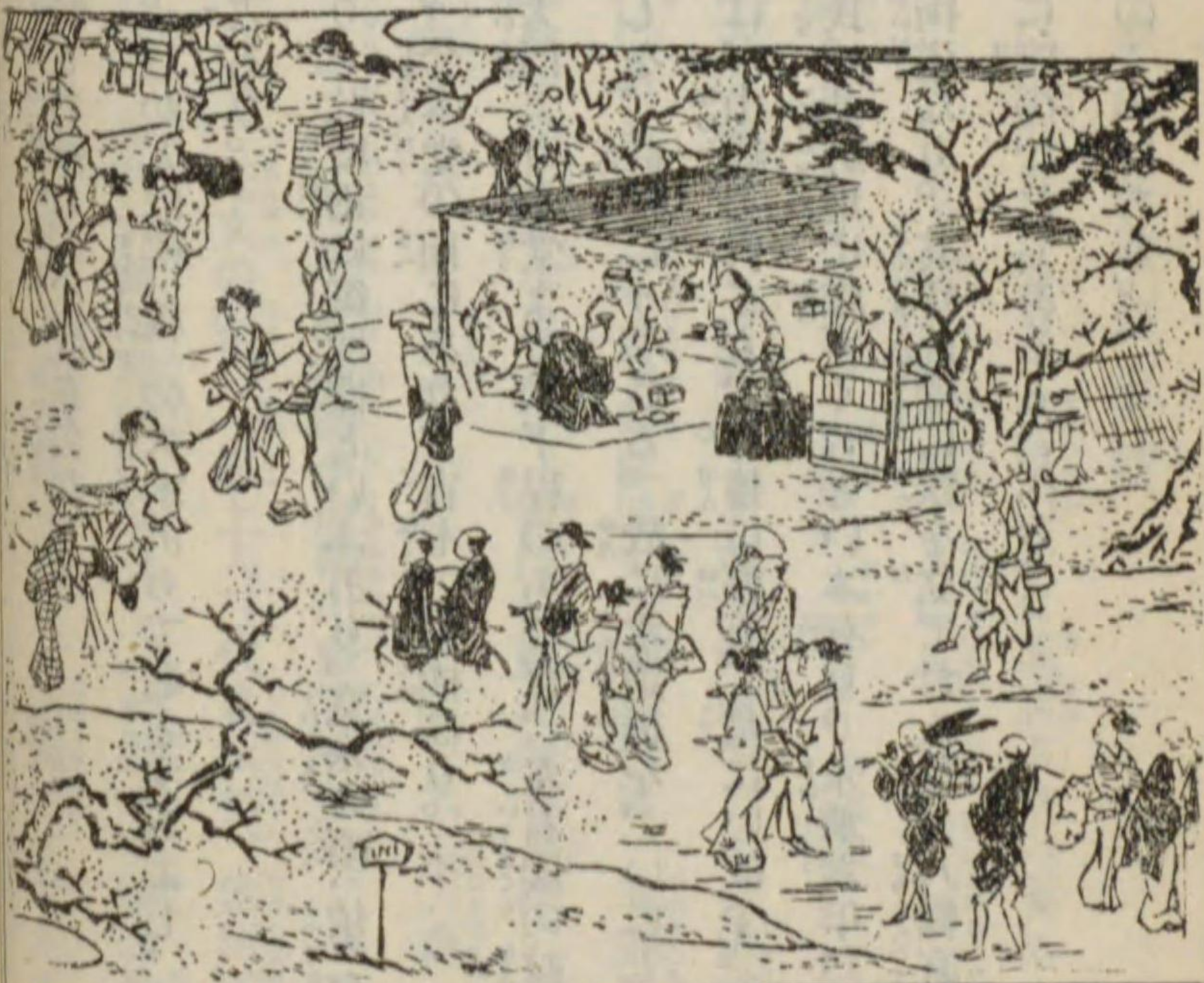
あふらふ深樹を渡りて  
あふらふ深樹を渡りて

瀧野河夕照

夕日さかす瀧野河の  
夕日さかす瀧野河の

鴻臺秋月

月さかす鴻臺の  
月さかす鴻臺の



深井夜雨

あふらふ深井の雨もさかすか  
あふらふ深井の雨もさかすか

西原晴嵐

あふらふ西原の嵐もさかすか  
あふらふ西原の嵐もさかすか

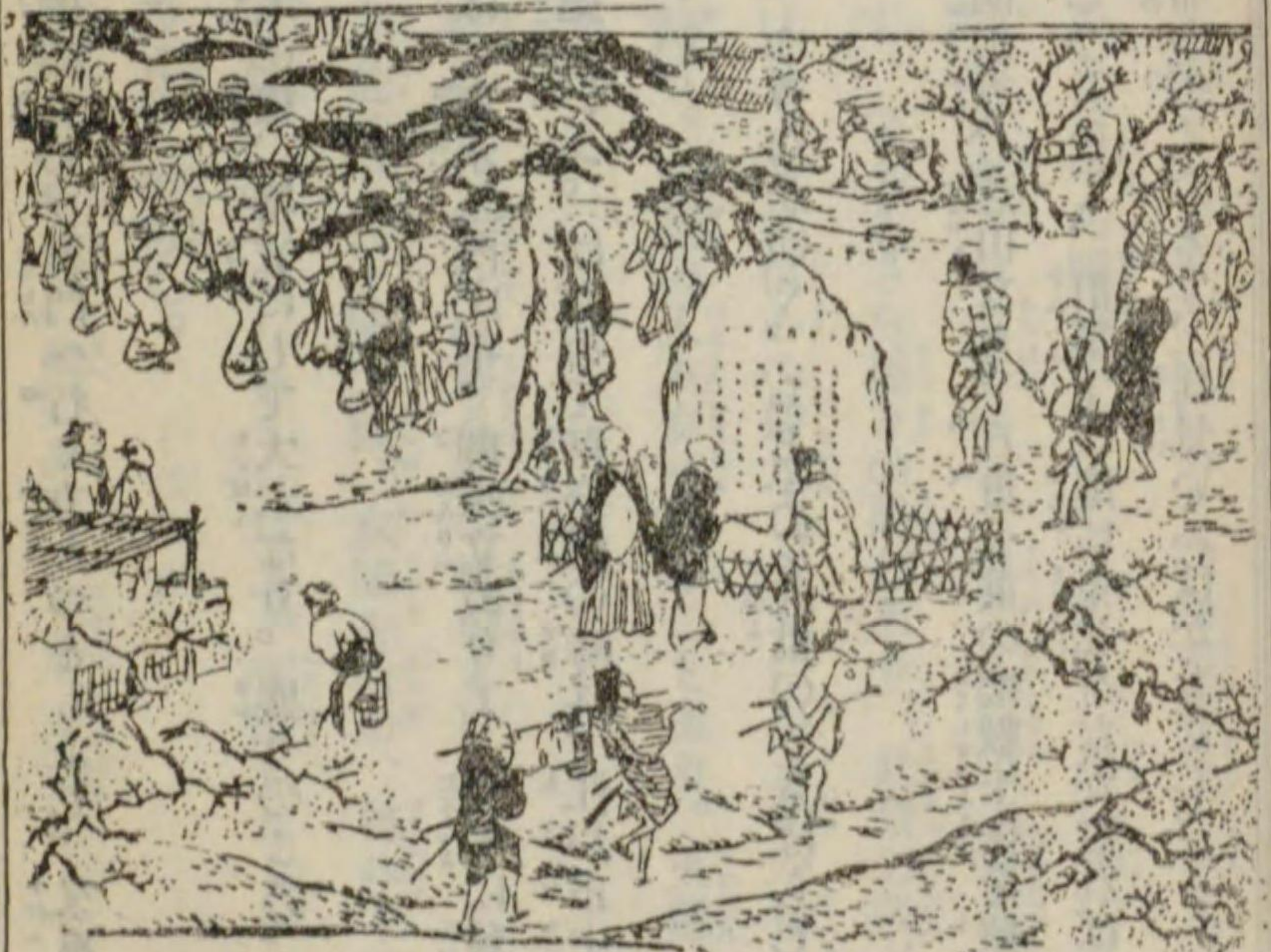
豊島河帰帆

あふらふ豊島河の帆もさかすか  
あふらふ豊島河の帆もさかすか

秩父遠影

あふらふ秩父の影もさかすか  
あふらふ秩父の影もさかすか

右賜道人



長耀山感應寺

同

谷中にあり、境内に櫻樹多し。裏門へ行く方もつともよし。又風呂屋の

前に淺黄櫻の古木あり、八重にて薄青し。

慈雲山瑞林寺

同

同所大門のうち、左右の櫻、箒立にして大木なり。盛りのころ、見物も

つともおほし。

根津權現境内

同

根津にあり、此御社は、寶永三丙戌年、御建立ありて、當所に移る。元

御社は麻布長坂うへ、今世繼稻荷の社の處をいふ。はじめて御祭禮の時は、江戸市中より出

でたるよし、其ころ幼兒の口ずさみに、

寶永祭は見事な事よ、誰も見にゆけ、ゆきななかゆく、ちとまた此世のうさばらし云々。

今も童幼の口碑に残れり。

飛鳥山

同

淺香山とも。王子權現より南の方、芝山なり。八重一重の櫻數千株を植ゑさせ

られ、花盛の頃は、木の間に假の茶店をしつらひて、群集す。遙に東北をながむれば、足立

郡の廣地眼下に見えて、荒川のながれ白布を引くごとく、佳景いふばかりなし。

王子權現境内

同

飛鳥山の麓、石神井川を渡りて、王子村にあり。別當禪夷山東光院、金

輪寺社頭に櫻多し。毎年七月十三日祭禮あり。午の時過よりはじまりて、申の刻のはじめ

にをはる。俗是を鎗祭といふ。甲冑の法師四人太刀を七本はき、内二人白刃の薙刀を突き

て出づる。それより花笠を冠れる法師集りて、びんざさら種々の學びあり。此祭の段どり、

赤得水の書きしを、今も神樂堂の正面にかけり。また信心の輩思ひくく、に小き鎗を拵へ、神

前にさよけ置きて祈念なし、又いたゞきて歸る。參詣の人々交易することあり。火難、賊難

を除けるといふ。東都第一古雅の祭禮なり。

岸稻荷社

同

是を王子稻荷と唱ふ。金輪寺持なり。當社は關八州の統領といへり。この社よ

り五六町を隔てて、裝束榎といへるあり。是にて八ヶ國の狐、衣装を改め、毎年十二月晦

日の夜、狐火を點す。この火に隨ひて近民田畑のよしあしをうらなふ。刻限おなじからざる

ゆゑに、遠方の人々は、一夜とゞまらざれば見る事難し。

右衛門櫻

同七十五日頃

四谷の末、柏木村延乘寺藥師堂の前にあり。花形大輪にして、しべ

長く、匂ひ茴香に似て甚だ高し。柏木の右衛門櫻と名付けたる説には、武田右衛門といふ浪人あり、すぐれて此花を愛す、老木にて幹木の枝枯れたり、右衛門歎きてあらたに若枝をつぎ、續木の妙手を得たる人なれば、枝葉榮えて、花もむかしの色香をなせり、右衛門が續木の櫻なれば、いつとなく右衛門櫻といふ。幸なるかな、所を柏木村といへば、源氏の柏木右衛門に因みて、名高き木とはなれり。

金王櫻 同 澁谷八幡宮境内にあり、別當東福寺久壽年中、源義朝、鎌倉總ヶ谷の館に植

ゑられし憂忘櫻を、金王丸に賜ふ。領知澁谷にもて來り、鎮守八幡のみづがきのほとりに植ゑるとあり。

三縁山増上寺 同七十七日目頃 芝切通より赤羽根への通路、近き頃開けし道筋左右に櫻樹夥しく植ゑたり。

御殿山 同 西品川、寛文の頃、吉野のさくらの苗を植ゑさせ給ふ。今古木となりて、花殊にうるはし。朽ちたる木の傍には、若木を植ゑ添へて、盛の頃は雲か雪かとうたがふ。向

ふを望めば、安房、上總の山々霞のうちにはほのみえ、諸國の船も眞帆あけて入津する光景、いはんかたなし。

海賞山來福寺 同七十八日目頃 品川鮫洲大井村御林町なり。延命櫻といふをもつて、櫻中の佳

品とす。むかし梶原が植ゑしといひ傳ふ。

二十八品の櫻

- 有明 ○楊貴妃 ○彼岸 ○愛染 ○普賢 ○虎尾 ○ひとより
  - 大手毬 ○小手毬 ○人丸 ○山櫻 ○遅櫻 ○牡丹櫻 ○大挑灯
  - 小挑灯 ○志賀 ○初櫻 ○鹽がま ○八重 ○夜の雪 ○薄雪
  - 山楊貴妃 ○車返 ○大しだれ ○小しだれ ○墨染 ○吉野 ○延命
- 西光寺 同 同所世に大井の櫻と唱ふるは、此境内本堂の前の古木なり。今は老木となりたり。大井となふる井のあるは、西福寺の地中なり。

元八幡宮 同七十七日目頃 砂村新田の東の海手なり。當社花表の額に、富賀岡八幡宮とあり。四

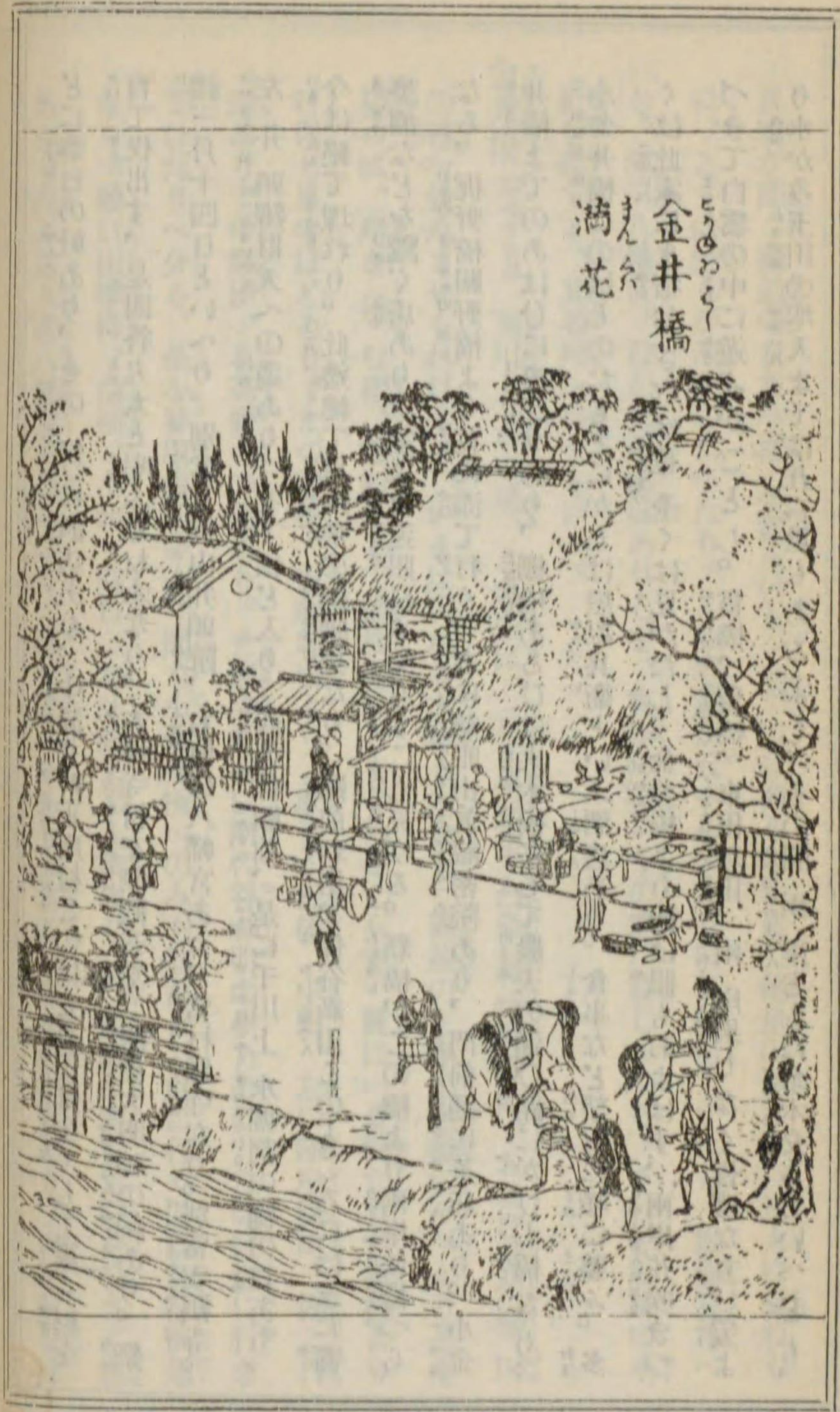


五町が間、野道の左右へ櫻を栽えけり。南には海をひかえて絶景の地なり。里人に尋ねしに、こゝは袖しが浦とこたへたり。この老翁が云へるばかりにては信じがたし、猶鑿穿すべし。深川八幡宮、むかし此處にありしを、寛永の頃、今の地に移しまつる。されども是に小社を建てよ、其名残を存すといふ。

金井橋 同七十目 玉川上 水の堤、この櫻は、元文年間依二台命二和州吉野山、および常州櫻川の種を栽えさせられけるが、いまは何れも大樹となりて、開花のとき、金橋のうへより是を望めば、岸を抜む櫻、繽紛として前後盡くるところをしらず、實に一奇觀たり。東都より行程七里半ほどあり。まづ四谷、内藤新宿より、成子、淀橋、中野、左に鍋屋横町、堀之内道あり、中新田、右高野への道あり。光圓寺村右に阿佐谷神明のみちあり、この村遙に行きてひだりへ分る、是を砂川道といふ、則ち小金井橋へのみち筋なり。直に行く道は青梅街道なり。關口田畑村、白幡、小崎、關口より此村まで人家なし漸此處に酒もちひをひさぐ店あり、向ふに大宮八幡宮の森みゆる。柳久保追分あり。右五日市左府中とあり。大宮前中は

どに春日の社あり、その傍に酒店あり、中高井戸正庵村このほとり田畑少くして専ら杉を育て伐出す、是四谷丸太と唱ふる材木なり。吉祥寺村左側觀音堂、淡島大明神の祠あり。祭禮三月十四日といへり。別當月秀山井頭院、右側に八幡宮あり、當村鎮守なり。別當安銀寺。左井頭辨財天への道あり。七丁ほど入り、西久保關前、是に千川上水堀割の樋の口あり。今は絶て埋れり。此邊總て尾州侯の御鷹場なり。關前新田、保谷新田このところにはまた蕎麥酒などを鬻ぐ店あり。爰より遠眼にさくらすこし見ゆる。新橋、この橋より兩岸に櫻つらなる。梶野橋關野橋より花に添て行く。右に慈眼山眞藏密院あり、門前通に茶店あり。小金井橋までのあはひに橋二ツあり、棚橋あるひは丸木橋にして農夫の通ひ路にかけし橋なり。小金井橋このはしのたもにかしは屋勘兵衛といふ酒店あり。食事など望むに頼に整ふ。多くは此家に止宿せざれば花全くは見がたし、金井橋より西は眼もおよばず、兩岸花咲きつづきて白雲の中に遊ぶがごとし。貫橋、留橋、車田新田、兩岸果しなく皆櫻なり。爰より水かみ玉川の堰入までは五六里もあるよし、その間兩岸ともに余木交るといへども、

こよわく  
金井橋  
まへ  
満花



縣麻呂

春比日の

のこもも

海河乃

ほろの

さくら

花さたぬ

あ



櫻おほし。留橋を南へわたりて國分寺の前通り、一里十二町ほどのゆけば府中の驛、六所明神の前へ出る。此驛の旅店にとまりて翌日明神を拜し向ふが岡のほとり小山田の關跡、野保天神、所々參詣遊覽して甲州道中通り新宿へ歸りてもよし、委くは予があらはす金橋道標を見  
て知べし。

詩 佛

野蝶山蜂行作媒

彎環路盡到溪隈

小金井畔知花老

一道清流浮雪來

聞き渡る天の河原か咲く花の雲のなかゆく水のひとすぢ  
春風に香をとめくればみなかみのうき立つ雲は花にやあるらん

橘千蔭  
平春海

○梨花

なまむぎ村

同 七十日頃

東海道川崎驛のさき、

大森のほとりより

大師河原へ行く

道六郷川崎の

邊一面なり。

しもつふさ八幡 市川のむかふ中山のほとり、農家活業となす故各柵に作りて養ふ。  
南新川 同 利根川の上雷不動の脇、農家新平の園中二千坪余のうち一面。

○欵冬 又 山吹

下平井村

同 七十日頃

聖天の境内是かしこにあり。

咲出でてより盛久。

寶松山金性寺

同

本所押上、

開山法印朝尊和尚、

觀喜天をまつれり、

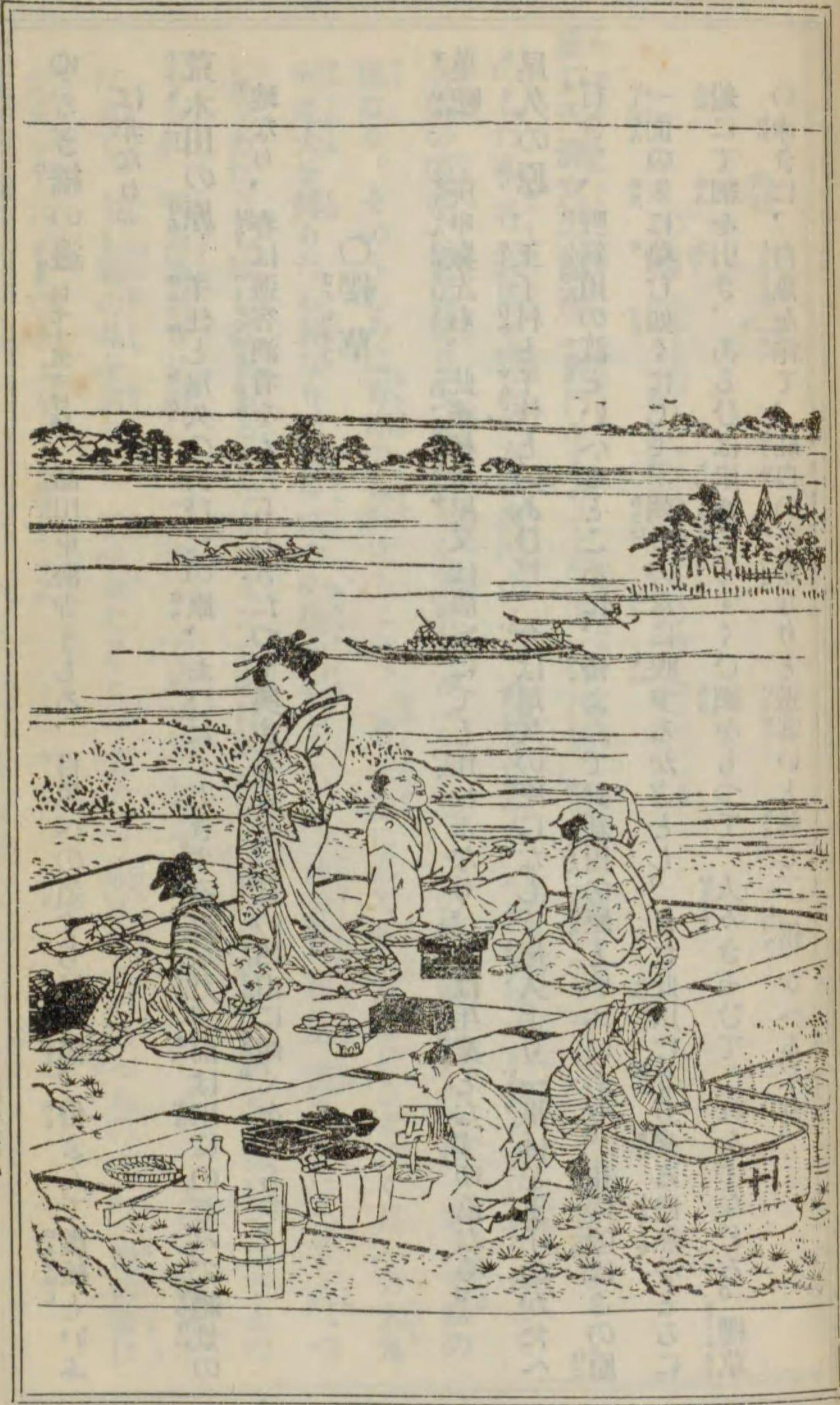
靈驗いちじるしく人み

な信心す。

三圍稻荷境地の回 境内の外は都て田なり。枝はみな田の中へ臨みて花咲けり。いと見事なり、今は是も門の左右石の玉垣となりて、山吹減じたり。

○葶草

尾久原  
桜茶



ゆるぎ橋の邊 同七十五六日頃 品川東海寺うしろ、目黒への道すぢ居木橋、俗よんで震橋といふは非なり。

荒木田の原 千住と尾久のあひだの原、おびたどしきすみれなり。前は川にのぞみて絶景の地なり、春は遊客酒香をもたらしきたつて興すること、日の西山に傾くをしらす。

○櫻草

巢鴨 庚申塚左右、此邊植木屋又は農家にても作れるなり、こは生業となすゆゑなり。

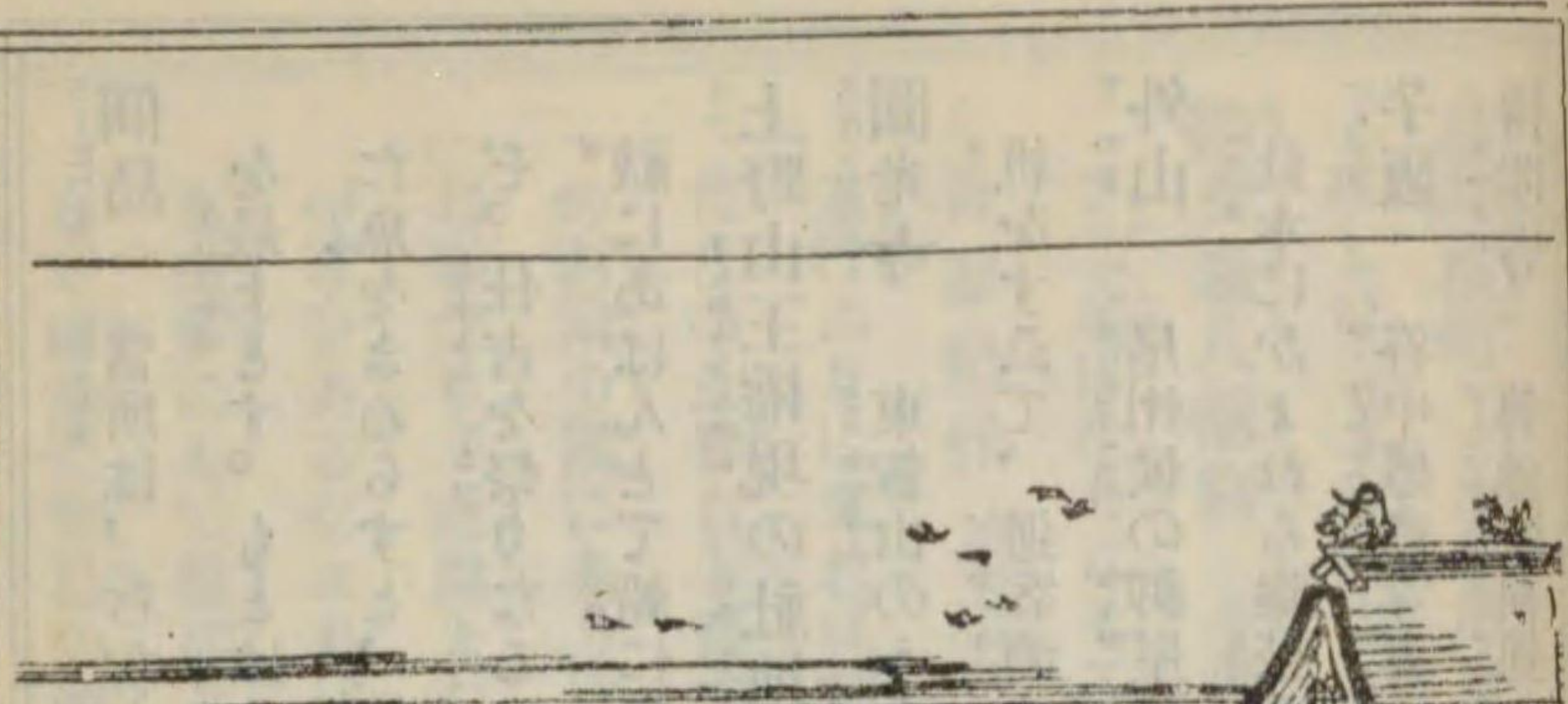
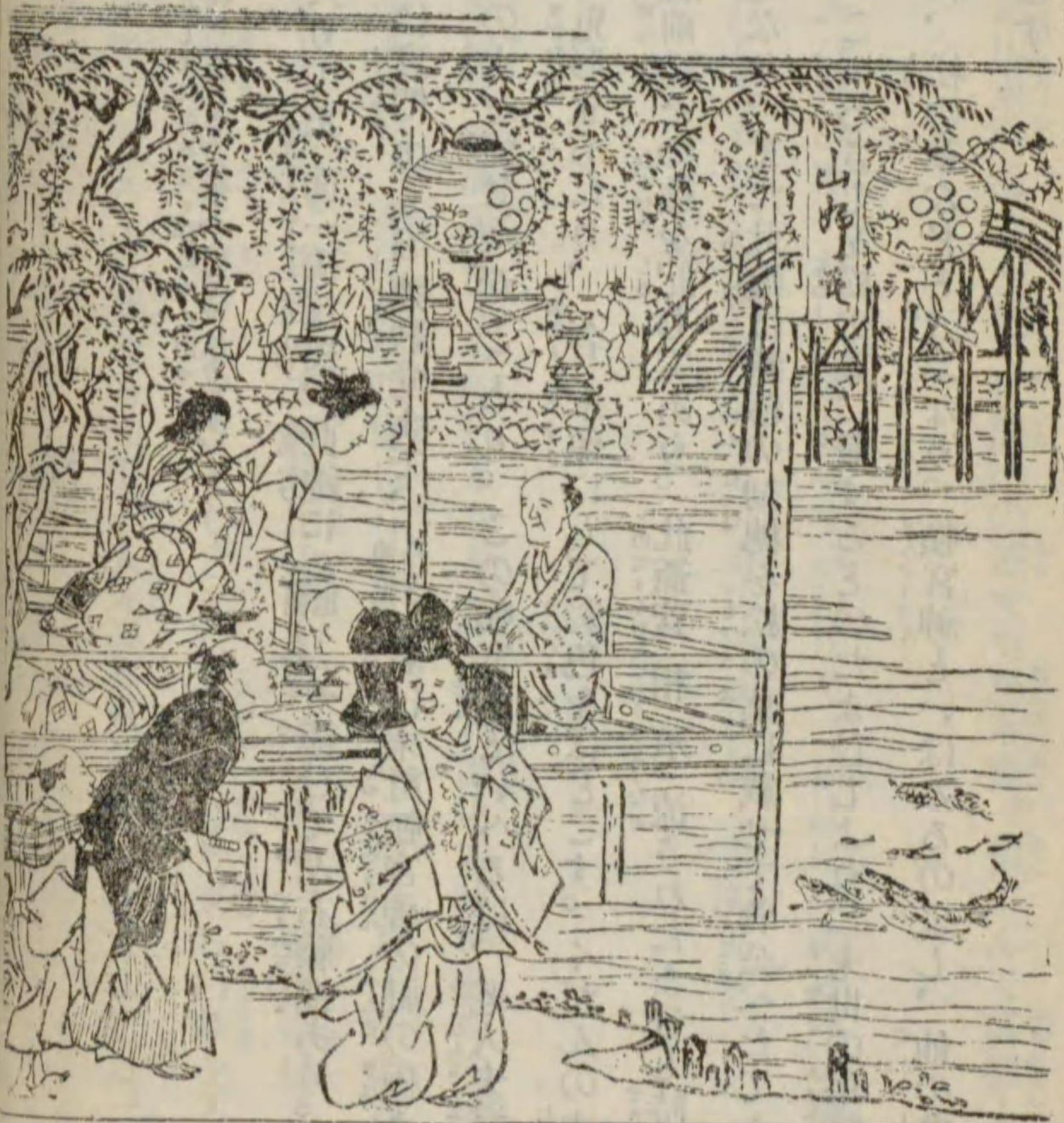
尾久の原 王子村と千住とのあひだ、今は尾久の原になし。尾久より一里ほど王子のかたへ行きて、野新田の渡といへるところに、俗よんで野新田の原といふにあり。花の頃はこの原一面の朱に染む如くにして、朝日の水に映するかごとし。また此川に登り來る白魚をとるに船にて網を引き、あるひは岸通にてすくひ網をもつて、人々きそひてこれをすなだる。櫻草の赤きに、白魚を添て、紅白の土産なりと遊客いと興じて携かへるなり。

卷之二

○藤 藤これよりつくじきりしまに至るまで春の末に出すべきなれど、丁敷の厚薄によつてこの巻のはじめにいたす。

龜戸天満宮の池邊 表門を入りて正面一の反橋、此池に 此池を心字の池と云ふ 添ひて左右藤棚あり。このしたに 各茶店を構ふ。左は裏門のうち 連歌堂まで、 連歌堂 今なし 右は末社頓宮社の社の極まで 眞盛の頃は、池に移りて 紫の水を流せるがごとし。この頓宮神といへるは、老人夫婦の像なり。そのうしろに 青赤の鬼形立ちたり、 各木像にして 彩色をほどこす。くだんの大鬼形老夫を縛りたる躰なり。社前にその趣を記してあり。此爺菅相丞流されたまひし時、つらくあたりし故しばらるとなり。また此廻は麴飯の初穂を松の葉に載せて菅公へたてまつりしに、菅公感せさせ給ひ、こよろざしを松の葉に載するとのたまひしより、末世の俗語となりて、今も聊の品を送るに、松の葉などと云ふなり。頓宮神といはるるのよし、他の書に見えず、たゞそのまゝをしるす。

名所  
魚戸  
天満宮



佃島

當所は、むかし攝津國、佃の漁獵の者拜領す。今に公に魚を奉る。とりわけ白魚を最上とす。もとはこの島安藤右京進殿御屋敷なりと、いま安藤家より米を給はれば漁人また魚をまるらすと、彼の家抱の獵師の遺風なりと。藤を植ゑたるは右京進殿墓じるしなりとぞ。住吉を祭りたるは夫より後の事なりといへり。藤今は絶たり。六月晦日には住吉の荒和祓にあはんとて船にて參詣多し。

上野山王權現の社地

古へは多くありしよしなれども、今はたえて纜に一株を存せり。

圓光寺

東叡山のうしろ根岸にあり。庭中柵廿間餘にかけ渡したり。盛の比はそのもとに床机をすゑて、遊客酒くみかはして、いと興するなり。

外山

尾州侯の御屋敷の脇、大久保通へ出る道筋、御家人衆の構の内、大木のもみの木あり。此木にかよれる藤枝々にまとへるありさま、見あぐるばかりにして紫雲の柵引が如し。

芋阪

谷中感應寺裏通 本村のうち、根岸坂本へ出る道に酒店あり。その軒近きにあり。

傳明寺

傳通院前通おたんす町の左のかたへ下る坂なり、是も俗よんで藤寺といふ。

藤棚横町

小石川白山御殿跡大通、櫻井氏にあり。昔は一面の藤棚のよし、故に里俗藤棚横

町といふ。今は古木より若葉は出れども花なし。

鈴ヶ森八幡宮

品川に在り境内所々に藤あり。一名盤井の神社、當社に鈴石といふあり。大

ざ二尺ばかりにして、色青赤し、他の石をもつて是をうつに、その音鈴の如し。

吾妻紀行

道行ぶりに見れば鈴の森にちかし、入りてやしろを拜す、此石轉すれば石の中にその聲颯々たるゆる鈴石と號す。また烏石といふあり、いにしへは鷹石といへるよし。ゆるあつて社地の西南の隅にあり。抑當社に沖の鳥居といひて、五七町沖中にありしと、是鎌倉鶴岡におなじ事なり。此處また境内にして、漁獵禁斷の處なり、此場を除きて網引するに、漁人甚わづらひあるにより、是をなげきて詫しけるに、ゆるさしむとなり。石の鳥居の沖にありしは古の事にして柱のみ残りしが、寶永の地震に折れたりとて、そのもとは水中にのこれりといへり。或説に笠島の神社の鳥居なりといふ。鈴ヶ森と笠島とは一社といふ。又笠島の社は絶たり

ともいふ。盤井の神社は神名帳に明らけし。當社の説いろくあり、尙他人の説をまつ。鈴ヶ森の磯を、荒蘭ヶ崎といふ。いまの木原山なるべし。荒井宿村のうちなり。此山昔は往還にて、相州街道なり。この處宿場なることうたがひなし。むかし木原因幡といへる人久く領せしとなり。

白波の荒蘭の崎の磯馴松かはらぬ色の人ぞつれなき 源家長朝臣

○躑躅 きりしま ゑつぎ

染井植木屋 駒込通のさき、殿中松平甲州侯の御別館の脇を、左へ曲り行けば、數軒の植木屋あり。

穴稻荷の社地 上野御山内池の端のかたに門あり、その石階の邊にあり。此神靈驗いちじるし、信仰の輩多し、願あるものは神前にある處の白羽の矢をかりてかへり、願成就の時返し納め、また新なるを納む、このあたらしき矢は、門前の茶店にて發賣ぐ。

何事を忍ぶが岡のいはつゝじいはで思ひの色に出ぬらん 頼 圓

護國寺石階の左右 音羽町のさき、山號にて神齡山、本尊は馬腦石、如意輪觀音唐佛、元

祿年中に本堂御建立あり。此地は御樂園なりしを、御建立の時、御樂園は白山にうつさる。

本堂西の方の柱に木目猿の面に似たるあり、俗に是を猿はしらと號く。都て大江戶の丁數一

丁目二丁目は、御大城の方を一丁目とさだむるに、音羽町は護國寺門前の方を一丁目と定

む、故に順を追ひて目白のした、神田上水へ懸りたる橋は、九丁目の橋といふ。當寺本尊

開帳のみぎりは、やんごとなき御方の御奉納ありし御道具ををがましむ。唐木唐石をもつて

製したる品、和漢の古筆、金銀をちりばめたる御手道具、世に稀なる品あり。

大久保百人町 四谷大久保武家地の園中すべてあり。就中組屋敷を北のかたへ出づる門よ

り、二三軒てまへ、右のかた、飯島氏の園中に多し、殊に勝れたる映山紅の大樹あり、この

花八十八夜の頃盛なり。



○郭公

蛭蜋ヶ池 高田禪英山寶泉寺の境内にあり。この池にいもり多し、寛永の頃御放鷹のとき、池の名を尋ねさせ給ふに、名もなきよしを言上せしに、以後はいもりが池とよぶべきよし命ありしとなり。同寺毘沙門堂の小高き山のうへは、新樹空をおほひて涼しく、このあたりの森より時鳥鳴き初むるとなり。

初音の里 小石川白山御殿の舊地のほとり、指谷町へかけていふなり。此邊はつ音早し、ここより鳴きそむるといふ。

幸稻荷の邊 芝切通の上なり。増上寺の梢青葉さす頃は、一聲も二聲に聞ゆるといへり。

駿河臺 御茶水の茂み、此處もはやくより鳴き初むるなり。ほとよぎすを、冥途の鳥といへり、蜀王杜宇の古事にて名づくると、四手の田長又杵手鳥とも異名をいへり。華陽風俗録にいはく、杜鵑大きき 鵲の如し、羽黒し、その聲哀みて血を啄く、土人云く春に至りて其初聲を聞

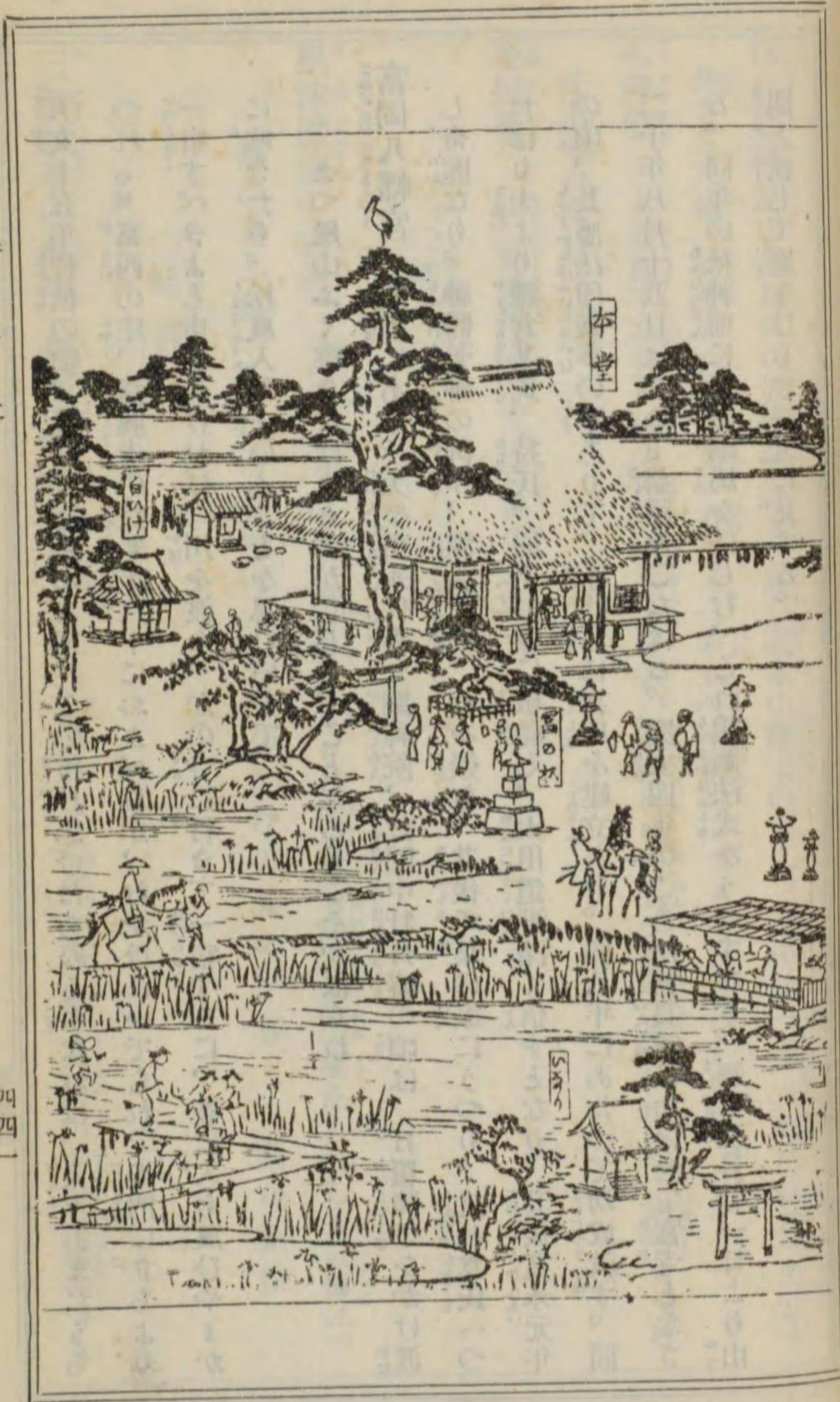
くときは離別の苦あり、これを聞くことを悪む、これ田家其鳴を候うて農事を起す、田長の名これによる歟。或説に、凡そ諸鳥皆三指只杜鵑のみ四指あり、その樹上に宿する時は二指は前に向ひ、二指後に向ふ。四手の田長は是をもて名づく。あるひは四手をもつて死出となすものは非なりといへり。

山鳥按ずるに、諸鳥みな三指只杜鵑のみ四指とあれども、みな四指にして、前に三指、後に一指あり。郭公は前も二指後も二指なり、かゝるあしの形なる鳥、杜鵑にはかぎらず、その餘にもあるかとおぼえたり。

○牡丹

木下川薬師別當庭中 龜戸の先に有り、青龍山淨興寺薬王院といふ。正字は龜毛川とかくよし、

北條氏康、武藏野紀行に



木下川  
薬師



天文十五年仲秋の頃、武藏野を見んとて、この年月思ひたちぬる事なれば、人々あまたうちつれ 中路 葛西の庄、淨興寺の長老年八十におよべるが、むかひにいであられ、寺門に立ちより一宿すべきよし申されければ、川を渡り、かの寺に行きて一宿するに、夜に入り風ひやよかに吹きたり。松風入琴といふことを思ひいでて、

まつ風のふく聲きけばよもすがらしらべことなる音こそかはらね

富岡八幡宮 深川にあり。大榮山永代寺金剛神院、此園中牡丹盛の頃は、日覆障子をかけ渡し奇麗なり。神體菅神の御作、源頼政これを崇む。其後千葉の家につり、足利尊氏へつたはり夫より鎌倉基氏、持氏、同上杉家に敬禮し、太田道灌深く信ずとなり。其後寛永元年の頃、長感法印靈夢の事ありて、永代島に宮所を建立あり。同八年にあたつて功成就す。同二十年八月十五日はじめて祭禮おこなはる。慶安四年のころ法務貫首におほせて宮寺となさる。同年の秋神前にて流鏝馬をはじめ、これ鶴岡法式をうつすなり。毎年三月廿一日より山開と號して庭をひらき諸人に見する。

深山玄琳庭中 尾久の渡手前なり。江戸豪家の隠士のよし。庭中に一株百輪の牡丹あり。

高さ五尺餘、めぐり六尺四方、花はそこ紅にて大輪なり。そのほかほたん多し。

北澤邑 多摩郡下高井戸村の左り南の方なる、北澤村の村長の園中盛の頃は、遊客きそひ

てあゆみをはこぶ。

花屋敷 向島菊場の園中、百品の花あり。

○ 檮

根津權現の古社 今の社よりは東の方坂上に在り。檮の林太田道灌の植ゑられしと云傳ふ。

露はらふ風ぞ涼しき檮咲くそとものかけの夏の夕暮 爲親朝臣

○ 杜若

三圍稻荷の社地 隅田堤の通小梅村の田の中にあり、故に田中の稻 別當三圍山眞珠院延命寺と

號す。神像は弘法大師の作にして同大師の勸請なりといへり。文和年間三井寺の源慶僧都再興す。慶長の頃迄は今の地より南のかたにありしを、後此地に移せり。當社に英一蝶の畫ける牛若丸と辨慶半身の額あり。今内陣に掲たり。

五元集

牛島三圍の神前にて雨乞するものにかはりて、

ゆふだちや田をみめぐりの神ならば

其角

翌日雨ふる。

社僧云く元祿六年の夏大に旱魃す、しかるに、同年六月廿八日村民あつまりて、神前にむかひ請雨の祈願す。その日其角も當社に參詣せしに、伴ひし中に白雲といへる人ありて、其角に請雨の發句をすべきよしすよめければ、農民にかはりて一句を連ね、當社の御神にたてまつりしに、感應やありけん、其日大雨たちまちに降りきたれり。其草は當社に傳てあり。

或人の説に、五元集に翌日雨ふるとあり。又其角連中とともに船へ歸らざるうちに、大雨

降り來るとあり。いづれなるべしと問ひしに、或人こたへて云ふ、おのれも此説日頃いふ

かり思ひけるに、元祿六年に生たる隠士舉一堂之記を見るに左のごとき文あり。

晉其角。成年與門人同船而遊隅田川。今茲天下旱魃。而田面無水。門

人等望雨乞之句。晉辭不止。故作句須與雨降。世人感其俳德云々。

此記露ばかりもいつはりがましきことをかきたるものにあらず。こゝにおいて思へば元祿

中の人既にこの事を傳へて、風流の話柄としたるを、舉一堂しるしおきたるなり。雨の降

りしはいづれの日にもあれ、此事を語り傳ふるは、其角がほまれといふべしと、答へられ

たり。またかたはらなる人いへるは、夕だちやとよむは、讀則をしらざるなり、夕だてや

といひてしかるべきむね申されき。又其角ユタカといふ三字を折句になして、ひそかに豊

作の意をもつて祝したらんと語られき。

木下川薬師の池 龜戸のさきに在り、池中は一面紫にして、そのなかへ八橋をかけわた

し、往來をなさしむ。さかりの頃は、文人墨客茲に遊ぶ、毎年四月十七日、神影を拜しむ。

その頃季候によりて、すこし過ぐるこゝとありといへども、諸國の種をうつし植し故に、花に  
ときおそきあり、また二ばん三ばんと咲きつゞく故に久くたもつ。

蒲田和中散

梅林 品川の先なり。後園梅樹のもと一めん池にして、杜若を植ふたり。四

月のせつより、咲きはじめて、十月の末までたえず。

○卯花

庚申塚

巢鴨、板橋宿へ出る道筋なり、農家あるひは植木屋におほし。

河崎

大師河原より鹽濱へ出る道筋農家にあり。家によりては一丁餘もあるべき垣根みなう

つ木なれば、花のころは實に雲のつもれるがごとし。

咲きしよりつもる日數のあとみえてうの花垣ぞ雪になり行く 平春海

○橘

長榮山本門寺

池上にあり。本堂左のかたに橘の大樹あり。花さき出るところは、石階を

登るに、その匂ひ繽紛たり。抑も當寺は、日連上人入寂埋葬の地なり。齒骨は身延山にを

さむるといへり。什物には、祖師直筆にて、自註なしかきいれ給ふ法華經其外自書多し。

祖師堂 長榮山 本門寺 此三ツの額は本阿彌光悅の筆なり。

○水鶏

標茅原

玉姫稻荷の邊此社は山城國稻荷山のいなりをうつししなり。王子村岸稻荷と神縁あ

りと云傳ふ。御玉姫稻荷といふも故ある事なり。正慶二年新田義貞朝臣鎌倉の高時を追討の

みぎり、弘法大師直筆の像を、襟掛にし給ひしを、瑠璃の玉塔にこめて當所にをさめまつり

給ふ故に、御玉ひめ稻荷と稱するよし。

佃島

さつきのころ船をうかめて、よもすがら聞く人あれども、雨のよくふる時節なれば

いとうかるべし。



○合歡木

綾瀬川 花又村の川筋、小菅御殿地の跡の邊、いにしへはおほかりしが、今はこよかしこにあり。又大音寺前戸田侯別業東のかた藩外、又本所柳島妙見の土居、水道橋土居通所々にありといへども、たゞ往來にして一見するのみなれば、こよに擧げず。

○螢

ほたる澤 螢川とも云ふ。谷中三崎宗林寺の地なり。他のとくらぶれば光甚しく、形も大なり。

姿見の橋 佛の橋とも云ふ。落合すがたみ橋より三丁ばかり川上の上水川と、雜司谷の細流との間なり。この川の上のところに一枚岩と唱へて水中に大巖あり。

王子下通 王子より根岸坂本へ通ふ飛鳥山の下をいふ。

江戸川の邊 小日向龍慶橋の川筋。

深大寺 府中に在り。此地の螢は他に勝れて大きし。

○蓮

溜池 赤坂御門外いちめん溜池まで、花葉水面をふさぎて夥し。格物叢話に荷花重臺のもの、

雙頭のものは以て瑞とす。又曉朝日に起き夜低て水に入るものあり、是を睡蓮と云り。爾雅荷は芙渠なり。其莖は茄、其葉は荷、其花は菡萏、其實は蓮、其根は藕、其中は苡、凡草木の中一物にして、花葉根莖子を用るは蓮をもつて第一とすといへり。

増上寺地中辨天の池 赤羽根のかたへ出る御門のうちなり。

不忍池 東叡山の麓なり。見わたし三四丁、長さ五七丁程、源水は谷中千駄木の小川より流れいつる。中島に辨財天あり。江州竹生島をうつす。寛永の頃までは離島にて參詣の通路なかりしといへり。今は通路ありて、しかも島のめぐりは皆貸食屋なり。名物、蓮めし田樂等を賣く。花盛のころは、朝まだきより遊家開花を見んとて賑ふ。實に東雲の頃は、匂ひ殊に



かんばしく、又紅白の蓮花朝日に映ずる光景たとへんに物なし。又文政三四年の頃より此池の岸通西南の方、陸より幅八間のほりをほりめぐらし、その先に八間ばかりの堤を輪のごとく築きて、このつよみのうへに茶店たちつどき、貨食舗軒を並べ、梅櫻など植込ていと賑しくなれり。不忍池とは上野を忍ヶ岡といへば、それに對しての名なるべし。

回國雜記

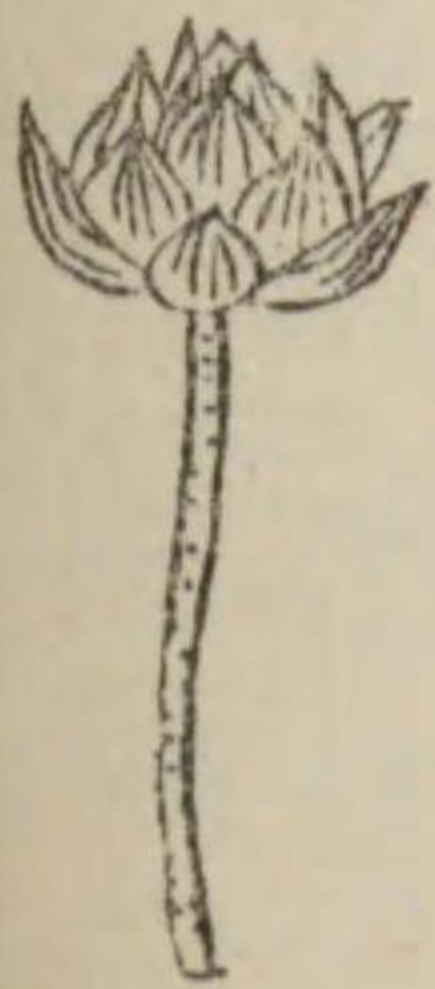
霜ののちあらはれにけり時雨をば忍びの岡の松もかひなし 道興准后

風土記云

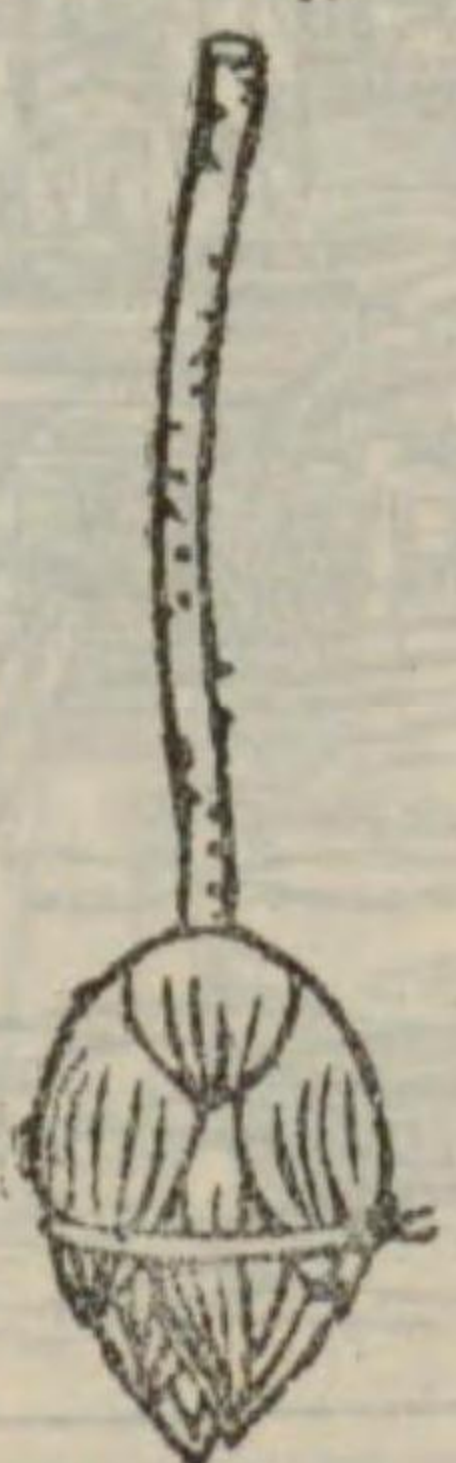
篠輪津池貢鯉鮒鰻魚鴻雁鶴鷺鴨等周行十里許程。旱日水不涸。霖雨不爲害。祈旱雨入詣于茲所。祭瀬織津比咩也。

とあり

因にいふ、蓮茗といふを製するに、うてなのたしかなる花を、莖のままとりてよき茶を濃く煎じ煮たちたるを能きほどに花の中へつき込



み、さてつき込たるを雙方よりはなびらをよせて、こよりにて結び、圖の如くさかしまにかけ置くべし。花びら幾重もかさなりたれば、漏るることなし。又別に茶を薄くせんじ、さて蓮花のなかの茶を少し宛さして、喫する時は、匂ひたかく心清々しなかりて精神を養ふ。



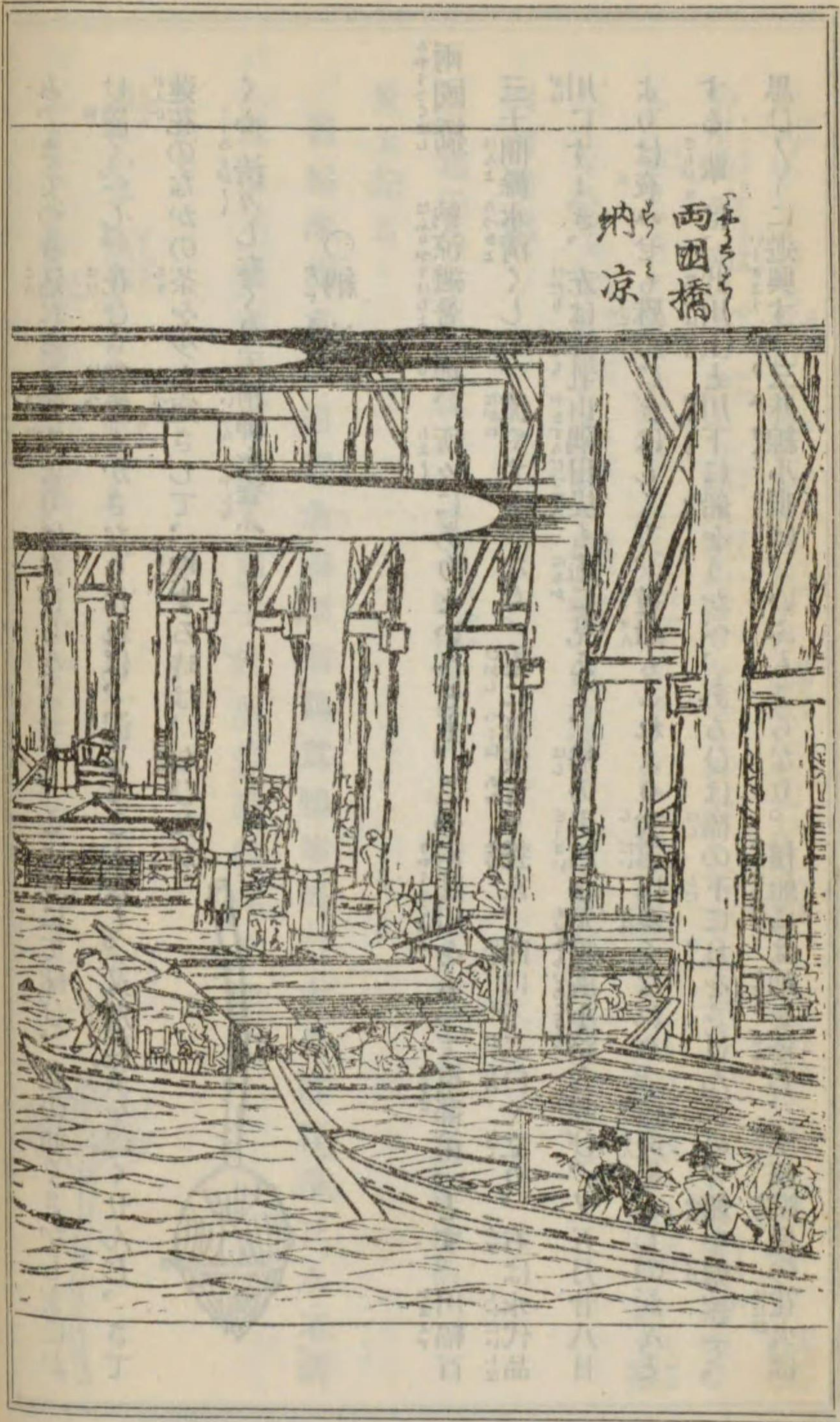
○納涼

兩國橋 納涼避暑の地、所々にありといへども、この兩國川をもつて東都第一とす。川幅百

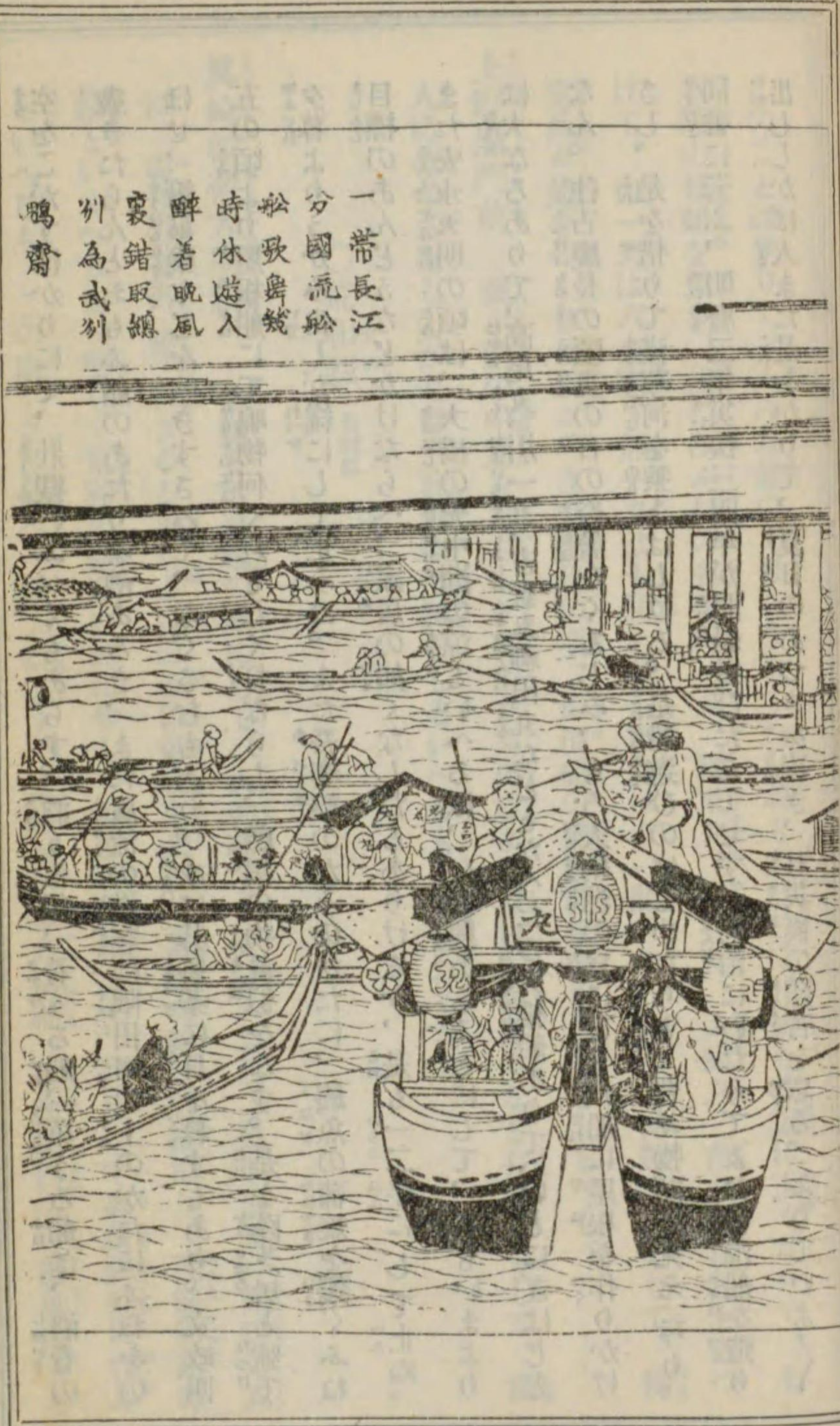
三十間餘水清くして、流やすらかなり。東に筑波青く聳え、西に不二白く立ち、右は永代品川にすぎ、左は待乳山隅田堤も遙に見えて、橋の東西を元町廣小路と呼び、又五月廿八日より夜みせも殊ににぎはしくて、遊船もこれより次第に多くなれり。扱炎暑をしのがんとする輩は、此川上と川下に船をうかべ、あるひは橋の下に日をさけんため、船を繋ぎて、思ひく遊興す。三味線小唄は、いふもさらなり。樓船には踊を催し、玉屋鍵屋の花火は



西園橋  
納涼



一帶長江  
分國流舩  
松歌舞競  
時休遊入  
醉着晚風  
裏錯取總  
別為武別  
鴨齋



空をこがすばかりにて、壯觀いふべくもあらず。酒うる船、肴うる船、菓うる船は、酒肴の盡きたらんとおもふ船のあたりを漕あるき、また風流の遊客は隅田河の上のかたにふねをのほせ、簫箏樂などを吹きすさみて、なぐさむもあり。或は碁將碁に日を暮すもあり。文政四五の頃より屋根船にて鳴物何くれとなく打ならし、戯場の物真似をなす。是を陰芝居と號て夕暮よりうかみ出しが纜にして止みぬ。また吾妻橋のかみのかたに、鰻魚の蒲焼を鬻ぐふね目標のあんどうなどかけならべ、家居の如くなしたるありけるが、是も一二年にして止ぬ。また安永天明の頃は、大橋の先中洲の涼といへるは、いと興あることにして、船もいまよりは大なるありて、高尾丸、川一丸、吉野丸、神田丸などとなへたる大樓船ありて、いとにぎはしとなん。往古慶長の頃夏の日の炎暑をくるしみ、もろ人納涼の爲にひらた船に屋根を作りかけさし、是を借りて淺草河を乗まはしける。是船遊びのはじめなりと、昔々物語に見えたり。同書に云ふ、明暦三年災後三四年が間船遊びたえてせず、萬治にいたりてまた彼涼船を造り出ししかば人また是をかりて、夏日のあつさを凌ぎ、且災後の艱苦を忘る。よりていよく

このことはやりて、人みな船のちひさきをうれひおもふほどに、船も次第に大きくなりて、七八間の樓船を造り、後にはふねの名を川一丸、關東丸、山一丸、大關丸、市丸、などと名づけて、山一丸は八九間、熊一丸は十間あり、市丸は十一間、これ等に主従數十人乗りて、辨當品々美をつくせり云々。さて慶長の頃、納涼船の權輿質素なることをしるべし。  
上野黒門前 廣小路の中通り左右へ夕暮より茶店竝よく床机を居る水など打めぐらして、諸人にあつさをしのがしむ。此地は川風なしといへども涼風きたるなり。

○荒和祓 名越祓

眞崎稻荷大明神 名越とは夏越の略にして、火剋金するを祓ふよし。公事根元、節折の式に、晦日の夜御贖物まるるあらよにごよの御装束云々。是即ち御祓の具なり。荒節和節の祓といふべきを、略して荒和の祓といふにやと、ある人物語き。江戸にて御祓諸社に行ふといへども、この處と佃島へ、諸人群集す。當社は千葉介常胤、石濱城内の守護神なりと

いへり。常胤魁先陣の願書、内陣にこめおき、つねに祈願なす、よつて先陣の高名数度におよべり、故に眞先の神號ありとぞ。神木の榎あり、此木何れへもよすることならず、これ神意に背くなりと、由て社造立の時も其儘に置ける故に、拜殿の軒によこたはる。文化年間此社のうしろの方より、老狐のいづることありて、おそなへ油揚等をほどこすに、おいでくと呼べば出きたれり、終にひろまりて、眞崎のお出くといひて、願望の爲に人人群参しける、はたして諸願成就せしなり。

卷之三

○牽牛花

下谷御徒町邊 朝顔は往昔より珍賞するといへども、異花奇葉の出来たりしは、文化丙寅の災後に、下谷邊空地の多くありけるに、植木屋朝顔を作りて種々異様の花を咲かせたり。おひおひひろまり、文政はじめの頃は、下谷浅草深川邊所々にても専らつくり、朝顔屋敷など號けて見物群集せしなり。

○七草

百花園 向島花屋敷、秋草の中にも、七草と唱へて愛翫するをこの園中には、みなそろへて植ゑこみたり。七草は、平春海大人七夕へ手向られし歌あれば是を擧げて、その草のかすゝをいはず。

たなばたに今宵やかさん秋萩の花ずり衣色あせぬ間に  
 天の河かはべのをばなかつたよりになびくもほしの心をやとる  
 たなばたの袂おほえて秋風のふきうらかへす庭のくす原  
 たなばたの袖のにしきもかくこそと見るめもあやに匂ふなでしこ  
 今宵しもたなばたの手にあへよとて誰たちぬへる藤ばかまそも  
 柵機のおもかけみせて澤水にすがたをうつすをみなへしかな  
 ほし合のなごりをそれとしのべとや露にしほれし朝がほの花

○萩

慈雲山龍眼寺 本所龜戸川の通天満宮の裏門の先にあり。當寺に殖髮聖徳太子の像を安置な  
 す。推古天皇の勅願によつて、大和國大安寺の本尊なりしを、故あつて當寺にをさむ。  
 明和三年よりして太子堂建立の爲とて、庭に萩を多く植ゑたり、もとより池水清らかにし

て、萩の花さかりには、錦をつらねたり。いまは殊更數千叢になりて、貴賤群をなして歩行  
 をはこぶ、俗よんで萩寺といふ。名物萩の箸萩の楊枝あり。

此餘寺院社頭に、萩を植たる所多しと雖も床机を設けて詠むるたよりなきは、是をのせず。

浅草清水寺牛島長命寺  
 などのたぐひなり。

浅草人丸明神境内

當社の前には堀の池ありて、よき所々に萩を植ゑたり。此處は春秋  
 ともに詠あり。池の傍に菴ありて、日を卜て乞ふときは、座敷をかすゆるに、風流の人々  
 ことよにて和歌連歌等の會を催す。

○月

三派の月見んとて、延寶天和の頃人々船にておほく出たるよし、安宅丸の御船をかけ  
 られしこともあるよし、このみつまたは隅田川の上の三派ならんか。

浅草川

隅田川の下流金龍山の麓をいふ。清明の夜は、月の輝滔々たる水に浸りて、あたたかも

金龍のうかぶに似たり、人々船を泛べ流にさかのほり、詩を賦し歌を詠み、あるひは妓を携へ絃歌を催しおもひくゝに遊興をつくせり。

武藏野 武藏野は江府の西北五六里ばかり秩父山の方なり。文人墨客旅心に出立て、一夜の草枕に月を詠む。武藏野ははてしもなく廣きことゆゑに、此處と定めたるところもなければ、知己をたづねて、ともに詩を作り、あるひは旅店をもとめて歌をよみなどして、風流つくることなし。

行く末は空もひとつのむさし野に草のはらよりいづる月影 攝政太政大臣

むさしのは月の入るべき山もなし尾花が末にかゝるしら雲 大納言通方

むさし野は猶行く末も秋萩の花すり衣かぎりしられず 詠人しらす

玉川 江府より西の方六七里にして、中河原是正の邊をよしとす。此處は分倍河原とて、正慶享祿の古戰場なり。月の水にうつれるは一入なりとて、遊客この河原に集り、思ひくゝの興を添へて月を詠む。名物は此河の鮎なり。相摸川などより佳品なり、近きころ水神の社の

傍へ此地の文人碑を建んことをおもひて、白川樂翁君の御筆をねがひ奉りしに、古歌一首御筆を染られければ、頓に良工を撰みて彫せたり。

己	爾	豆	多
許	奈	豆	麻
太	仁	久	河
可	會	利	泊
奈	許	佐	爾
之	能	良	左
伎	兒	佐	良
	能	良	須

玉川碑陰記

水名玉川天下凡六。在武州爲其二。而水道屢移。問而莫得。平井董威

考索舊跡有年。近者認之。請我老公書其古歌一首以勒碑。樹之於多麻郡猪方村。而後古蹟屹然與貞石共立世。夫微顯闡幽春秋之志。董威其蓋學此乎。況老公之信貽證于後世。而有餘也。而以爲表乎。

文化十四年丁丑臘月

品川

此地は高輪の邊よりして、都て海上の見晴なれば、月の出はいつにてもよし。また七月廿六夜には雅俗うちまぢりて、月の出の遅きゆゑに、さまざまに興じて、月の登れるを待つなり。その賑はへること、ひとかたならず。この夜は處々に月待あり。湯島天神の臺、九段坂のうへ、日暮里、諏訪明神の境内、その他なほありといへども、品驛をもつて當夜の第一とす。

○蟲

道灌山

日暮里より王子への道筋、飛鳥山の續なり。昔太田道灌出城の跡なりと云ふ、ぐさ

ぐさの蟲ありて、人まつ蟲のなきいづればふりいでてなく鈴蟲に、馬追蟲、轡蟲のかしましきあり。おのゝその音いろを聞かんとて、袂すどしき秋風の夕暮より、人々こよにあつまれり。また麻布廣尾の原、牛島もよし。

○菊

巢鴨

植木屋所々にあり。文化のはじめの頃、菊にて作物を工夫せしなり。植木屋ならでも作りたるなり、中にも木綿屋何某といへる豪家は、常に後園に菊を作りて、見物をゆるせしなり。しかるに作物二三年が間盛にして、九十軒餘に及べり。その工のこまやかなること、實に奇といふべし。あらましをいふに、獅子の子落し、布袋の唐子遊び、汐汲の人形、九尾の狐、文覺上人の荒行、富士見西行などいろくの花と葉をもつて、工あけたり。かゝること後には口碑に残るのみなれば此に十が二三をしるす。

雑司ヶ谷

鬼子母神の境内貸食屋の奥庭、あるひは茶店植木屋はいふもさらなり、みなよく

菊を養ひ造りて、十月八日より會式なれば、その參詣の群集をまつなり。六老僧の寺院にも、おなじ時境内または庭中へ菊を植ゑ、日覆障子をかけ渡して、手際のほどをみするもあり。又日蓮上人の、諸人を濟度なし給ふところ、または上人御難のところなどを作物とす、よりに詣し人々は堂前に充滿して、歸路をわする。

○紅葉

眞間 眞間山弘法寺、下總國葛飾郡、江戸より三里餘、本堂の前に楓あり。高さ四五丈餘、たぐひなき名木なりといへり。手古奈明神は石階の東のかたへ行くところなり。むかし一人の美女あり、身まづしく藻をかき水汲などしけれども、形貌の美なること宮中の官女にもはぢず、見る人懸想す。女思ひあつかひ身を投げうせぬ。人々あはれにおもひて、靈を神に祭るとなり。

かつしかの眞間の入江にうち靡く玉藻かりけんでこなし思ほゆ 赤 人

當山は山伏持の寺にして、眞言宗なりといへり。中山草創のみぎり、日蓮上人宗法を論じ山伏法華の奥儀に伏し、日蓮上人の弟子となり。寺を法華の道場に改むとぞ。また眞言の密法を日蓮上人にさづけしとなり。そのゆゑに當山と中山とは、法華の祈禱を專に修するなりといへり。

秋葉大權現 向島にあり。境内廣くして池あり、池の廻に茶店貸食屋等あり。楓は所々にあり。なかにも裏門の方へよりて、數十本あり。染出すころは人々きそひて見物す。

瀧野川 流れ清らかにして川は曲行なり。一步ごとにながめの替る地なり。川ばた岩窟のうちには辨財天を安置す。風景小く金龜山に似たるところあり。楓の色さかりの頃は、この川水にうつりて、龍田川もかくやとばかりあやしまる。

まだきより散るかとぞみる紅葉ばのうつりて落つる山の瀧つせ 前内大臣  
おちたきつ瀧のしらいと染めかへておるや錦の秋のみみぢば 爲敦朝臣

補陀洛山海晏寺 品川鮫洲にあり。當山は江府第一の楓の名所なり。寺記に、云く後深草



天皇建長三年亥冬當寺門前の海中より、大なる鮫漁夫の網にかよりて上りしが、其腹中より  
 正觀世音出現し給ふ故に、鎌倉へ訴しに、時頼朝臣希代の事とし、これ則ち天下安全の  
 瑞なるべしと、そのほとりに堂塔を建てられ、かの觀音を安置して、山號は觀音の淨土に準  
 へて補陀洛山と號し、四海安平の義によりて、海晏寺とせらる。瑞林院、瑞應院、廣正院、  
 東悅院の四字の院を造營せられしに、同六年の春諸堂全く成就し、入佛あり。同七年供養を  
 遂げ、則ち鮫のあがりし處を鮫濱といひ、又鮫洲崎といひしなり。住持は右四ヶ院の戒臘次  
 第たるべき定にて、道隆和尚を開祖とし、古山和尚を二世とす。時頼の定に鎌倉高野と相定  
 るうへは、信仰の面々月牌を備へ石塔を建つべし、また重罪の輩たりとも、海晏寺へ欠入  
 るものは免許すべきとなり。山庫僧供は東西南北方十里頭陀すべし、每年秋一度の免許なり。  
 五ヶ院の寺務は百八十貫本菴百貫四ヶ院二十貫文宛の定たり。境内南北十二町、東西十町  
 なり。時頼天竺靈鷲山の境に準せらる。又松千本槻千本を植ゑられ、右の洲崎には八幡三社  
 を建て、又海月菴、明月菴、圓通閣、松影堂、水月堂を建て、右の松往還の路上に枝葉おほ



ひ繁茂せり。そのころの童の唄に

品川浦は名所かな。海晏寺前のさがり松、御代もさかえてめでたさよ。

と諷しとなり。後の西の山に松を植ゑ、楓樹千本を植ゑて、蓬萊山と號す。北方に蓬萊亭あり。

南に坐禪堂、西に長さ三町餘の泉水をかまへ、龍淵と號し、其上に梶原の墓あり。南にあたりて梶原屋敷あり。又明神の森あり、西南に山王の社、弘法大師の作、石地藏權現の御手洗

池延命水といふ。橋あり兩溪橋といふ。橋下に蛇の淵といふあり。建久の頃里の女身を捨

て蛇になりたるを、二世古山和尚引導して、天上を得るといふ。そののち淵なし橋の前後貴

人の墓所石塔數多あり。東方に蛇腹紅葉、千貫紅葉、西に花もみぢ、淺黄紅葉、菲梅もみぢ、

猩々紅葉といふあり。北に彌陀堂、坊舎、僧房、竹林軒あり。佛殿の前に四方八面に榮えた

る牡丹あり、千貫牡丹とも、八幡影現の牡丹ともいふ、總門の内に頼朝松あり。千貫松とも、

龍燈松ともいふ。門内に天照白山稻荷三社あり。佛殿南方に觀音堂と拜殿、南に普門閣を建

て、供奉の人数八十字房舎を建つるとなり。弘安五年北條時宗願主にて堂塔造立入佛供養

あり、月牌として廿貫文寄附すとあり。平時頼の石塔あり。最明寺殿覺了房道崇大禪定門弘

長三癸亥年十一月廿二日二階堂出羽守の石塔あり。むかし當寺門前は鎌倉街道の關所にて、

頼朝卿より北條家までは執權の中一人關所守護として、大森村に屋形を建て居住せしとなり、

故に當寺の檀那なりとぞ。

萬松山東海寺 當山境内廣くして大樹の楓樹數多あり。開山澤菴和尚の道德はいふもさらな

り。諸道に通達して凡人ならざることば世もつて知る處なり。廟所は大なる石のむまれのま

まなるをかさね置きて、銘文もしるさず、是和尚の遺言なりと、また茶道に達して一首の歌

あり。

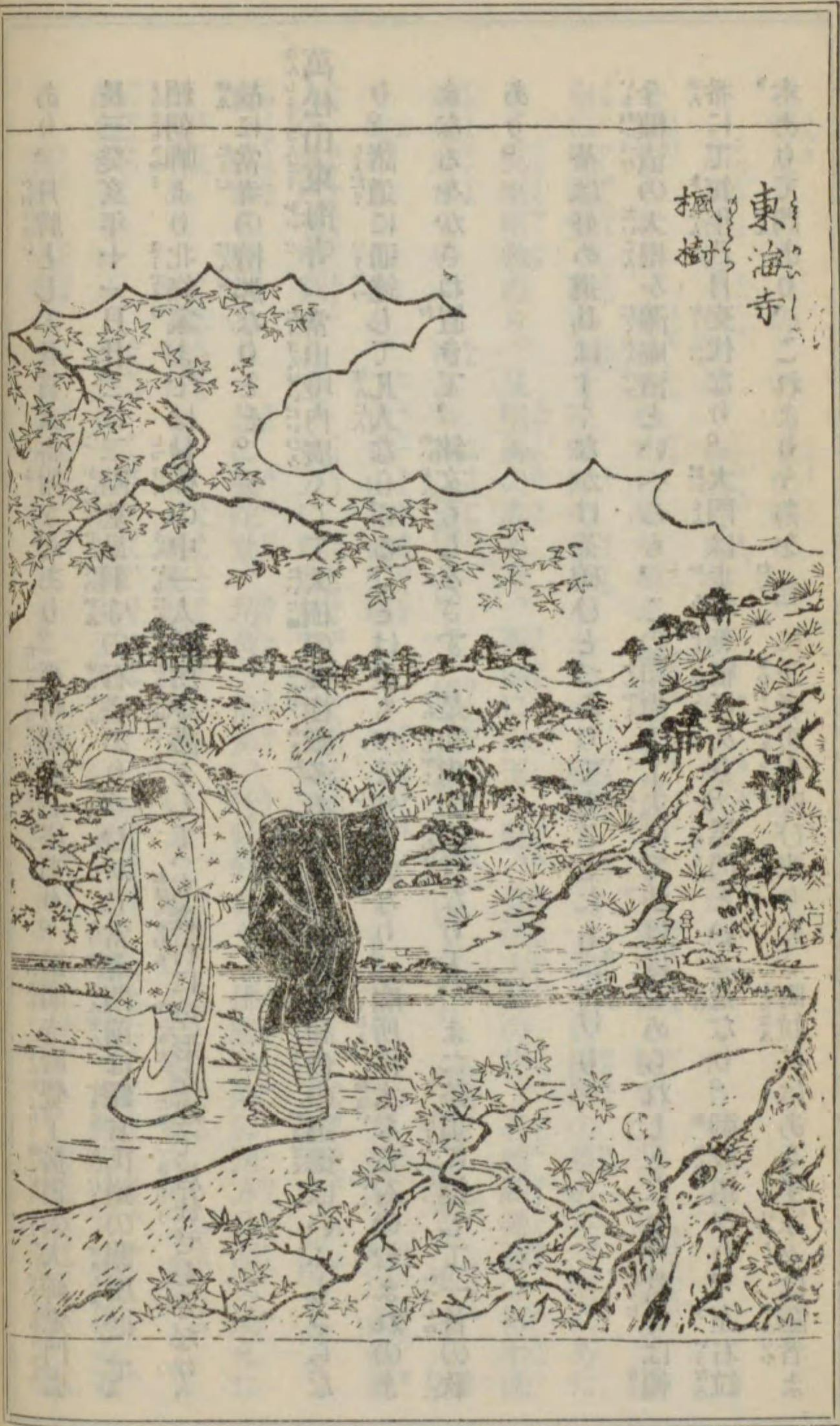
茶は好め道具はすくなかけ茶碗ひとつありてもことたりにけり

今糠漬の大根を澤庵漬といへるも、この和尚の工夫にて漬けはじめられしとなり。當寺は輪

番にて毎年八月交代なり。大門は歩行新宿にあり。黒門といふ是なり。御成道なり、左右竝

木ありて門あり、これよりうちを私に長者町と呼び來りぬ。町竝にはあらず家々は隠者ま

東海寺  
楓樹



た別荘なり。常に音曲を禁す一町ほど入りて表門あり、門外には馬とどめあり、岸に大木の古松有り。行者代官等此側に住宅せり。又御殿山の下より島の中道ありて門あり、これを御成御門といふ。また居木橋の上に門あり、西門とよぶ。悪津橋を過ぎて門あり、南門といふ。目黒桐谷より品川南馬場への道へ出づるなり。

縣居翁の墳墓 塔頭少林院の後の山にあり、翁は遠江國敷智郡伊場村の岡部の新宮の禰宜定信の二男なり。諱は眞淵、縣居は號なり。享保十八年京にのほりて古學を學び、寛延三年江戸にくだりて八丁堀に居住し、後濱町に家をうつし、延享三年田安に召出され、寶曆十年致仕して明和六年十月晦日、齡七十三にして身まかりぬ。立珠院眞淵義龍居士と法號す。近代名譽の歌よみにて、此大人の徳をしたふ人多し。毎年九月晦日には江戸に名だたる歌人少林院に集會して、歌よみて手向とするなり。翁のよまれし歌の中二三首を擧ぐ。

春日望山といふことを

みわたせばあまの香久山うねび山あらそひ立てる春霞かな

すみれ

古郷の野邊みにくればむかしわが妹とすみれの花咲きにけり

山里へほととぎすきよにまかりて

卯の花を手毎に折りてかへらまし山時鳥ききししるしに

古寺鐘

よしの山入りにし人はおとせねどゆふべの鐘にありかをぞしる

夏日東海道中望富士山

ふじの根の籠をいでて行く雲はあしがら山のみねにかくれり

目黒

泰叡山龍泉寺、當山境内楓樹多し。毎月廿八日は不動尊の縁日なれど、とりわけ正五

九月は前夜より參詣多し。

東陽山正燈寺

龍泉寺町、當寺もみぢの名所にして、高雄の苗をうよる、近き頃はみだりに

見物をゆるさず、しかりといへども、遊客庭中に入るといへども、敢てまた咎むることなし。たぐ掃除のときかざるをはづると見えたり。明和安永の頃は、楓とだにいへば人々正燈寺と心得たるほどに盛なりしとぞ。

卷之四

○寒菊

平河山法恩寺 本所柳島にあり。此梵刹のうしろのかた農家にて、多く季候の草花を作れり。中にも冬にいたりて寒菊を作る頃は、諸草みな枯れたる中に、黄金いろなる田園を見渡すこといとめづらし。此地にも限らず、請地千住處々にて作れるなり。當院は太田道灌の息男源六郎早世す、法名を法恩といふ。菩提のためにとて、父道灌一字の精舎を建立して法恩寺と號けしとなり。昔は御城中平河口にあり。そののち柳塘にうつり、元禄年中此地へうつさる。毎年六月二日より法華千部の執行あり。

○水仙

押上植木屋 此地に限らず、染井、三崎、巢鴨、四ッ谷、目黒邊處々にてつくり、花少も早



魂止給、海上守ニ護船一玉とあり。よつて海上船中の守護神となすなり。日本紀景行天皇四十年十月、日本武尊相摸國に進みて上總に至らんと船にめしけるに、海中にて暴風起り渡りがたく、御船危かりしとき、尊の妾に弟橘姫といふあり、穂積氏忍山宿禰が女なり。尊に云つていはく、風起り波はけしくて御船を沈めんとす、これ海神の心なり、ねがはくは妾が身をもつて主命に贖ひて海に入らん。と自ら海中に入るに、暴風忽ちやみて船岸につく事を得たり。

著岸の地は上總國君去津なりといふ、よつて君去津と書くといへり。この處に吾妻大明神あり、これ即ち橘姫の靈社なり。

橘姫は本土相州なり。大磯梅澤の入口にあり、上の宮といふ、橘姫の御體の流れよりしをまつるといふ。また當社は稻荷の神といふ説もあり、庵主云ふ。むかし下總國相馬へ一人の美女來つて曰く、我は是弟橘姫の靈なり、そのかみ一つの寶器を海底にしづむ、これをとり得んことを欲して三百年來白狐と變じ、海中に入る事數あり、龍神深く惜みてとるこ

とかたし、汝力をくはふべしと、答へていふ、水中の事いかで凡人の力に及ばんや、又いふ、近日夕陽あかくかどやく日あり、其時君去津の渚に兵船をうかべ、鉾劍をさかしまに水中にひたし、太鼓鐘をもつて龍神を驚かすべしと、その日を期してをしへの如くす。海上高波しきりにして、船ごとくく汀によす、時にひとつの白狐寶器をくはへ泛びいでて兵船に投入れ、陸に至つて以前の美女と現す。その寶器を以て稻荷大明神と崇むとなり。末社にいなりの神あり、こよにいふ寶器は、劍か鏡か珠玉なるか知らず。當處楠の枝葉を煎じ腹すれば諸病を治すといひつたへて、庵主に枯枝を乞ひ求むる人あり。はなはだ匂ひ深く、その香樟腦なり、樟と楠と一類二物にして、樟は香つよく木心黒赤なり。樟腦を煎すとあり、則ち此神木は樟なり。一品はいぬくすといふ、香よわく色も黒赤ならず。又楠の石になりたるあり。木理節其儘にありて、石よりも重く石よりも堅し、之を敲くに金聲を發す。

○松

穴八幡社

高田戸塚村別當光松山放生寺に光り松といふあり、むかしは繁茂りたる山なりしが、里人伐りつくして、たゞ一もとの松のみのこれり。寛文十三年にあたりて御弓組の與力此處にて弓の稽古ありしなり。弓矢の神なれば、八幡宮を勸請せんと催すをりしも、山鳩三羽日毎に来る故に、二本の松を神木とあがめ、華表をたつる。同十八年周防國山口八幡の氏人良昌僧都は毛利家の人にして、榎本何某たり。遁世なし回國行脚として當國に來り、雜司谷御樂園の主にやどす。その後中野寶泉寺に入りて法印秀雄の會下にありしを、まねきて社僧とす。おなじ秋草菴をむすばんと地をならすに、掘崩したる山の底にちひさき穴あり、口せまく奥ふかし、方九尺にあまる、その中に長三寸ばかりの佛像石上に座し給へり。良昌これを尊む、よつて此處を穴八幡といふ。その穴今にあり。當山の腰より清き水したよりいづる。是石清水の名をおふしるしなりとぞ。

西歸山常光寺 龜戸六阿彌陀六番目來迎松とて堂の前にあり。中古火災のとき本尊此木にとびうつり給ふゆゑ名づくとなり。龍燈の松といへるは本堂のうしろにあり。



龍岩寺

青山にあり、大門を入りて正面本堂なり。これを左のかたへつきて曲れば後園にあり、見る人に安からしめんがために圓坐松の下をおのづから下りて、一段下の庭へ行くなり。こよに止りて見れば枝葉天を覆ふが如し。又是に似たる松、王子の貸食店扇屋の庭にあり。松の名木を數へ擧ぐるときは數樹にしていとまあらず、よつて往古より名木と唱へ來る處の一二樹と、中興作れる處の兩種をあぐるのみ。

○枯野

從雜司谷至堀之内路 枯野は何處と定むるにあらず、その所々にして風景あり。隅田河は東の勝地にして四時の詠ある處なればいふもさらなり、圖にあらはす處は雜司ヶ谷より堀の内へ廻る道なり。こよは山間の耕地にて清水の流れなどありてしづけき地なり。

○千鳥

洲崎

海潮山増福院辨財天を安置す。開基は知足院隆光大僧正、字は榮春河邊氏なり。當院は海岸にて東は房總の遠山浪をひたし、南は羽根田支那川。北は筑波根のかすかに見えて佳景の地なり。境内貸食屋軒をつらぬ。遊客寒風をいとはずして、この樓などに集りて千鳥を聞く。中河行徳もよし。

○雪

愛宕山

芝にあり、この山上より雪中に見おるせば、格藩につもれる雪、綿をもつて家居をつくれるに似たり。遙に望めば安房上總の山々片片たるうちに見ゆ。本尊は行基の作にして勝軍地藏なり。毎月廿四日縁日たり。六月廿四日は四萬六千日と號して參詣殊に群集す。此日境内にて青き鬼灯を擧ぐ、小兒に吞するときは蟲の病の根を切ると云ひならばせり。

高輪

この海岸の酒樓より海上を望む時は、雪の紛紛たるありさま、他に比する處なし。長命寺 隅田河の堤 曲行の角にあり、境内に芭蕉の碑あり。この邊に佇みて左右をかへり



千鳥

家陸

つる月の

あゆみの

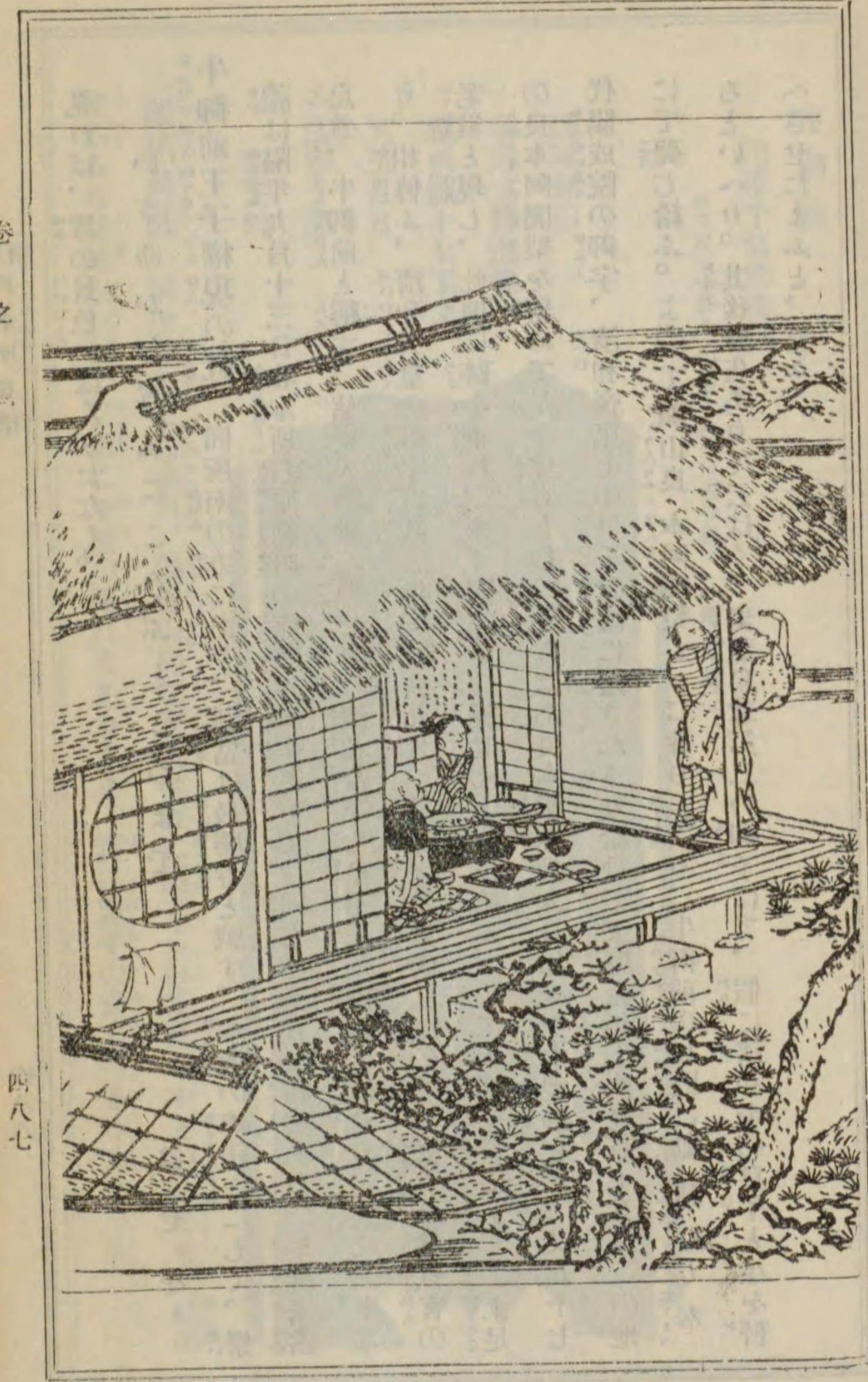
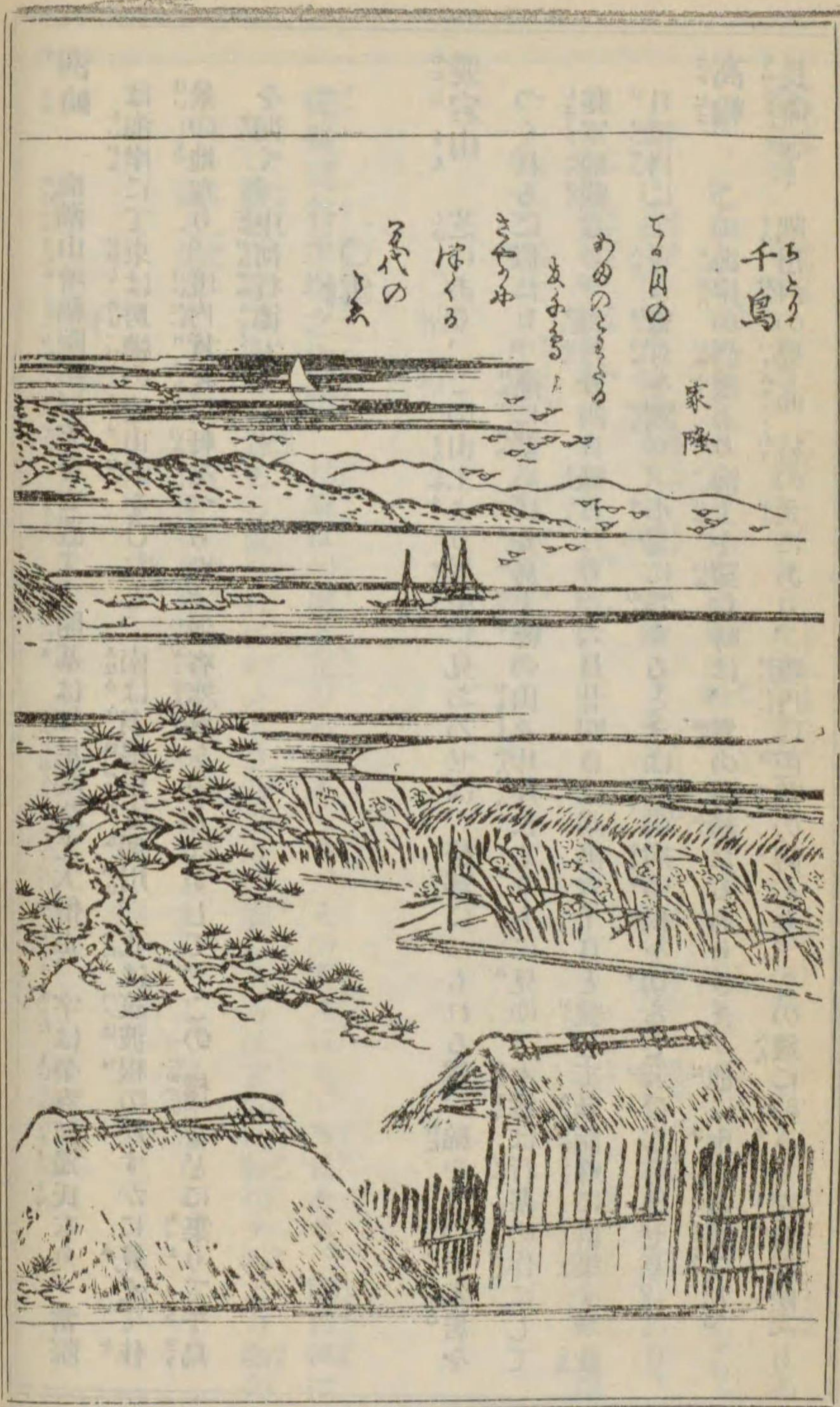
まふま

まふま

はくろ

る代の

ま



見れば、雪の景色いはんかたなし。

いざゆかむ雪見にころぶところまで

はせを

牛御前王子権現の社

同所南の方にあり、別當は最勝寺と號す。本所の總鎮守にして、祭

禮は隔年九月十三日北本所石原新町の旅所へ神幸ありて、同じく十五日歸輿あり。祭神素盞

烏尊、牛御前と稱す。慈覺大師勸請せり。清和帝第七皇子王子權現と稱せり、共に二坐な

り。相傳ふ、清和天皇の御宇貞觀二年庚辰秋九月、慈覺大師東國弘法の頃、素盞烏尊位官の

老翁と現し、此地に跡を垂れ、永く國家を守護せんと告げ給ふ。仍て大師一社に奉じ、上足

の良本阿闍梨を留めて是を守らしむ、すなはち良本彫像の大日如來を本地佛とす。又五十七

代陽成院の御宇、清和帝第七の皇子當國に遷されさせ給ひ、天慶元年丁酉九月十五日この地

にて薨じ給ふ。よつて開山良本阿闍梨ここに葬り奉り、牛御前の相殿に勸請なし奉

るといへり。其後靈告ありて云はく、素盞烏尊第二の御子にて、假に清和帝の皇子と生を替

へさせたまふと、云々。

牛御前

法華千部供養碑

長三尺三寸計り

巾壹尺六寸五分程

厚貳寸餘

碑陰銘曰

奉造立釋迦像一

軀貞觀十七丁未

天三月日

法華千部

明王院



三圍稻荷社

同所南の方此境内、隅田川のながれは堤に隔てられて見えすといへども、社の

左右みな耕地なれば、枯田に玉屑の積れるありさま、實に豊年の貢ものとみえたり。

待乳山 又置土山

聖天宮を安置す、金龍山本龍院靈驗あらたにして、諸人信心なす。此山の森、むかしは沖よりの船入津のめあてなりといふ。是は深川本所の邊、海なるときの目當なるよし。待乳山も武藏、駿河、大和に同名あれば、古歌ありといへども引きがたし。茂睡が歌はたしかに山上に碑あり。

あはれとは夕こえてゆく人も見よまつちの山に残すことの葉

戸田恭光入道茂睡は江戸の人にて、戸田茂右衛門と稱し、後本郷梨子坂邊に住みて梨の本と號しぬ。父は駿河殿の家老にて、渡邊堅物忠といひし人の六男なり。父の忠は戸田與五右衛門忠勝が次男なりければ、父の實家の稱を冒せしなるべし。著述あまたあり、寶永三年四月十四日に終し人なり。然るに隣女悟言には隱家の茂助として、元祿の頃はや江戸淺草の市人に茂介といふもの有りけり云々。ちりの世とおもふ心のつもりてはと云ふ歌を出したり。そのことも歌も少したがへり。

ちりの世をいとふ心のつもりては我かくれがの山とこそなれ

と有るぞまことなりける。近世崎人傳にも隱家の茂睡とありて、江戸御家士にて隱遁せる人なり云々といひ、歌道に古學を稱するは、此人近世の魁にして、秦の陳涉にひすべしといへるは、その人をしれるさまにて、元祿十七年二月廿四日その菴に寂すといへるはたがへり。二書ともそのつたへのたがへるなるべし。紫一本に、尼了然のかきあつめたる多くの歌のなか、茂睡法師とあるもこの人にて、そのなかに歌六首みえたり、此山の碑もいとふるきゆゑに、半をれたるを好事の人別に又石を添へて修補せり。このあたりより隅田河を望めば、雪飄々として鷺毛に似たり。

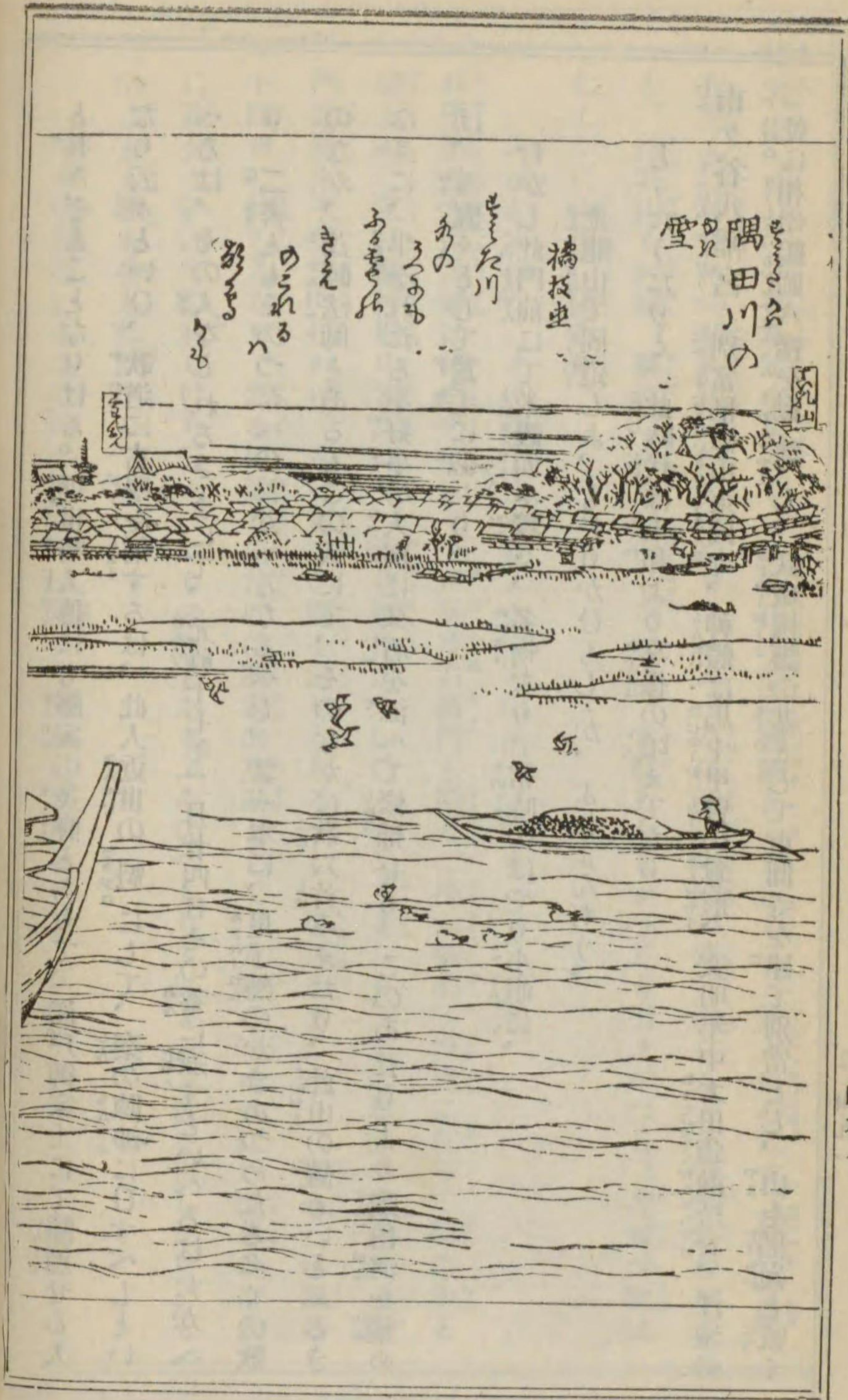
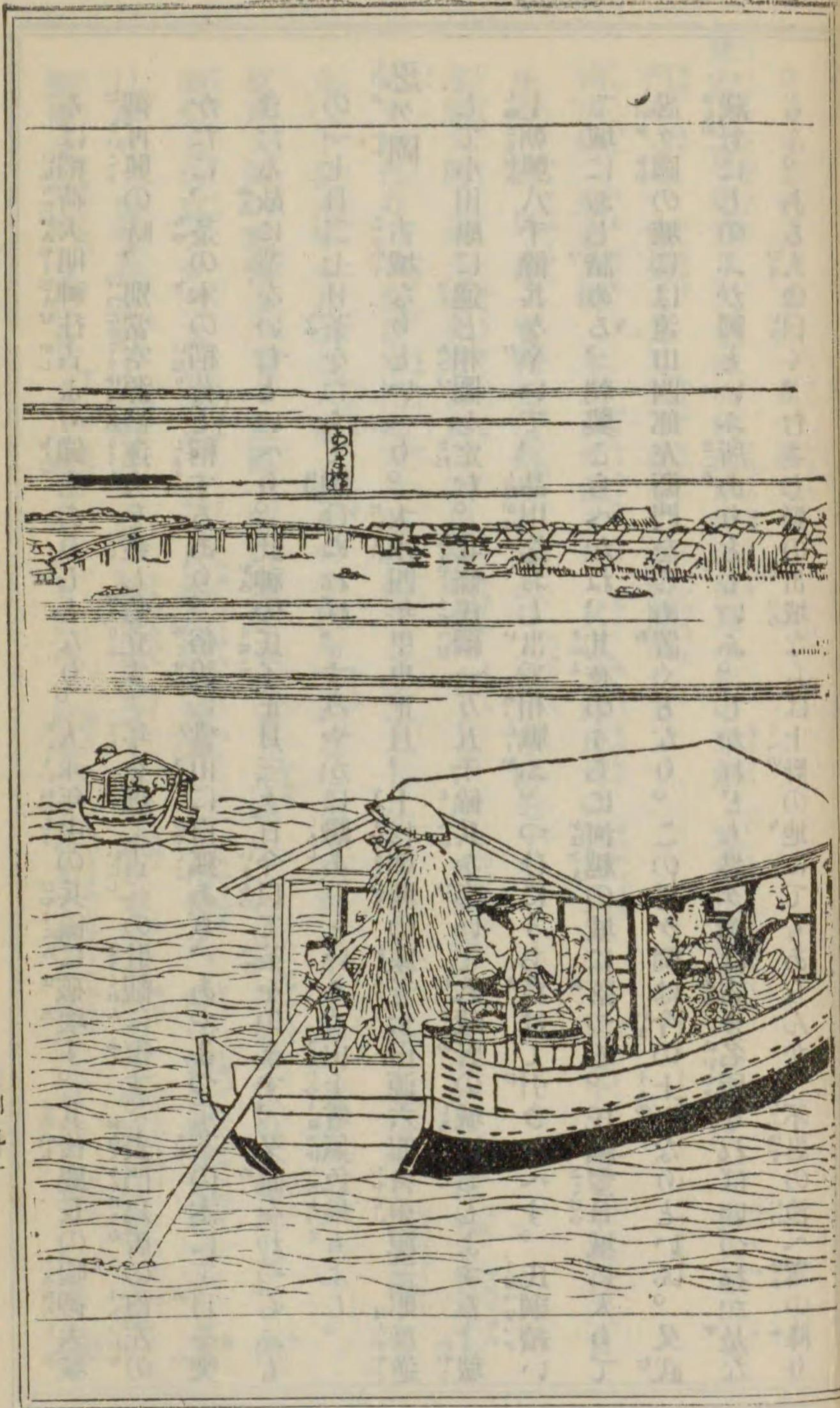
むかし此門前にて米饅頭を齧く、名物なり。當時のはやり小唄に、

金龍山で同道しよ、もどりがひもしよか、よねまんぢう。

とうたうたりと。此時代は天和より享保の頃までなり。

市ヶ谷八幡宮

別當稻嶺山東圓寺、神體は馬上甲冑の尊形、文明年中太田道灌持齋、江城の乾に相州鶴岡八幡を勧請し、武城擁護の基として東圓寺を建て別當とし、山を稻嶺と號く



るは稻荷大明神往古より鎮坐ありしとなり。大永年中の兵亂に破壊す。其後慶長の頃御大城御再興の時、別當空源昌運力を盡し造立す。年を経て古への壯觀に復す。表門鳥居の内左のかたに、茶の木茶の木の稻荷稲荷と稱するあり。俗説に當山に白狐あり、あやまつて茶の木にて目を突きたる故に茶をいむといへり。此神の氏子正月三ヶ日今以て茶をのみず、又眼をわづらふもの一七日二七日茶をたちて願ひぬれば、すみやかに驗ありといふ。山上雪氣色最もよし。

忍ヶ岡 古城なりといへり。大永四年甲申正月、上杉朝興の家老太田源六郎舍弟源三郎反逆して小田原に通じ相圖を定む。北條氏綱一万五千餘兵を卒いて武藏野の城におしよする。城

主朝興八千餘兵を卒いて、品川迄おし出で相戦ふ。つひにうち負けて引きかへす。氏綱續いて城におし詰める、朝興こらへかね、其夜のうちに河越の城に落つる。氏綱翌日城に入りて忍ヶ岡の城には遠山四郎左衛門をこめ置くとなり。この忍ヶ岡は今の上野なりといふ。又武藏野にしのぶが岡といふ所ありともいふ。しかれども忍ヶ岡は古き名所なればいづれか是ならん。ある人の曰く、むさし野の出城ならば上野の地にてもあらんか。不忍の池へ雪の降り

かよる氣色は、また一風の勝地なり。

東叡山寛永寺 人皇百九代後水尾天皇寛永年中草創、比叡山延曆寺をうつされ、御大城の鬼門を守る。靈場として天下泰平の御祈願所たり。

兩大師 慈恵大師 本土江州淺井郡、父は木津氏母は物部氏なり。延喜十二壬申年九月三日生る。諱良源、寛和元乙酉年正月三日入寂、于時七十七。

慈眼大師 本土奥州會津郡、高田郷義澄の末子といふ。人俗氏の事をとふに、氏姓も行年もわすれたり、一たび空門に入りぬれば、しりてよしなしとのたまはずとなり。諱天海、寛

永二十癸未年十月二日入寂、緣起の年代を考ふるに凡そ三百七十年餘におよべり。

慈恵大師の靈像 民部法眼筆 慈眼大師の靈像 法印探幽筆 元龜のころ山門逆徒のために罷れしに、阿闍梨公の寫させたまふ眞影、竝に民部法眼が摸寫せしと兩像を、時の修事福成坊みづから負ひ奉り、香芳谷を経て落行きしに、敵軍道をさよへて通さず矢を放つ。福成坊は元三大師の靈像を守奉りたり。速に通すべしといふ。此手の大將木下藤吉郎之を聞き、兜をぬぎて拜

をなし、道を開く。堅田の浦より船にのりて、湖東額田井の庄に蟄居す。其後天正年中再興有りて尊像を横川に還坐あらしめ、今に四季講堂に安置し奉る。靈像は伊勢國安濃津西來寺にする奉る。元三大師縁起に曰く、寛永十七年慈眼大師、將軍家御令嗣御誕生の御禱のため、くだして當山に安置し、丹誠し給ふに、八月三日いと平に生れさせ給ふとなり。すべて師出胎の嘉辰、登山入寂に至るまで、三日を期日とせり。御誕生はひとへに尊像の靈驗に侍る。慈眼大師遺言し給ふは、本山の例にまかせて勢州より來らせ給ふ眞影、當山坊々三十日かほど巡番に執事奉るべし、大權の聖像と竝ばんはそのおそれなきにしもあらねど、我頑像もあとにしたがひて共に大樹の御武運を守り、國土豊饒をめぐまんとぞ。下畧 今も此例に違はず、晦日順番の寺院へ遷坐あるなり。十月は例年御本坊なり。立冬に至り雪のふる頃此山王山に登りて眺むれば、吉祥閣へ積れるありさま海内一の絶景なり。

いとど又かぎりも見えずむさし野やあまぎる雪の明ほのの空 御製

(終)

江戸名所圖會 内容細目

# 江戸名所圖會

## 内容細目

本文の見出しとして掲出せられたる題目及び挿畫の全部に加ふるに、本文中に出でたる主要の名所舊蹟俗稱異名を以てし、發音に従つて五十音順に排列す。

ア

- 相生杉(三) 三
- 〔相生杉〕(三) 三
- 相生の樟(四) 一三
- 相生橋(一) 六
- 愛染堂(一) 六〇八
- 〔藍染川〕(一) 九
- 藍染川(一) 一三

葵ヶ岡(二)	三	赤城明神社舊地(二)	五三八
〔青渭の社〕(二)	三〇一	赤坂御門(二)	一三九
青渭の社(二)	三〇二	赤坂臺(二)	四三九
青渭の堤(二)	三〇四	〔赤坂氷川社〕(二)	一四〇
青木山覺禪寺(一)	五五五	縣居大人の墓(一)	三三九
青木山西向寺(一)	五五五	〔縣居大人の墓〕(一)	三三〇
〔青木明神〕(一)	五六	赤塚明神祠(三)	四九
青砥藤綱舊跡(四)	二四〇	赤根山(二)	一四八
青沼明神(二)	四一	〔赤羽〕(一)	二五〇
青波天神(二)	三〇四	赤羽川(一)	二四八
青葉の楓樹(一)	六六	〔赤羽心光院〕(一)	二五三
青山海藏寺(二)	一五四	赤羽橋(一)	二四八
〔青山善光寺〕(二)	一六〇	赤羽山八幡宮(三)	三五七
阿伽井(三)	五四	〔赤羽山八幡宮〕(三)	三六〇
赤池(三)	五	飽間齋藤氏城死墓碑(三)	二九
〔赤城明神社〕(二)	五八	阿加牟堂(一)	二四
赤城明神社(二)	五三	阿加牟堂(三)	四七

—— 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

秋田城介義景舊館の地(一)	四九六	朝日神明宮(三)	五三六	愛宕山權現(三)	五九
〔秋葉權現宮〕(四)	一九〇	朝日堂(二)	五七〇	〔愛宕山權現本社〕(一)	二三三
秋葉大權現社(四)	一九三	旭の關(二)	二六八	〔愛宕山毘沙門の古事〕(一)	二六六
〔曙の里〕(三)	二八四	〔麻布一本松〕(二)	四三	〔愛宕下〕(一)	二三〇
阿佐ヶ谷明神(二)	四九八	〔麻布善福寺〕(二)	三六	〔愛宕社總門〕(一)	二三二
淺草川(四)	一九八	〔麻布善福寺〕(二)	三六	足立ヶ原(三)	一七三
淺草川(三)	四三〇	淺間山(二)	四七	あたらし橋(一)	九八
淺草神社―三社(三)	三九八	足毛塚(二)	一八七	阿茶の廟所(三)	一七
〔淺草の祭禮〕(三)	三九五	飛鳥の社(三)	三三九	熱田明神社(三)	五〇一
淺草の名物(三)	四三〇	〔飛鳥の社〕(三)	五〇二	あづま川(三)	五
〔淺草海苔〕(一)	四四四	飛鳥明神社(三)	五〇一	吾孀權現(四)	一三四
淺草橋(一)	二四	飛鳥山(三)	三七	〔吾孀權現〕(四)	一三六
淺茅ヶ原(三)	五五一	〔飛鳥山〕(三)	三三〇	吾妻堤(二)	二七七
〔淺茅ヶ原〕(三)	五三四	飛鳥山の碑(三)	三八	吾孀の森(四)	一三四
朝日觀世音(二)	四九	阿須波明神(四)	三五八	〔吾孀の森〕(四)	一三六
〔朝日櫻〕(二)	五六六	阿蘇明神(三)	七七	〔吾妻橋〕(四)	一七二
朝日山永昌寺(三)	四七〇	愛宕權現(一)	二二九	吾妻明神(一)	五五九

―― 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( )――

穴稻荷(三)	二四〇	安養寺―府中(二)	三六一	飯倉(一)	二四六
穴澤天神(二)	四三五	安養寺―市谷(二)	四六四	〔飯倉熊野權現社〕(一)	二四七
穴八幡(二)	五四四	安樂院(三)	三〇八	飯倉神明宮(一)	二二六
〔穴八幡〕(二)	五四五	安樂寺―谷保(二)	三八〇	〔飯倉神明宮〕(一)	二二八
姉尾光景舊館の地(二)	一七八	安樂寺―芝(三)	四七五	飯倉神明宮祭禮(一)	二二三
油堤(一)	六六八	〔綾瀨川〕(四)	二三八	飯倉天満宮(一)	二二一
請雨の松(二)	六四〇	荒瀨ヶ崎(一)	三九二	飯田川(一)	八三
餘木の阿彌陀如來(三)	五四	洗川(四)	三五七	〔飯田町〕(一)	九〇
阿彌陀坂(二)	三三三	荒井治義の墓(二)	二二九	〔飯室山〕(二)	二三〇
阿彌陀佛銅像(二)	二七七	荒井妙法日荷上人加持水(一)	六五七	飯室山(二)	二二三
網干榎(四)	二二五	荒瀨山(二)	五六〇	飯室院(三)	一五
安國山總寧寺(四)	三〇八	荒塚(一)	四三六	醫王山國分寺(二)	三四
安國殿(一)	二二一	荒波々幾社(三)	一六二	醫王山成願寺(一)	四九七
安産寶珠(二)	四六四	淡島明神―市川(四)	三四〇	醫王山清光寺(三)	三七一
安松山長源寺(三)	九五	〔淡島明神〕―折本村(一)	五五二	醫王山萬願寺(一)	三九三
案内山(二)	四四一	淡島明神―大熊村(一)	五五四		
安養院(二)	九七	安房の須明神(四)	三四〇		

イ、中

―― 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( )――



醫王山妙音寺(四)	二六五	〔石濱〕(三)	五三八	〔板橋の驛〕(三)	三
〔庵崎〕(四)	一八六	石濱古戰場(三)	五四九	板橋忠康の墓(三)	三六
庵崎(四)	三三六	石濱神明(三)	五三八	板橋原(三)	三一
井口山慈宏寺(二)	五〇八	石濱の城址(三)	五三五	市ヶ谷八幡宮(二)	四九七
池上右衛門宗仲の墓(一)	四〇七	〔衣裳榎〕(三)	三四三	〔市ヶ谷八幡宮〕(二)	四九九
〔池尻祖師堂〕(二)	一八八	伊勢大神宮(一)	一六三	市河城址(四)	三〇八
醫光山圓照寺(二)	四七六	〔伊勢大神宮〕(二)	一六八	〔市川の渡し〕(四)	三〇六
威光山法明寺(二)	六四九	伊勢の濱(三)	五三八	一行院(二)	二七七
〔威光寺〕(二)	四〇〇	〔伊勢町河岸通〕(一)	七四	一行山專修寺(二)	一四三
威光寺(二)	四三三	〔磯の清水〕(一)	三三七	一石橋(一)	六〇
伊皿子薬師堂(一)	二八〇	磯の清水(一)	三三八	一樹山宗柏寺(二)	五三四
〔伊皿子薬師堂〕(一)	二八一	〔伊雑大神宮〕(一)	一六〇	〔一の權現〕(三)	四〇六
石観音堂(一)	四八〇	伊雑大神宮(一)	一六三	一の權現(三)	四〇七
〔石観音堂〕(一)	四八一	磯邊横町(一)	一六三	一宮大明神社(二)	四一八
石塚の社(二)	三四〇	〔章駄天山廣福寺〕(二)	三三八	〔一宮大明神社〕(二)	四一九
石の枕(三)	四〇四	章駄天宮(二)	三三	〔市場觀音〕(一)	四九三
石濱(三)	五二二	板橋の驛(三)	三	〔一枚岩〕(二)	五八〇

—— 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

銀杏八幡宮(三)	四三九	いなり新道(一)	一一九	印子歡喜天(二)	二二五
一里塚(二)	二七五	犬追物上覽地(三)	三〇九	蔭涼山濟松寺(二)	五三二
一心山稱往院(三)	四六二	井上蘭臺の墓(二)	五九〇	一口稻荷(一)	一九八
一蝶寺(四)	四一	井の頭池(二)	五〇九	芋洗橋(一)	九八
一蝶の墓(二)	七一	〔井の頭池〕(二)	五二〇	芋祭(四)	三五八
飯綱權現(一)	五五六	井の頭辨財天宮(二)	五〇九	守宮池(二)	五五三
一本榎(二)	四二〇	茨木春朔の墓(三)	三四	〔入神明宮〕(四)	一九九
一本松(二)	四四	醫福山桃雲寺(一)	三九八	〔入谷庚申堂〕(三)	四八二
泉ヶ谷(一)	五四七	今井古城址(二)	一四八	いろは樋(三)	四八二
〔和泉村靈泉〕(二)	二三四	今井谷(二)	一三七	石井神社(二)	二四
出雲祝神社(三)	一一一	今川橋(一)	七九	石清水正八幡宮(三)	四六
五山祇社(三)	一六三	〔今川橋〕	八〇		
稻毛三郎重成の墓(二)	二二三	〔今川橋〕(三)	五六五		
稻毛薬師堂(二)	二四〇	今戸八幡宮(三)	五五五	殖髮聖徳太子堂(四)	一四一
〔稻毛薬師堂〕(二)	二四三	〔今戸八幡宮〕(三)	五六一	植木店(一)	一四九
稻荷河岸(一)	一〇七	〔今井の渡し〕(四)	二七〇	〔上野坂本口〕(三)	四八一
稻荷小路(一)	八五	〔今戸焼〕(三)	五六三	〔上野三橋附近〕(三)	四七八

—— 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

〔上野山下〕(三)	四七七	〔牛田の薬師堂〕(四)	二二〇	采女の井(一)	二〇〇
〔右衛門櫻〕(二)	四七八	牛田の薬師堂(四)	二二三	〔姥ヶ池〕(三)	四〇六
右衛門櫻(二)	四七九	牛天神社(二)	五九〇	姥ヶ森(一)	四八六
魚市(一)	六二	〔牛天神社牛石〕(二)	五八八	〔姥ヶ森〕(一)	四八八
浮洲の森(四)	一三四	牛の草橋(一)	一六三	馬市―府中(二)	三四八
有喜壽八幡宮(一)	三〇四	牛御前王子権現社(四)	一七九	〔馬市〕―淺草(三)	四一〇
浮世小路(一)	六八	鳥石(一)	三八八	馬牽澤舊跡(二)	一九三
白朮の神事(三)	四七四	宇田川橋(一)	二二	〔馬牽澤古事〕(二)	一九四
右近屋敷(二)	二四九	歌枕天神(二)	二二九	雲居山宗參寺(二)	五三六
牛石(二)	五九〇	内河岸(一)	五三	〔雲松院〕(一)	五四四
〔潮田出羽守城址〕(三)	一七〇	内川―宗岡(三)	六九	雲松山泉龍寺(二)	二二五
〔牛御前宮〕(四)	一七六	〔内川〕(三)	七〇	雲松寺(一)	五四二
牛込城址(二)	五三七	内川―隅田村(四)	二二六	雲水塔(三)	二二五
牛小屋(一)	二八〇	宇津宮彌三郎の墓(三)	五五一	〔梅田天神祠〕(三)	五二八
牛島神明宮(四)	一六九	采女ヶ原(一)	一八九	〔梅屋敷〕(四)	二二六
牛島辨財天(四)	一八二	〔采女ヶ原〕(一)	一九〇	〔梅若塚〕(四)	二二六
		采女塚(三)	五五三	〔梅若寺縁起〕(四)	二二〇

梅若丸の塚(四)	二二三	永劫山慶元寺(二)	二二九	江戸橋(一)	一三七
〔浦島古事〕(一)	五二六	永固山一行院(二)	二七七	江戸見坂(二)	三三
浦島太郎の墓(一)	五二一	永春庵(三)	九五	江戸六阿彌陀(三)	一七
〔浦島塚〕(一)	五二	永壽山海福寺(四)	三	慧日山金剛寺(二)	五九一
浦島寺(一)	五二〇	〔永代寺山開〕(四)	一六	榎觀世音(二)	一六二
〔浦島寺〕(一)	五二	永代橋(一)	一七〇	榎坂(二)	三
浦島の觀世音(一)	五二	〔永代橋〕(一)	一七三	榎戸湊(一)	六七八
浦島の長歌(一)	五二四	〔回向院〕(一)	一七二	蛭子前(一)	一七一
浦島明神(一)	五二	〔回向院〕(四)	五八	惠比須前稻荷祠(一)	一七一
裏白連歌會(四)	一八	〔回向院開帳〕(四)	五九	夷講(一)	六一
浦の江(一)	六七五	會式詣(一)	六四六	海老名長門守の墓(一)	六五七
〔浦の郷〕(一)	六三六	兄武日命殿館舊跡(二)	三六一	烏帽子島(一)	六七八
		江戸(一)	三三	圓光寺(三)	四八四
		〔江戸市街より内海を望む〕(一)	三四	〔圓光大師鏡の御影〕(四)	二九五
		江戸大城基立(一)	三三	圓光大師堂―本所(四)	五五
		江戸遠江守舊館の地(二)	三三五	圓光大師堂―目黒村(二)	一三三
		江戸の中島(一)	一六三	圓光東漸大師舊跡(一)	二二

圓座の松(一)	二二	縁結びの杉(三)	三六	大観音(三)	二八五
〔圓眞寺〕(二)	七三	延命院(三)	二七五	〔大川橋〕(四)	一七二
延壽椎(四)	一八二	延命櫻(一)	三六一	扇ヶ濱(一)	四六二
圓照寺(二)	四七六	延命山勝光寺(二)	二〇六	〔大國魂神社〕—六所明神(二)	五四六
圓勝寺(三)	三〇五	延命寺—關戸村(二)	四三五	〔大久保七面宮〕(二)	四六九
〔圓勝寺五石の松〕(三)	三〇四	延命寺—沼田村(三)	五〇九	大窪天満宮(二)	四六五
圓通寺(一)	六六	延命地藏菩薩(二)	六二	〔大窪天満宮〕(二)	四六六
圓通寺舊跡(二)	一四八	襟懸の本尊(二)	五三六	〔大久保のつゞじ〕(二)	四七二
赤天寺(三)	五五五			〔大倉前〕(三)	四三四
圓頓院(三)	二二四			大胡重行の墓(二)	五三七
圓福寺(三)	四三	老松殿(四)	二一八	逢坂(一)	五二一
圓寛堂—牛込(二)	五三七	〔御厩河岸の渡し〕(三)	四三三	大崎(二)	七七
圓寛堂—淺草(三)	四四六	〔お會式の圖〕(二)	六四四	〔王子稻荷社〕(三)	三四〇
圓満山廣徳寺(三)	四七〇	大洗堰(二)	五九八	王子稻荷社(三)	三三六
圓満寺(三)	一八七	〔大井〕(一)	三三四	王子權現社(三)	五二八
〔圓満寺〕(三)	一九七	大石燈籠(三)	二三九	〔王子權現社〕(三)	三三九
圓明山陽光院(一)	五五五	大炊殿橋(一)	七九	〔王子の祭禮〕(三)	三三四

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

奥州橋(二)	五七四	大鳥明神社(二)	二〇九	〔大森麥藁細工〕(一)	四四六
〔鶯宿梅〕(二)	五七一	〔大鳥明神社〕(二)	二一〇	〔大森和中散〕(一)	四四八
太田塚(二)	六二	大野山本淨寺(二)	六三五	大渡(一)	一七〇
太田道灌城跡(一)	二四四	〔黄梅院〕(二)	七二	小川の郷(二)	三四一
〔太田道灌の亭〕(三)	三五八	大橋(一)	二四	隱岐殿坂(三)	三七
太田道灌の傳(一)	三二	意富日神社(四)	三六六	隱岐殿屋敷(三)	四三
太田資長の傳(三)	三六六	〔意富日神社〕(四)	三六七	御行の松(三)	四八四
太田道灌手植の榎(四)	三〇九	〔意富日神社舊地〕(四)	三六〇	御行屋敷(四)	二九四
〔太田道灌山吹の古事〕(二)	五六二	〔意富日神社祭禮〕(四)	三七三	〔奥澤村九品佛〕(二)	二二八
大塚(二)	六一	意富日神社初め鎮座の地(四)	三五九	〔押上最教寺〕(四)	一四七
〔大塚護持院〕(二)	六三	大平山(二)	一三三	押合祭(三)	五三八
〔大塚本傳寺〕(二)	六二	〔大宮東光寺〕(三)	一六八	忍原(二)	二六八
櫻田寺(二)	四九	大宮八幡宮(二)	五〇四	おしやもじ横町(一)	三〇〇
〔大傳馬町木綿店〕(一)	六六	〔大宮八幡宮〕—和田村(二)	五〇四	織田有樂齋第宅の地(一)	二〇〇
大戸明神(二)	二五三	大宮氷川神社(三)	一六三	於玉ヶ池(一)	一一二
大友松(二)	五三四	〔大門通り〕(一)	一三〇	〔於玉ヶ池〕(一)	一〇〇
大友義延舊地(二)	五三二	大森(一)	四四三	御靈屋(三)	六

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

〔落合惣圖〕(二)	五八三	尾引山(三)	一〇〇	〔尾張町吳服店〕(一)	一六六
落合土橋(二)	五七四	御福の井(三)	一一三		
〔落合盤〕(二)	五八四	御腰懸松(四)	一一〇	<b>カ、クワ</b>	
遠ヶ澤(四)	五八四	御腰掛の柳(二)	五二六	〔海晏寺〕(一)	三六八
〔弟橘姫の古事〕(四)	一三八	御常念佛堂(一)	二二一	〔海晏寺紅葉〕(一)	三七〇
乙輒の浦(一)	六九	御田植神事(二)	三五〇	海運山能滿院(一)	五三四
〔音無川〕(三)	三九	女塚(一)	三九	海榮山養光寺(一)	四九三
音無川(三)	三五二	御楊枝の柳(二)	五二六	海巖山德願寺(四)	二九四
〔小名木川五本松〕(四)	六三	おめいこう(二)	六五〇	戒行寺(二)	二六五
御成門(一)	二四	〔思川〕(三)	五三〇	〔戒行寺〕(二)	二六六
〔小野神社〕(二)	三九	思川(三)	五四六	甲香(一)	六七九
小野神社舊址(二)	三六八	〔佛の橋〕(二)	五六八	海藏山太寧寺(一)	六七二
小野照崎明神社(三)	四七五	佛の橋(二)	五七〇	海藏寺(二)	一五四
〔小野照崎明神社〕(三)	四八二	御藥園(三)	二六	開山澤庵和尚影僧一幅(一)	三三七
小野の縣(二)	三四一	〔小山田關〕(二)	四三	〔海藏寺〕(二)	一五六
小野の牧(二)	三七一	小山田關舊址(二)	四三	開山澤庵和尚廟(一)	三三五
小野宮村(二)	三六八	小弓御曹子の墓(四)	二八三	海照山品川寺(一)	三六四

—— 蓋押はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

海照山來福寺(一)	三八〇	學翁齋の墓碑(二)	二〇八	鹿島神社(一)	二五六
海禪寺(二)	四六三	覺海の傳(三)	一八七	〔鹿島神社〕(一)	二五七
貝塚青松寺(一)	二四〇	覺彦の傳(三)	二〇〇	鹿島大明神社(一)	三八三
〔海福寺〕(四)	三六	〔覺心寺〕(二)	七二	春日局の菩提所(三)	二〇七
櫻霧松(二)	四三	鶴松山實相院(二)	二〇八	春日明神社(一)	二六一
〔海龍寺〕(一)	三五三	神樂坂(二)	五三六	〔霞ヶ關〕(二)	二六
かうかけ場(二)	三三〇	〔神樂坂〕(二)	五三三	霞ヶ關(二)	二六八
鏡石(四)	三三	覺林寺(二)	六一	〔霞ヶ關古圖〕(二)	二八
〔鏡石〕(四)	三三三	〔葛西の花〕(四)	二三四	霞關の歌(二)	三〇
鏡ヶ池―砂利場村(二)	五七〇	〔葛西海苔〕(四)	二六八	霞關舊蹟(二)	二五
鏡ヶ池―橋場(三)	五五三	葛西六郎の墓(四)	二六三	霞山稻荷明神祠(二)	四九
〔鏡ヶ池〕(三)	五三六	〔葛西六郎の墓〕(四)	二六四	霞の松(二)	二七九
鏡ヶ池―鎌田村(四)	二七七	笠島(一)	三九三	歌仙櫻(四)	一四
鏡の松―根岸(三)	四八四	笠松(二)	二八八	帷子川(一)	五七二
鏡の松―柳島(四)	一四六	花山觀世音(三)	四三九	〔帷子川〕(一)	五七四
霞關山大宗寺(二)	二七四	柏木邑右衛門櫻(二)	四七八	帷子里(一)	五六九
柿本神詠之碑(一)	三三二	柏野里(二)	三〇四	〔帷子里〕(一)	五七六

—— 蓋押はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

梶原氏肖像(一)	四三〇	勝間田の池(四)	三三三	金澤文庫舊址(一)	六三四
梶原塚―大井村(一)	三六一	〔勝間田の池〕(四)	三五四	〔金澤文庫の印〕(一)	六三五
梶原塚―豊島村(三)	三七七	香取大神宮(四)	一三八	〔金澤文庫の址〕(一)	六三六
〔梶原塚〕(三)	三七〇	〔香取大神宮〕(四)	一三〇	要島辨財天社(一)	四六三
梶原平三景時石塔(一)	三七三	金川(二)	五四一	〔金杉安樂寺〕―下谷(三)	四八六
梶原松(一)	三八二	加奈川(二)	五四四	金杉天神(二)	五九〇
梶原屋敷(一)	三七四	神奈川驛(一)	五三三	〔金杉毘沙門堂〕(一)	二五九
〔梶原屋敷〕(一)	四三三	〔神奈川總圖〕(一)	五三四	鐘鑄塚(二)	一八六
梶原氏宅地(一)	四三二	〔神奈川臺〕(一)	五三〇	鐘ヶ澤(四)	三三七
梶原屋鋪跡(三)	三七二	〔神奈川の戦〕―北條上杉(一)	五三三	〔鐘ヶ澤〕(四)	三三八
月山寺(三)	一六六	金澤(一)	五九八	鐘ヶ淵(四)	三三〇
かつしか河(四)	三三三	金澤顯時の墓(一)	六二四	鐘ヶ淵(四)	三六五
葛飾八幡宮(四)	三三五	〔金澤顯時の墓〕(一)	六二五	加能川(二)	五四四
葛飾明神(四)	三五三	金澤貞顯の墓(一)	六二六	狩野興意の墓(二)	一四五
〔葛飾明神〕(四)	三五〇	金澤八木(一)	六二六	狩野探幽法師の墓碑(一)	四〇六
かつたい塚(二)	三三〇	〔金澤八景一覽の圖〕(一)	六〇三	貝塚(二)	一八
勝手ヶ原(一)	二四八	金澤原(一)	六三九	貝塚の天神(二)	一四

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

貝塚法印の墓(二)	一八	〔鎌倉河岸豊島屋酒店〕(一)	六六	觀音寺―南畑田村(三)	七六
河上薬師(四)	四九	鎌倉權大夫景道石塔(三)	五五四	觀音堂―市場村(一)	四九四
川口善光寺(三)	三六一	鎌倉權五郎景政靈祠(一)	三三九	觀音堂―静勝寺(三)	三五三
〔川口善光寺〕(三)	三六二	蒲田の梅(一)	四三三	觀音堂―淺草寺(三)	三六六
〔河口鍋匠〕(三)	三六四	〔蒲田の梅園〕(一)	四三〇	感應寺(三)	三六〇
川口の渡し(三)	三七七	蒲田八幡宮(一)	四三三	觀王院(三)	二七五
河崎(一)	四三三	鎌作觀世音(二)	八九	舍海山(一)	二四〇
河崎庄司高重の舊跡(二)	一七八	〔鎌作觀世音〕(二)	八八	勵學寮(三)	二四〇
河崎庄司高重の宅地(一)	四六六	竈河岸(一)	一三八	元三大師堂(二)	七七
歌舞妓芝居―堺町(一)	一三三	上無川(一)	五三三	神田川(一)	九八
歌舞妓芝居―木挽町(一)	二〇〇	電神門(三)	四二二	神田ヶ淵(一)	八三
兜島(一)	三五二	冠松(二)	四四	神田山日輪寺(三)	四六一
兜塚―日本橋(一)	一四五	願山(二)	一七	神田山幡隨意院(三)	四六五
兜塚―伊興村(三)	五二五	寛永寺(三)	三三四	神田上水(二)	五二六
甲の宮(四)	二九五	觀音山―荒井(一)	五三五	〔神田上水懸樋〕(一)	九二
兜松(二)	四八五	〔觀音山〕(一)	五三八	神田橋(一)	七九
願地藏(三)	二八五	觀音寺―宇奈根村(二)	二二九	觀福壽寺(一)	五一〇

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

〔觀福壽寺〕(一)	五三	〔龜戸道祖神祭〕(四)	一三	臥龍の藤(二)	五二六
神田堀(一)	七	〔龜戸天満宮〕(四)	一〇八	臥龍梅(四)	一三四
神田明神社(三)	一八三	〔龜戸天満宮祭禮〕(四)	一三	〔川崎山王社〕(一)	四六八
〔神田明神社〕(三)	一八四	〔龜戸天満宮神輿渡御〕(四)	一四	〔川崎汐濱〕(一)	四七八
神田明神社舊地(一)	七九	賀茂眞淵翁閑居の地(一)	一九	〔川崎大師堂〕(一)	四七〇
〔神田明神社祭禮〕(三)	一八八	權寺(三)	四六	〔川崎新田社〕(一)	四八二
灌頂堂(三)	一九六	茅野天満宮(一)	三二	〔川崎萬年屋〕(一)	四六四
感通寺(二)	五四〇	〔茅場町薬師堂〕(一)	一五六	〔河開き〕(一)	一六
神御衣(四)	一八	〔茅場町薬師の縁日〕(一)	一五六	土器塚(二)	一八六
甘露山延命寺(三)	五〇九	烏森稻荷社(一)	三六	〔瓦師〕—中の郷(四)	一六〇
甘露水(二)	一七六	〔烏森稻荷社〕(一)	三六		
龜井(四)	三三	迦羅鳴起の瀬(四)	三〇八		
〔龜ヶ池〕(三)	二五四	假家坂(二)	三六〇	祇園會御旅所(一)	六一
龜ヶ池(三)	三五六	輕子坂(二)	五三	祇園會御旅所(一)	一四一
龜島辨財天祠(二)	三〇八	臥龍山(一)	五四	〔祇園會御旅所〕—大傳馬町(一)	六九
龜塚(一)	二七四	臥龍山安養院(二)	九七	〔祇園會御旅所〕—小舟町(一)	七〇
龜津島(四)	二二八	臥龍岡(一)	二九一	〔祇園會御旅所〕—南傳馬町(一)	一四四

キ

祇園寺(二)	三〇〇	維子の宮(二)	七六	吉水山宗慶寺(三)	一七
祇園社(三)	四九	〔維子の宮〕(二)	七六	木下稻荷祠(三)	三七
〔祇園橋〕(三)	三三	岸村(三)	一五六	木原山(一)	三九六
牛頭山弘福寺(四)	一八三	鬼子母神—四谷(二)	二六四	貴船明神社—品川(一)	三四七
牛寶山最勝寺(四)	一六	鬼子母神—下高井戸村(二)	二九六	貴船明神社—大森(一)	四五三
龜鶴山誓閑寺(二)	五四一	鬼子母神堂—雜司谷(二)	六四一	〔貴船明神社〕(一)	三四八
其角の墓(二)	七二	鬼子母神堂—中山村(四)	三六六	木戸孝範の舊跡(三)	四八五
木切澤(二)	四〇八	〔北澤淡島明神社〕(二)	一八八	龜命山慈光院(四)	一三四
〔木下川薬師縁記〕(四)	三五〇	北澤淡島明神社(二)	一九〇	歸命山如來寺(一)	二九〇
木下川薬師堂(四)	二四一	北野天神社(三)	二〇	歸命山法源寺(三)	五五三
〔木下川薬師堂〕(四)	二四三	〔北野天神社〕(三)	一〇八	金海の森(四)	二九一
龜化大龍女(一)	五二	北村季吟翁別荘の舊地(二)	五〇四	禁殺碑(三)	四三
木更津河岸(一)	一三七	吉祥院(二)	三二五	〔錦袋園〕(三)	二二六
岸稻荷(三)	三四六	吉祥山(一)	五三九	金澤山稱名寺(一)	六〇八
紀州明神社(三)	三七一	〔吉祥寺〕(三)	二九四	巾著巖(一)	六七八
〔紀州明神社〕(三)	三七三	吉祥寺橋(一)	八五	金鳳山平林寺(三)	八三
龜子山(二)	三六	龜頂山三寶寺(三)	五八	〔金龍院飛石〕(一)	六五四

—— 葦挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

—— 葦挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——



袈裟懸松―橋場(三)	五三	戀ヶ窪(二)	三七	光傳寺(一)	六六九
袈裟懸松―鎌田村(四)	二七七	〔戀ヶ窪(二)〕	三三六	〔光傳寺(一)〕	六六六
〔下駄新道(一)〕	八四	高安護國寺(二)	三七三	高幢寺(二)	一一四
解脱居士(二)	三六四	〔功運寺(一)〕	三六九	神戸川(一)	五七三
月桂寺(二)	四六一	興雲院(二)	六六	豪徳寺(二)	二〇〇
〔月桂寺(二)〕	四六三	〔光圓寺(三)〕	一四	廣徳寺(三)	四七〇
月波樓(一)	二六三	光圓寺(三)	一五	〔廣徳寺(三)〕	四六六
兼好法師閑居の舊跡(一)	六三九	光源寺(三)	二八五	廣徳寺の稻荷(三)	四七一
劔立石(二)	三〇八	筭橋(二)	一六三	〔神戸村(一)〕	五七六
除劔難日蓮大士堂(二)	一九〇	〔筭橋(二)〕	一六四	國府臺(四)	三〇九
玄武山普濟寺(二)	二八一	鶉ヶ谷(二)	一六三	〔國府臺(四)〕	三二〇
化用山常照院淨念寺(三)	四四四	幸國寺(二)	五三七	〔國府臺斷岸の圖(四)〕	三二六
樺の枯樹(二)	三七二	光照崖(二)	四〇七	國府臺古戰場(四)	三〇九
		光照山常光寺(一)	二九二	〔國府臺古戰場(四)〕	三二二
		幸神祠(二)	六〇八	紅梅殿(四)	一一八
		庚申堂(一)	二九二	弘法山(一)	六三五
〔子生山觀音堂(二)〕	五〇六	江亭記(一)	三七	江風山月樓(一)	一八三
小石川(三)	五				

―― 畫淨はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――

〔弘福寺(一)〕	三八三	小金井橋(二)	五六	護國寺(二)	六三三
弘福寺(四)	一八三	〔小金井春景(二)〕	五二	護國殿(三)	三九九
〔弘福寺(四)〕	一八四	谷原山長命密寺(三)	五四	心見觀音(二)	一五五
高峯山長泉律院(二)	二四	國豐山回向院(四)	五四	御菜ヶ浦(四)	三六四
廣布石(四)	一五六	國分山金光明寺(四)	三〇	小澤小太郎居宅舊地(二)	四三三
降魔尊像(二)	三〇五	國分寺(二)	三四	小澤城址(二)	四三八
光明山圓勝寺(三)	三〇五	〔國分寺(二)〕	三六	〔腰懸松(二)〕	五〇六
光明山天徳寺(一)	二四二	〔國分寺舊跡(二)〕	三八	御所ヶ谷(一)	六三九
光明山天嶽院(三)	四六一	〔國分寺瓦(二)〕	三三	〔御所ヶ谷(一)〕	六三六
〔光明寺(一)〕	四四	國分寺の碑(二)	三〇	御所權現社(二)	二二七
光明寺池(一)	四二八	〔國分寺村炭かま(二)〕	三四	五條天神宮(三)	四七一
孤雲山乘蓮寺(三)	三六	極樂寺(四)	四二	小杉御殿地(二)	二五七
高野山宿寺(二)	七六	〔極樂水(三)〕	一六	御前栽畑(四)	二二六
紅葉山西迎寺(二)	四七六	極樂水(三)	二四	五層塔―品川(一)	三五五
黃龍山泰雲寺(二)	五七六	極樂橋(一)	二二	五層塔―上野(三)	二六二
高龍山報恩寺(三)	四五〇	護國山觀福壽寺(一)	五二〇	五層塔―淺草(三)	三九二
〔小金井橋(二)〕	五二四	〔護國寺(二)〕	六二四	五大尊石(二)	三〇五

―― 畫淨はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――



木立御館(一)	一五	〔牛頭天王社〕—淺草(三)	四六	〔小日向上水道端祖神祠〕(二)	五九
五反田(二)	三六	牛頭天王社—橋場(三)	五八	五百羅漢寺—本所(四)	六四
護持院(二)	六〇	〔牛頭天王御輿洗ひ〕(一)	三三	〔五百羅漢寺〕(四)	六六
護持院の舊地(一)	七九	小手差ヶ原(三)	一一	〔五百羅漢寺佛像〕(四)	七六
護持院の原(一)	八三	御殿跡(三)	三七	五百羅漢石像—目黒(二)	九六
〔護持院の原〕(一)	八八	御殿地(二)	三六	五百羅漢尊體(四)	九九
五智山總持寺(三)	五四	御殿山—品川(一)	三三	古佛倉(二)	一六五
五智堂(一)	四三	御殿山—井頭(二)	五六	國府の城址(四)	三〇
小塚原(三)	五四	御殿山—牛込(二)	五三	護本山天龍寺(二)	二七五
〔小塚原天王宮〕(三)	五〇	〔御殿山看花〕(一)	三四	五本松(四)	四三
小机城址(一)	五四	五德殿(四)	二二	駒洗川(三)	五四六
〔小机城址〕(一)	五四	古利根川(四)	一九	狛江入道舊館の地(二)	三〇三
牛頭山行元寺(二)	五七	〔琴彈松〕(四)	二七	〔狛江入道舊跡祇園寺〕(二)	三〇三
〔牛頭天王社〕(一)	三六	琴彈松(四)	二七	駒形堂(三)	四三
牛頭天王社—品川(一)	三三	〔琴彈松と氏康〕(四)	二四	〔駒形堂〕(三)	四三
牛頭天王社—四谷(二)	二四	木花開耶姫社(二)	五七	駒ヶ谷(二)	六〇八
牛頭天王社—下谷(三)	三九	虎柏山祇園寺(二)	三〇	〔駒込大觀音〕(三)	二九一

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

駒込神明宮(三)	二九	金剛寺—高幡村(二)	四四	子安觀世音—子安村(一)	四九七
〔駒込神明宮〕(三)	二九	金剛寺—小石川(二)	五九	子安觀世音—目黒(二)	九六
古町街道(一)	五三	〔金剛寺〕(二)	五九	子安清水(三)	一六一
駒塚の社(二)	六八	金剛寶山根生密院(三)	二四	子安釋迦如來(三)	一四七
駒繫榎(二)	一七八	〔金乘院〕(二)	五五	小山神明宮(一)	二六一
駒繫松(一)	二六一	根生密院(三)	二四	〔小山神明宮〕(一)	二六三
駒留橋(二)	六四	虛無僧寺(二)	一九	〔御靈權現社〕(一)	四八七
〔駒留橋〕(二)	六〇	〔權太坂〕(一)	五八	是政村(二)	三六四
駒場野(二)	一八六	權太坂(一)	五八	惟盛の墓(二)	四二〇
〔駒場野〕(二)	一八四	〔金地院〕(一)	二四	古鈴(四)	二九〇
金王八幡社(二)	一七三	權の正(二)	三四	古呂故天神社(二)	一四
〔金王鷹影堂〕(二)	一七五	〔金毘羅社〕(二)	一一		
〔金王鷹産湯水〕(二)	一七	金毘羅大權現社(二)	一四		
權現山(二)	六三〇	崑崙山玉窓寺(二)	一五〇		
金剛院廢址(四)	二九四	〔米河岸〕(一)	七四	〔濟海寺〕(一)	二六八
金光山養玉院(三)	四七四	五葉の松(三)	三五	最教寺(四)	一四六
金剛山嶺松寺(一)	六四	子安觀世音—芝高輪(一)	二九	西光院(三)	三〇五

サ

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中 ——

西迎寺(二)	四七六	〔西福寺〕—梶原塚(三)	三六八	櫻梅(一)	六二〇
〔西光寺〕—品川(一)	三七八	西福寺—淺草(三)	四三九	〔櫻ヶ井〕(二)	二四
〔西光寺〕—澁谷(二)	六二	〔西福寺〕(三)	四〇〇	櫻ヶ井(二)	二五
西光寺—箕輪(三)	四九五	宰府天満宮(四)	一一一	櫻ヶ池(一)	一〇三
西光寺—澁江(四)	三三七	三明山千手院(二)	五三七	〔櫻ヶ峯〕(三)	三三六
西歸山常光寺(四)	一四	最明寺(二)	二五三	櫻川—芝(一)	三二七
最正山覺林寺(二)	六二	〔最明寺〕(二)	二五四	櫻川—新宿(二)	二七四
最勝寺(四)	一六八	採藥阜(二)	四四三	櫻車の道(三)	八七
〔最勝寺〕(四)	一七〇	〔境木〕(一)	五七八	〔櫻車の道〕(三)	八七
濟松寺(二)	五三一	界木(一)	五八二	櫻田(二)	三三
〔濟松寺〕(二)	五三三	界地藏(一)	六六九	左近屋敷(二)	二四九
〔才藏市〕(一)	一四〇	坂稻荷(一)	三三一	〔佐々木宮〕(一)	四九〇
〔西藏院〕(三)	七三	榮の梅(二)	五三七	佐々木明神社(一)	四九三
西藏院(三)	七六	相摸臺(四)	二八三	篠寺(二)	二六八
西臺山圓福寺(三)	四三	鷺森神明宮(二)	六一	〔篠寺〕(二)	二六九
採茶庵舊蹟(四)	三四	鷺大明神祠(二)	六四六	篠堤(三)	四八五
齋藤實盛の墓(三)	五五四	〔鷺森神明社〕(二)	六三	薩摩堂(一)	二二一

—— 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

里の稻荷(二)	三〇二	三次權現(三)	四三	五月雨塚(二)	五九九
實朝の碑(二)	五九一	〔三社の縁起〕(三)	四四	〔五月雨塚〕(二)	六〇二
三縁山西福寺(三)	三六七	三社大權現(三)	三九八	鮫河橋(二)	二七五
三縁山増上寺(一)	二〇三	三十三間堂(四)	二〇	〔鮫ヶ橋〕(二)	二七六
三市堂(四)	一〇三	〔三十三間堂〕(四)	二四	鮫頭觀世音(一)	三六七
山王權現—丸子村(二)	二五七	三十番神堂(四)	一五八	鮫頭明神祠(一)	三七五
山王權現—木下川(四)	二四一	山葵搦(四)	二四一	三郎殿屋敷跡(二)	三八〇
〔山王社〕(三)	二二六	三千人塚(二)	三六七	狭山(三)	一〇〇
山王大權現社(三)	二四〇	三艘ヶ浦(一)	六七一	狭山の池—赤坂(二)	三
〔山王祭〕(一)	一五〇	〔三艘ヶ浦古事〕(一)	六七二	狭山の池(三)	九六
〔山王御旅所〕—永田(一)	一五六	三寶寺(三)	五三	〔さらし井〕(四)	一三九
三角井(二)	六四一	三寶寺池(三)	六三	〔猿江摩利支天祠〕(四)	一六六
三國傳來千手觀音(二)	五四〇	〔三寶寺池〕(三)	六〇	去我苦塚(二)	一八六
三鈷の松—芝(二)	七六	三本杉(一)	六五一	猿ヶ俣(四)	二八三
三鈷の松—練馬(三)	五五	三佛堂(四)	五四	猿島(一)	六七九
〔三崎〕(三)	二八六	〔山谷熱田明神社〕(三)	四八九	猿寺(二)	五三〇
〔寒橋〕(一)	一八四	〔山谷堀〕(三)	五六五		

—— 畫挿はるたし附を( )・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

〔猿若狂言の古圖〕(一)	一六	慈雲寺(四)	三六	〔潮見坂〕(一)	二七九
洲乾辨財天(一)	五八	十夜法會(一)	二六	潮見坂―赤坂(二)	三
〔十玉院〕(三)	七二	十夜待(二)	六四	〔壽源寺〕(一)	二五六
十玉院(三)	七四	十羅刹女堂(三)	三	慈岳山松蓮壽昌禪寺(二)	四二
周光山濟海寺(一)	二六五	十羅刹女宮(三)	三	〔しがらき茶店〕(一)	五〇〇
十三塚(一)	二四五	宗論芝(三)	四九	時雨の岡(三)	四八四
〔十三塚〕(一)	二四六	〔宗論芝〕(三)	五五	〔時雨の岡〕(三)	四九四
〔秋色櫻〕(三)	二二八	慈惠大師の影像(三)	五五八	〔時雨の松〕(三)	四八四
拾穂軒別荘舊地(一)	六〇四	〔鹽河岸〕(一)	七四	慈光院(四)	一三四
宗祖日蓮大士石塔(一)	四〇七	〔汐留橋〕(一)	一九四	慈光寺(二)	五〇八
十二所權現社(二)	四八五	鹽濱―河崎(一)	二〇一	慈眼山萬福寺(一)	四〇〇
十二天の森(三)	五二四	鹽濱―行徳(四)	四八〇	慈眼堂―寺尾村(一)	五二〇
〔十八講王子〕(一)	三四五	〔汐千觀世音〕(二)	二九四	慈眼堂―下谷(三)	二四八
紫雲山瑞聖寺(二)	七七	汐千觀世音(二)	二六六	指月橋(二)	四四二
慈雲山瑞林寺(三)	二六〇	潮見坂―芝(一)	二六五	〔侍從川〕(一)	六六六
			二七八	侍從川(一)	六六九
				四十丁村(四)	四九

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――

自在庵の舊址(四)	一八二	〔十軒店雜市〕(一)	七六	〔忍川〕(三)	二二八
〔自證寺〕(二)	四七五	實相院(二)	二〇八	忍の岡(三)	二四五
自證寺(二)	四六八	悉地院(二)	六三	忍ぶの森(一)	五九一
自昌院(三)	一四二	自得山靜勝寺(三)	三五三	〔戲場〕―堺町、葺屋町(一)	一三四
下谷稻荷(三)	四七一	〔靜勝寺〕(三)	三五五	〔芝居〕―木挽町(一)	一九二
〔下谷稻荷〕(三)	四七三	〔品川沙干〕(一)	三四	芝浦(一)	二四九
下谷の岡(三)	四七一	〔品川驛〕(一)	三四〇	芝口御門(一)	二〇一
七社權現宮(三)	一三六	品川驛(一)	三三九	芝崎道場(三)	四六一
七寶山藥王寺(二)	四六五	〔科濃坂〕(一)	五八〇	芝崎村(一)	七九
七佛藥師如來(二)	四四	品野坂(一)	五八二	〔澁江西光寺〕(四)	二三八
〔七面山〕(二)	二二八	〔篠塚稻荷〕(三)	四三八	澁川左衛門佐義行居城舊跡(三)	一五一
七面大明神社―牛込(二)	四六八	篠塚稻荷社(三)	四三三	〔澁谷長谷寺〕(二)	一六六
七面大明神社―日暮里(三)	二七五	不忍池(三)	二二五	〔澁谷氷川明神社〕(二)	一六八
靜の長刀(三)	三九一	〔不忍池〕(三)	三三〇	〔清水稻荷〕(三)	四三三
十騎社(一)	四三八	〔不忍池蓮見〕(三)	三三三	清水稻荷社(三)	四三五
〔十騎社〕(一)	四三九	〔忍岡稻荷社〕(三)	二三六	清水坂―麴町(二)	三
十軒店(一)	六八	忍岡稻荷祠(三)	二四〇	清水坂―志村(三)	三七

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――

〔清水坂〕(三)	四〇	新高野(三)	五八	〔新橋地圖〕(一)	二〇一
清水如水宅地(一)	二五	新駒ヶ原(一)	八三	新日暮里(二)	二七九
清水大根(三)	四三	神息劔(四)	三六六	〔眞福寺〕—芝(一)	二〇〇
清水谷(一)	三三	眞言教院(二)	一五〇	〔眞福寺〕—大森(一)	四三〇
〔清水薬師〕(三)	四〇	信州善光寺燈明(三)	四七〇	眞福寺橋(一)	一六三
清水薬師如来(三)	四三	神泉水(二)	一七九	心法寺(二)	一九
深榮山長昌寺(三)	五五	神泉の松(四)	一九一	〔心法寺〕(二)	二〇
〔新大橋〕(一)	一三四	〔深大寺〕(二)	三〇六	〔新堀端〕(三)	四四三
新大橋(一)	一三六	深大寺城跡(二)	三三四	〔神明宮〕(一)	五九〇
新河岸(四)	二九〇	〔深大寺蕎麥〕(二)	三三〇	神明宮—早稻田(二)	五三八
新川(一)	一六三	深大寺蕎麥(二)	三三三	神明宮—本所(四)	四八
〔新川酒問屋〕(一)	一六六	新田山成就院(一)	四八八	神明宮—龜戸(四)	二二四
眞覺山西光寺(三)	四八五	神道(二)	三七一	神明宮—行徳(四)	二九一
心光院(一)	二四八	新利根川(四)	三〇三	神明山(二)	四四七
眞光山善通寺(四)	二六五	辰爾山佛藏院勝樂寺(三)	三三三	〔新吉原町〕(三)	五七〇
信康山龍泉寺(二)	一四三	〔新橋〕(一)	一九四	新吉原遊女町(三)	五六九
新光寺(三)	一四二	新橋(一)	二〇一	親鸞上人壽像(三)	四七七

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

親鸞上人御影堂(四)	二七七	〔壽經寺〕(三)	六	請雨經(一)	六二二
神齡山護國寺(二)	六三三	珠玉山寶藏寺(一)	二九八	〔請雨松〕(一)	六三二
注連樹(二)	三四五	宿坂關の舊跡(二)	五七五	〔祥雲寺〕(三)	一八
釋迦堂(一)	四〇六	〔宿坂關舊址〕(二)	五七五	祥雲寺(三)	二四
蛇反の劔(二)	四七七	壽源寺(二)	二五三	松榮山西光寺(一)	三八一
釋迦牟尼佛堂(三)	一四七	儒者捨場(二)	六一九	稱往院(三)	四六三
若一王子の社(三)	三三八	出世稻荷(三)	三七	松音寺(一)	五一〇
石神井川(三)	三五三	〔種徳寺〕(二)	一四六	生姜市(一)	二二二
〔石神井城址〕(三)	六〇	壽福寺(二)	四四三	〔正覺院〕(二)	七四
石神井城址(三)	六三	〔壽福寺〕(二)	四四五	正覺山妙源寺(四)	一六八
石神井明神祠(三)	一六三	蓴菜の産(三)	一三九	正覺山月桂寺(二)	四六一
〔石神の社〕(一)	二九九	馴象の枯骨(二)	四九四	〔正覺寺〕—樵寺(三)	四三〇
石神の社(一)	三〇〇	〔駿馬塚〕(三)	五〇〇	〔正月元旦諸侯登城〕(一)	三八
石神横町(一)	三〇〇	駿馬塚(三)	五〇一	姜祭(四)	三三八
捨世寺(三)	四三二	正一位子明神社(二)	一九三	〔成願寺〕—鶴見村(一)	五〇三
蛇混相(一)	六五一	祥雲寺(二)	五四	〔成願寺〕—淀橋村(二)	四八六
		淨雲稻荷(三)	二四〇	成願寺(二)	四八八

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

城官寺(三)	三〇八	勝光院(二)	二〇六	性壽庵(一)	三二一
松龜山(一)	三〇七	〔常光寺〕(一)	二九七	正受院(三)	三三三
上行寺(一)	三〇九	常光寺―弦卷村(二)	一九六	松樹山明王院(二)	九六
〔承教寺〕(二)	三一一	常光寺―寺島村(四)	二三四	靜勝寺(三)	三五三
〔上行寺〕(二)	三一二	淨興寺(四)	二六六	常唱堂(四)	三四六
常行堂(三)	三二七	常光寺六阿彌陀(四)	一三三	常仙寺(一)	一九
正宮寺(一)	三二六	淨居山青雲寺(三)	二七七	〔常仙寺〕(二)	三〇
上宮太子堂	三二四	上古海道(一)	三七五	〔松泉寺〕(二)	一四四
將軍塚(三)	三二六	證據の名號(三)	三七四	正藏院(二)	五三〇
〔將軍塚〕(三)	三二六	淨殿の傳(三)	二〇〇	〔裝束島〕(三)	三四二
〔松月院〕(三)	三二六	常在山雲山寺(四)	一五	正中山本妙法華經寺(四)	三四一
松月院(三)	三二六	照心堂(二)	二〇一	正定山幸國寺(二)	五三七
聖同庵(三)	三二〇	淨心寺―本所(三)	二八五	昇天山金龍寺(一)	六五六
常見山光傳寺(一)	三二九	淨心寺―深川(四)	二	聖天宮―淺草(三)	五六九
松源寺(二)	三二七	淨眞寺(二)	二七	聖天宮―下谷(三)	二二四
〔松源寺〕(二)	三二七	〔松秀寺〕(二)	六八	正燈寺(三)	四八四
正光院(二)	三二九	松秀寺(二)	六二	〔正燈寺の丹楓〕(三)	四九六

―― 董挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――

淨土寺(二)	一四三	〔白魚取る圖〕―佃島(二)	一八〇	城山―石神井村(三)	五九
勝福寺舊址(一)	四九四	自樂居士の墓(二)	五四一	城山―道灌山(三)	二八〇
照法山本久寺(四)	一六八	白清水(二)	四五三		
正保山東漸寺(三)	四四四	白旗塚(三)	五二五		
松本山廣福寺(二)	三三六	白旗八幡宮(一)	四九七	瑞應山弘明寺(一)	五八七
〔稱名寺〕(一)	六一〇	〔白旗八幡宮〕(一)	五〇四	〔瑞應山の額〕(一)	五九一
稱名寺(二)	三七三	〔白髭神社〕(三)	三三六	瑞現櫻(二)	四六五
常樂院(三)	四七四	白髭明神―平塚村(三)	三〇九	隨見屋鋪(一)	一六三
〔常樂院〕(三)	四八〇	白髭明神―向島(四)	一九五	瑞光石(三)	五〇四
勝樂寺(三)	一三三	〔白髭明神〕(四)	一九七	水神社―小石川(二)	五九九
〔勝樂寺〕(三)	一三五	白髭明神―木下川(四)	二四一	〔水神社〕―向島(四)	二二六
勝林山金地院(一)	二四〇	印の榎(二)	三	水神宮―向島(四)	二六六
乘蓮寺(一)	五八三	〔白銀妙見堂〕(二)	八六	瑞聖寺(二)	七七
〔乘蓮寺〕―井戸谷村(一)	五八四	代小川(二)	三六七	〔瑞聖寺〕(二)	八三
〔乘蓮寺〕―板橋(三)	三六	城山―麻布(一)	二四四	瑞泉山祥雲寺(二)	五四
松蓮寺(二)	四二	城山―關戸村(二)	四三八	水道橋(一)	八五
諸源山稱名寺(二)	三七三	城山―新座村(三)	五〇	〔水道橋〕(一)	九三

―― 董挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ―――

瑞鳳山祥雲寺(三)	二四	〔杉森稻荷神社〕(一)	一三〇	〔筋違八ッ小路〕(一)	九六
瑞龍山宗參寺(一)	四八九	杉山神社(一)	五五九	須田河原(四)	二〇七
瑞林寺(三)	二六〇	〔杉山明神〕(一)	五七〇	〔砂尾不動〕(三)	五三三
末廣松(一)	四七六	杉山明神祠(二)	三三	砂尾不動(三)	五五〇
〔末廣松〕(一)	四七七	鈴森八幡宮(一)	三八五	〔砂村富岡元八幡〕(四)	二八
〔末吉不動堂〕(一)	四九五	洲崎(一)	六四〇	洲の崎明神(一)	三五五
末吉不動堂(一)	四九六	〔洲崎辨財天社〕(一品川(一))	三四六	隅田河(四)	一九八
〔姿見橋〕(二)	五七〇	洲崎辨財天社―深川(四)	三二	〔隅田河合戦〕(三)	五四三
〔姿見橋〕(二)	五七八	〔洲崎辨財天社〕(四)	二六	〔隅田河堤〕(四)	二一〇
〔巢鴨庚申塚〕(三)	二八	洲崎明神(一)	五三四	隅田河堤(四)	二〇七
〔巢鴨眞性寺〕(三)	二七	〔洲崎明神〕(一)	五三六	〔隅田河渡し〕(三)	五四〇
菅原道武舊館地(二)	三八〇	鈴石(一)	三八八	隅田河渡し(三)	五四七
洲河原桃林(一)	四六七	鈴懸松(二)	二八九	〔隅田河渡し〕(四)	二〇八
〔杉田村海嶺の製造〕(一)	五九六	〔鈴の森〕(一)	三九〇	隅田の宿(四)	二二二
〔杉田村梅園〕(一)	九九四	〔鈴の森八幡宮〕(一)	三八六	〔住吉神社〕(佃島(一))	一七六
杉本靈泉(一)	四四三	〔雀ヶ浦〕(一)	六七六	〔住吉明神〕(井戸谷村(一))	五八四
杉森稻荷社(一)	一九	筋違橋(一)	八五	住吉明神―佃島(一)	一八二

駿河臺(一)	八五	〔誓閑寺〕(早稻田(二))	五四二	〔清林寺〕(二)	七三
〔駿河町三井〕(三越(一))	六三	〔誓願寺〕(浅草(三))	四五三	〔清立院〕(二)	六六
諏訪山吉祥寺(三)	二九三	誓願寺浅草(三)	四六〇	清立院(二)	六四〇
〔諏訪神社〕(小石川(二))	五八	誓願寺(三)	五〇四	清涼橋(二)	二〇一
諏訪の臺(三)	二七六	〔聖岡庵の舊跡〕(三)	三三	清瀧山蓮華寺(四)	一九三
諏訪社(二)	三九四	清玄坂(二)	五七六	關口( )	五九八
諏訪明神社―小石川(二)	五九	清光山安養寺(二)	四六四	〔關口八幡宮〕(二)	六〇
〔諏訪明神社〕(諏訪谷村(二))	四七一	性光山圓頓寺(一)	四三三	關口八幡宮(二)	六一
諏訪明神社―日暮里村(三)	二七六	清光寺(三)	三七二	石上山彌勒寺(二)	三七四
諏訪明神社―淺草(三)	四三六	〔清光寺〕(三)	三七二	〔關戸惣圖〕(二)	四三三
〔諏訪明神社〕(三)	四三八	西湖梅(一)	六二八	〔關戸天守台〕(二)	四三六
諏訪山(三)	二九三	青松甲斐(二)	一八	關の道觀坊(三)	二八〇
セ		〔青松寺〕(一)	三三六	咳逆耆嫗(一)	一八三
青雲寺(三)	二七七	清水寺觀世音菩薩(三)	四三三	〔關屋天滿宮〕(四)	二二三
栖岸院(二)	一八	〔清土星の清水〕(二)	六三六	關屋の里(四)	二二七
誓閑寺(二)	五四一	聖堂―湯島(三)	一七九	〔關屋の里〕(四)	二三〇
		〔聖堂〕(三)	一八〇	〔世田ヶ谷豪徳寺〕(二)	二〇三

世田ヶ谷八幡宮(一)	二〇八	禪英山寶泉寺(二)	五三三	〔千住川〕(三)	五〇六
〔世田ヶ谷八幡社〕(二)	二〇五	善慧上人(一)	四二七	專修寺(二)	一四三
絶景觀(二)	二四	善應寺(一)	六三九	〔專修寺〕(二)	一四四
〔節分會〕—淺草(三)	三九六	仙鶴山松隱寺(一)	五二〇	千住の大橋(三)	五〇九
瀬戸(一)	六四〇	〔泉岳寺〕(一)	二九三	先聖殿(三)	一八二
瀬戸明神(一)	六四七	千貫松(一)	三七四	淺草寺(三)	三七九
〔瀬戸明神〕(一)	六四八	千貫牡丹(一)	三七四	〔淺草寺〕(三)	三八〇
〔瀬戸明神の額〕(一)	六四七	淺間の淵(三)	五一四	淺草寺緣起(三)	四二二
瀬戸橋(一)	六四〇	〔淺間社〕(一)	五五七	〔淺草寺緣起〕(三)	四二六
瀬戸辨財天(一)	六五三	淺間堀兼(三)	二九	千束池(一)	四二五
〔瀬戸辨財天〕(一)	六五三	專光寺(一)	六六八	〔千束池〕(一)	四二六
錢買橋(一)	五三	仙谷山壽福禪寺(二)	四四二	千束郷(三)	四八五
錢瓶橋(一)	五三	泉谷寺(一)	五四七	千體荒神堂(一)	三六五
錢瓶辨財天社(三)	三九九	〔泉谷寺〕(一)	五四八	〔千體荒神堂〕(一)	三六六
錢塚辨財天祠(三)	三九九	千歳杉(一)	三三三	〔千駄ヶ谷觀音堂〕(二)	二八六
禪英山金輪寺(三)	三四七	千手院(二)	五三七	千駄ヶ谷觀音堂(二)	二八八
		千手觀世音(二)	一九	〔千駄ヶ谷大神宮〕(二)	二八〇

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一・め中(

千駄ヶ谷八幡宮(二)	二八九	草原山威光寺(一)	四三三	宗良親王陣營舊址(二)	五五三
〔千駄ヶ谷八幡宮〕(二)	二九〇	〔宗三寺〕(一)	四九〇	蒼龍山松源寺(二)	五二七
善通寺(四)	二六五	宗參寺(二)	五三六	祖師堂(一)	四〇六
善導大師影像(一)	四六	雜司ヶ谷鬼子母神出現所(二)	六四〇	曾谷妙見尊(四)	三三九
旃檀林(三)	二九三	〔雜司ヶ谷名物〕(二)	六四八	袖ヶ崎(二)	七七
千日寺(二)	二七	雜色(二)	三六	袖の浦(一)	五五六
千日參り(二)	一九	〔増上寺〕(一)	二〇四	磯馴松(一)	三九二
千年松(四)	一四六	〔増上寺山内〕(一)	二二二	曾根の松(二)	一一四
善明寺(二)	三六四	〔總泉寺〕(三)	五三三	園女櫻(四)	一四
善福寺(二)	三六	總泉寺(三)	五五一	村高山栖岸院(二)	一八
〔泉龍寺〕(二)	三三	總持寺(三)	五二四	染井(二)	三〇五
龍泉寺(二)	二三	總寧寺(四)	三〇八	徂徠先生居の宅地(一)	一四五
		〔總寧寺〕(四)	三〇	徂徠先生の墓(一)	二七五
		〔總寧寺羅漢井〕(四)	三四一		
		宗柏寺(二)	五三四		
宗圓寺(二)	一九七	宗廟(一)	二二一	田遊の祭(三)	四九
宗慶寺(三)	一七			泰雲寺(二)	五七六

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中(

〔泰雲寺の古事〕(二)	五七七	〔大師河原〕(一)	四七〇	〔大日坂〕(二)	五九七
大覺山淨心寺(三)	二八五	大師巖室(二)	三三七	大日堂(二)	五九六
大行院(二)	六五一	大慈寺(二)	六二八	太寧寺(一)	六七一
大鏡山南藏院(二)	五七〇	帝釋天王(四)	二七七	大般若堂(三)	一六二
大金山光明寺(一)	四三二	大將塚(二)	二二三	大悲心院(三)	一九六
大宮山東光寺(三)	一七三	太子堂―向島(四)	一六九	大悲籤(三)	二九九
大溪山豪徳寺(二)	二〇〇	太子堂―高輪(一)	二九一	大佛殿(三)	二二九
戴溪堂(三)	八六	〔太子堂〕(一)	二九六	〔大平榎〕(四)	二二九
〔戴溪堂〕(三)	八七	大神宮―神戸村(一)	五七三	泰平觀世音堂(二)	一五四
大元堂(三)	一九六	大神宮―千駄谷(二)	二七九	〔泰平觀世音堂〕(二)	一五三
大綱山光明寺(一)	四三	大井山弘福寺(一)	三六三	大平塚(四)	二二五
大黒天(三)	一三	大宗寺(二)	二七四	大峯山慈雲寺(四)	三六四
〔大黒詣〕(三)	二五	代太橋(二)	二九四	大法山本傳寺(二)	六一
大谷山法泉寺(二)	四三	〔代太橋〕(二)	二九五	大法寺(四)	一五五
〔太鼓橋〕(二)	九四	大堂(三)	四四	大門(一)	二二四
太鼓橋(二)	九七	〔大堂〕(三)	四六	大雄山海禪寺(三)	四六三
〔大師穴〕(二)	二二六	大銅鏡(一)	二二〇	〔平惟盛古墳〕(二)	四〇九

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ――

平惟盛の墓(二)	四一〇	〔高田八幡宮〕(二)	五四五	瀧不動尊(三)	三五三
大龍山永源寺(三)	一〇七	高田富士山(二)	五五三	〔澤藏主稻荷社〕(三)	八
第六天―麴町(二)	一一	〔高田本松寺〕(二)	五五五	多久藏主稻荷社(三)	一一
第六天―淺草(三)	四三	〔高輪大木戸(一)〕	二八八	〔竹女故事〕(一)	二五四
高石明神(四)	三三九	高輪大木戸(一)	二八八	竹柴寺(一)	二六五
〔高石明神〕(四)	三四五	〔高輪牛町(一)〕	二八二	竹柴寺舊址(一)	二七三
高井戸(二)	二九四	高輪ヶ原(一)	二八八	〔竹柴寺古事〕(一)	二七〇
鷹居の松(二)	一〇八	高幡山金剛寺(二)	四〇四	竹女水盤(一)	二四九
高田稻荷神社(二)	五四九	〔高幡不動堂〕(二)	四〇七	竹の臺(三)	二三五
〔高田守宮池〕(二)	五五〇	高間櫻(二)	一五一	〔鮎薬師堂〕(二)	一〇二
高田七面堂(二)	五六四	鷹門(一)	二二	鮎薬師如來(二)	一〇一
〔高田七面堂〕(二)	五六六	〔高山稻荷社〕(一)	三〇一	田島山誓願寺(三)	四六〇
高田天満宮(二)	五五五	燒さしの松(一)	六四一	〔多田薬師堂〕(四)	一六四
〔高田天満宮〕(二)	五五六	瀧の橋(一)	五三五	多田薬師堂(四)	一六七
高田馬場(二)	五五七	瀧の川―金澤(一)	五三五	〔立川の寺〕(二)	三九〇
〔高田馬場〕(二)	五五八	〔瀧の川〕―瀧川村(三)	三三四	立野の舊跡(三)	六五
高田八幡宮(二)	五四四	瀧の社(二)	三四〇	〔橋明神〕(二)	二四八

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ――



橘明神(一)	二四九	多寶山成願寺(二)	四八八	丹頂の池(四)	二六
尊衣婆像(三)	四三九	多寶塔(一)	三五五	溜池(二)	三
龍川(二)	一六三	玉池(二)	一七九	溜池白山祠(二)	三
たつてうば(二)	五七六	多摩川(二)	三九四	多目周防の宅地(一)	五五
龍の口(一)	五	〔多摩川の鮎〕(二)	四〇〇	田安の臺(一)	八五
立石(四)	二五	〔多摩川沿岸〕(二)	三九六	田安明神(一)	八五
〔立石〕(四)	二六三	〔多摩川さらし〕(二)	四〇三		
帶刀先生義賢の墓(二)	二二三	玉川上水(二)	五七	子	
田中稻荷(四)	一六九	玉川の瀧(二)	三	血洗川(四)	三五八
田中辨財天祠—二子村(二)	一九六	玉の井(二)	一七九	致航山満願寺(二)	一三三
田中辨財天—本郷(三)	二八五	手向野(三)	四四	持國坂(四)	三三三
七夕和歌連歌會(四)	一八	丹後殿前(一)	九八	智清寺(三)	三七
田面の神事(二)	三五〇	短冊翁の舊跡(三)	三三八	地藏坂(三)	三七
〔田畑八幡宮〕(三)	三〇二	誕生池(二)	一七六	地藏の古碑—淺草(三)	三九八
田畑八幡宮(三)	二九	誕生會(一)	二六	地藏堂	三七四
旅立御影(一)	四〇六	彈正橋(一)	一六三	乳垂の松(二)	二四
當麻曼茶羅(一)	四三六	誕生八幡宮(二)	八九	千年の松(二)	五五三

千鳥—洲崎(四)	二	朝覺院(二)	一七	長命寺(四)	一八二
重願院(四)	四〇	長久山本行寺(三)	二六	長命水(四)	一八二
千葉家城跡—志村(三)	四三	長源寺(三)	九五	長命密寺(三)	五四
千葉家城跡—赤塚(三)	五〇	鈞玄堂(一)	三三	長立山常光寺(二)	一九八
千葉家の墓—六浦(一)	六五	長耀山感應寺(三)	二六〇	千代ヶ崎(二)	二四
千葉家の墓—橋場(三)	五五	長光山陽嶽寺(四)	二	〔千代ヶ崎〕(二)	二六
千葉五郎胤道の旗(四)	一八一	〔長者穴〕(二)	三三〇	〔千代世稻荷〕(四)	一九〇
茅原の里(三)	四三	長者穴(二)	三三	千代世稻荷(四)	一九三
〔陣街道〕(二)	三六五	長青山梅窓院(二)	一五四	千代田城(一)	三六
陣街道(二)	三六八	長誓山妙顯寺(三)	一四七	千代田村舊跡(一)	七六
鎮護山自證院(二)	四六八	長善寺(二)	二六八		
鎮座の松(二)	一七一	〔長禪寺〕(二)	二七八	ツ	
茶碗鉢店(一)	一六三	長泉律院(二)	一四	追儼の神事(四)	一八
中臺山光圓寺(三)	一五	〔長泉律院〕(二)	一八	杖銀杏樹(二)	三六
長榮山本門寺(一)	三九	智譽上人傳(三)	四六八	築地の門跡(一)	一八九
超越山西光寺(四)	二二七	調布の古唄(二)	二九八	〔調の神社〕(三)	一五三
長悅の像(二)	一三三	〔長命寺〕(四)	一七六	調の神社(三)	一五六

月の岬(一)	三六五	局澤(一)	五	天恩山五百阿羅漢禪寺(四)	六四
月見連歌會(四)	二八	津保宮(二)	三六	天海の傳(三)	二四八
月讀宮二十三夜(三)	一六	妻戀臺(三)	二四	天下泰平神事(二)	三五〇
土筆ヶ原(二)	六〇	妻戀大明神社(三)	二四	天神ヶ谷戸(一)	三〇三
佃島―湊稻荷(一)	一七	〔妻戀明神社〕(三)	二〇五	天神の森(二)	二二九
〔佃島〕―住吉社(一)	一七	弦卷川(二)	六五	天守臺(二)	四二八
〔築土八幡宮〕(二)	五八	弦卷郷(二)	二〇八	殿守臺の舊址(四)	三三
築土八幡宮(二)	五〇	鶴見川(一)	四九六	天松山最教寺(四)	一四六
津久土明神社(二)	五七	〔鶴見橋〕(一)	四九八	天照大神宮―木下川(四)	二四一
筑波山護持院(二)	六〇	テ		天川山妙福寺(四)	二七七
筒粥の神事(四)	三六	泥牛庵(一)	六五	天澤山麟祥院(三)	二〇七
都筑の丘(二)	四一	手島元重の墓(三)	四六	傳通院(三)	一六
津戸三郎爲守の墓(二)	三〇	鏗炮洲(一)	一七四	〔傳通院裏門〕(三)	一〇
綱坂(一)	二六	天王山靈雲院(四)	四三	傳通院總門	一〇
綱塚(一)	二六	天王殿(四)	一〇三	田中山西應寺(一)	二五八
經基寺(二)	三七	天王横町(二)	二六四	天道念佛(四)	三六二
〔角筈村十二社〕(二)	四二			〔天道念佛隨の圖〕(四)	三六三

――畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

天女稻荷(三)	二七	東覺寺(四)	二五	道三河岸(一)	五三
天然寺(一)	六〇	稻荷山藥王寺(二)	四六	道三橋(一)	五二
天満宮(二)	一八	道灌塘(三)	五九	東昌寺(二)	一〇九
〔天如國寺〕(一)	三六	道灌の木像(三)	三五	東照大權現宮(三)	二二九
展翼峰(二)	四七	道灌斤候塚(三)	二六	東照大權現宮―府中(二)	五四五
〔天龍寺〕(一)	三三	道灌山―神奈川(一)	五五	道場畑(二)	三三三
〔寺島蓮花寺〕(四)	一六	道灌山―田端(三)	二八〇	同勢山(二)	一八七
照天姫松(一)	六〇	道灌松(二)	四六〇	〔禱善寺〕(二)	二二六
照日塚(三)	六三	〔道灌山の聽蟲〕―田端(三)	二七八	禱善寺(二)	二二〇
ト		藤吉稻荷(三)	二七	〔東禪寺〕(一)	三〇二
勝雲山明覺寺(二)	四九	道鏡谷(二)	四六	道祖神祠(二)	五九六
東叡山寛永寺(三)	二四	道支坂(二)	一七九	等持院(二)	三七三
〔東叡山勸學寮〕(三)	二四	道支物見の松(二)	一八三	堂地入(三)	一二七
〔東叡山黒門前〕(三)	二八	東光山西福寺(三)	四三九	當知山本誓寺(四)	四〇
〔東海寺〕(一)	三六	東光山藥王寺(三)	一四三	洞塚(二)	三六六
東覺山吉祥院(二)	二五	東光寺(三)	一七二	〔洞塚〕(二)	三六五
		藤根堂(一)	一五	盜難除不動尊(四)	一三八

――畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

東福寺(一)	四五	常盤橋—日本橋(一)	五三	〔豐島川〕(三)	三七二
道本山靈巖寺(四)	三九	常盤橋—世田ヶ谷村(二)	一九八	豐島家の墓(三)	三七二
堂前(四)	二〇	〔常盤橋〕(二)	一九九	豐島太郎義近(三)	三六七
東明寺(三)	五一	〔吐玉水〕(二)	四四九	豐島驛(三)	三六七
東野先生の墓(三)	五三	吐玉泉(二)	四四七	年越の神事(四)	二一八
東陽山正燈寺(三)	四八四	〔德願寺〕(四)	二九三	不年越川(三)	一三五
藤林山西福寺(三)	三〇五	德願寺(四)	二九四	〔年の市〕(三)	四〇八
東林山寶蓮寺(四)	二一八	獨鈷の瀧(二)	一〇八	〔戸田川の渡し〕(三)	一四四
冬嶺山松秀寺(二)	六二	德乘寺(二)	四四	〔戸田羽黒靈泉〕(三)	一四三
〔遠江守義貞矢口にて雷火にうた る〕(一)	四四	〔德藏寺〕(三)	九八	戸塚(二)	五五四
通町(一)	六八	獨立禪師木版(三)	八八	戸塚稻荷(二)	五四九
戸隠明神(三)	二〇六	戸越八幡(一)	三九六	とどめき(二)	五三六
時の鐘(一)	六八	〔戸越八幡〕(一)	三九七	殿山(二)	二二三
常盤の御宮(四)	三七〇	所澤(三)	一三九	飛石山(一)	六五六
〔常盤の清水〕(二)	三七六	野老澤(三)	一三八	頼宮明神(四)	二一八
常盤の清水(二)	三七九	〔所澤の卯花〕(三)	一三九	富ヶ岡八幡宮(四)	一八
		〔所澤藥王寺〕(三)	一四〇	〔富岡八幡宮〕(四)	七

畫師はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )

戸山(二)	五六〇	〔中坂〕(一)	九〇	中延八幡宮(一)	四一五
登與瀨明神(一)	四三八	中島辨財天(三)	二二五	〔中橋〕(一)	一四二
寅薬師如來(二)	一九	長島の湊(四)	三〇三	〔長森稻荷〕(二)	二二〇
鳥越の里(三)	四三三	中洲(一)	一三六	長森稻荷社(二)	二二三
虎柏神社(二)	三〇〇	中津川(四)	一九八	〔中山寺〕(四)	二五八
〔虎柏社〕(二)	三〇一	永田馬場山王御旅所(一)	一四一	〔中丸子羽黒權現〕(二)	三四四
〔寅薬師〕(二)	二〇	〔永田馬場山王御旅所〕(一)	一五六	半井卜養翁居宅の地(一)	一七四
鳥越明神社(三)	四三九	中野(二)	四八九	泣銀杏樹(四)	三四六
		中郷八幡宮(四)	一六三	椰の樹(四)	一八二
		中野七塔(二)	四九一	名越の祓(四)	一八
		〔中野塔〕(二)	四九〇	〔梨園〕—市川(四)	三三四
		中野長者正蓮の墳墓(二)	四八九	菜種の神事(四)	一一八
		〔仲之町八朔の圖〕(三)	五七三	夏島(一)	六七八
		中の橋—品川(一)	三四七	夏見の厨(四)	三六一
		中の橋—帷子町(一)	五七三	棗の天神(二)	四六五
		〔中延八幡宮〕(一)	四八	七ツ石(一)	五九二
		〔中野寶仙寺〕(二)	四九三	七曲坂(二)	五七四

ナ

畫師はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )

七曲りの井(三)	一三五	行方彈正忠明連の宅地(一)	四三三	〔西新井大師堂〕(三)	五二六
難波の梅(二)	一四四	〔奈良茶飯〕(一)	四六四	〔二十六夜待〕(一)	二八六
〔鍋屋の井〕(三)	三六六	成田下總守長泰の舊地(二)	一五	〔錦繪〕(一)	一一〇
鍋屋堀(四)	四二	業平塚(三)	八六	錦の御影(四)	二九五
〔生麥村〕(一)	五〇〇	〔業平天神社〕(四)	一六三	〔西久保八幡宮〕(一)	二四五
波切不動堂(二)	六二五	業平天神社(四)	一六三	西窪八幡宮(一)	二六四
〔波切不動堂〕(二)	六二六			西宮稻荷祠(三)	三九九
南郭先生の墓(一)	三三九			〔西本願寺〕(一)	一八六
〔南郭先生の墓〕(一)	三三〇			西本願寺(一)	一八九
南光坊の傳(三)	二四〇	〔新宿の渡し〕(四)	二七九	西向の天神(二)	四六五
〔南藏院〕(四)	二六〇	〔二位禪尼影堂〕(一)	五八三	日圓山妙法寺(二)	五〇三
南藏院(二)	五七〇	新曾村(三)	一四七	日常上人石塔(四)	三四六
男體の宮(二)	五七一	新堀支藩居住の地(三)	一三七	日什上人の墓(一)	三五四
南天寺(二)	五二七	仁王塚(二)	三〇八	日祐上人の墓(四)	三四六
難波田彈正舊館の地(三)	七五	二階堂出羽守石塔(一)	三七三	〔日輪寺〕(三)	四三三
難波田彈正の城址(二)	三三三	〔二軒茶屋〕(四)	二二	日蓮大士鏡の御影(一)	四〇六
〔行方彈正の宅跡〕(一)	四五〇	迹水(二)	三三五	日蓮大士終焉の舊跡(一)	四〇六

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

日蓮大士茶毗所(一)	四〇六	新田大明神社―渡田村(一)	四八四	〔根岸の里〕(三)	四九三
日蓮大士傳(一)	四二	〔新田明神社〕(一)	四三〇	〔根岸の藤寺〕(三)	四八九
日蓮大士像(一)	四〇六	日暮里(三)	二七五	彌宣町(一)	一一三
日蓮大菩薩(三)	四六五	荷擔堂(三)	二二七	〔猫狸橋〕(三)	二五
〔日蓮初て題目を唱ふ〕(一)	四〇八	〔二ノ江妙勝寺〕(四)	二六九	〔猫狸橋〕(三)	三〇
日朝上人傳(一)	三九九	日本堤(三)	五九	〔寐釋迦堂〕(二)	一〇〇
日荷上人石像(一)	六六三	二本堤(三)	五九	〔寐釋迦堂〕(二)	一〇〇
〔日荷上人二王尊像を貢		〔日本橋〕(一)	五	根附巖(一)	六七八
ふ圖)(一)	六一九	日本橋(一)	六〇	〔根津權現社舊地〕(三)	二八八
日光山専光寺(一)	六六八	〔日本橋魚市〕(一)	五	根津權現社(三)	二八〇
〔日宗寺〕(二)	二六六	女鉢の宮―浦和町(三)	一六一	〔根津權現社〕(三)	二八三
日親堂(一)	二五八	女體の宮―高田村(二)	五七	子聖權現社(一)	二二四
日親上人影堂(二)	六四〇	〔如來寺〕(一)	二九四	〔子明神〕(二)	一九一
日照山普賢寺(四)	二六三			涅槃會(一)	二二六
日照山法禪寺(四)	四			涅槃石(一)	二二
〔日親堂〕(二)	六三八			涅槃門(一)	二二四
新田大明神社―矢口村(一)	四三八	布引觀世音菩薩(一)	二四八		
		布引の御影(二)	五三六		

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

〔根本橋〕(四)	三〇六	範頼の墓(一)	七六	刷毛がきの名號(二)	四
根本橋(四)	三〇八			篁根權現社(一)	六七五
練馬城跡(三)	三三			箱の池―狭山(三)	九六
〔練間長命寺〕(三)	三六	梅香山安樂寺(二)	三八〇	箱の池―箱根崎(三)	一二九
		俳仙寶晉齊其角翁の宿(一)	一四九	橋場(三)	五三七
		梅窓院(二)	一五四	〔橋場の渡し〕(三)	五三〇
納經塚(一)	三八一	梅林坂(一)	五一	橋場の渡し(三)	五四七
〔能見堂〕(一)	六〇〇	梅柳山木母寺(四)	二二五	橋本稻荷社(一)	一七一
能滿院(一)	五三四	萩寺(四)	一四六	橋本宗興寺(一)	五三五
能仁寺舊跡(一)	六五八	白翁道泰の墓(二)	五八七	橋本藥師(一)	一七〇
〔芒村姥島〕(一)	五六二	白山權現(一)	五四七	〔芭蕉庵〕(二)	六〇二
野島(一)	六三九	〔白山權現社〕(三)	二〇	〔芭蕉庵〕(四)	四七
野島の渡し(一)	六四〇	白山神社(三)	二四	芭蕉庵の舊址(四)	四三
野火留(三)	七	羽黒權現(二)	二六〇	芭蕉を移す辭(四)	四三
野火留用水(三)	九四	馬喰町(一)	一〇七	〔蓮〕―泉養寺(四)	六〇
〔登戸宿〕(二)	二五〇	〔馬喰町馬場〕(一)	一〇八	蓮池(四)	五五
〔登戸の渡し〕(二)	二五三	〔馬喰町の馬場の地圖〕(一)	一〇七	裸島(一)	六七九

幡ヶ谷不動明王(二)	五〇八	馬頭觀世音―回向院(四)	五五	般若水(四)	一八二
旗立櫻(二)	五五二	鳩の森(二)	二八九	般若塚(二)	九六
八右衛門殿島(一)	一八三	鼻井(二)	四〇五	萬里居士の舊跡(三)	四九一
八國山(三)	一〇一	〔鼻缺地藏〕(一)	六七〇	萬里の傳(三)	四九一
八兵衛稻荷(二)	五七六	花城天滿宮(二)	六七	蟠龍寺(二)	九七
八幡宮―八幡宿(二)	三四〇	〔花城天滿宮〕(二)	七〇		
八幡宮―立川(二)	三九二	〔花鎮の祭禮〕(三)	三三		
八幡宮―小石川(二)	五九九	花園の社(四)	二八	日蔭町(一)	二三四
八幡山行慶寺(一)	二九六	英一蝶の墓―初代(二)	七一	東安樂寺(四)	一一一
八幡山宗圓寺(二)	一九七	英一蝶の墓―二代目(四)	二	〔東一の江妙音寺〕(四)	二六七
八幡寺(三)	七四	羽田辨財天(一)	四六二	〔東高野山〕(三)	五六
八幡塚(一)	四六	〔羽田辨財天〕(一)	四六〇	東高野山(三)	五八
鉢山(二)	一七九	馬場(一)	一〇七	〔東本願寺〕(三)	四四五
蜂龍の盃(一)	四七三	番匠ヶ谷(二)	四〇八	東本願寺(三)	四五〇
初負脊(四)	三七〇	萬松山東海寺(一)	三三	〔東本願寺附近〕(三)	四五五
八丁繩手(三)	五六九	〔半田稻荷〕(四)	二八四	東山稻荷(二)	五七六
初音の里(三)	二六	坂東太郎(四)	三〇三	〔東山稻荷〕(二)	五七八



佛寶山無量寺(三)	三五	吹上御庭(一)	五	普聞の松(二)	五四〇
〔擲筆松〕(一)	六〇〇	〔吹上觀音〕(三)	三	芙蓉洲(一)	二二
擲筆松(一)	六〇七	福石(一)	六	古川(二)	五四一
太井橋(四)	三〇二	福聚山普門院(四)	一九	〔古川藥師〕(一)	四四〇
不動山寶生寺(二)	六四一	福聚峰(一)	五五	古川藥師如來堂(一)	四四三
〔不動瀧〕(三)	三五〇	福藏院(三)	三	古隅田河(四)	二二
船河原―飯田河岸(一)	八三	福田村舊跡(一)	七	古屋敷(一)	四五六
舟河原―子母口村(二)	二四五	福田山蓮花寺(一)	三九		
舟田(二)	二四五	春おろし(一)	二五		
船繫松―高田(二)	五五	文卷川(四)	三〇	平河山淨土寺(二)	一四三
船繫松―小石川(三)	二六	普命山壽善寺(二)	三〇	平河山法恩寺(四)	一五七
船繫松―田端(三)	二七	豐後小侍從舊館の地(二)	五二	平川寺(二)	五三七
船橋(四)	三六	〔分倍河原〕(一)	三五	平内の像(三)	三九九
船祭―簸川(三)	一六	分倍河原(二)	三六	〔平林寺〕(三)	七九
〔深川木場〕(四)	三〇	普門院(四)	一九	平林寺(三)	八三
深川八幡宮御旅所(四)	四九	〔普門院〕(四)	二二	碧雲閣(二)	二〇一
浮岳山深大寺(二)	三四	普門山大慈寺(二)	六	へなたり(一)	六七九

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ――

蛇池―駒場(二)	一八	鳳凰池(二)	五二	寶壽山長命寺(四)	一八三
蛇池―淀橋(二)	四八	報恩講―西本願寺(一)	一八	寶珠山興樂寺(三)	二九
蛇小路(四)	三九	〔報恩講〕―東本願寺(三)	四	方松庵(二)	五四
辨慶硯水の井(二)	三四	法苑山淨心寺(四)	三八	寶生寺(二)	六四
〔辨慶橋〕(一)	一〇三	報恩寺―淺草(三)	四五〇	〔寶成寺〕(四)	三六
辨慶橋(一)	一〇六	〔報恩寺〕(三)	四一	〔寶成寺〕(四)	三五〇
〔辨慶橋地圖〕(一)	一〇六	法恩寺―本所(四)	一五	法住寺(三)	二八一
辨財天―芝(一)	二二	〔法恩寺〕(四)	一五	〔法住寺〕(三)	二八七
辨財天―野火留村(三)	八六	寶鏡山圓光寺(三)	四八	北條相摸守時頼の石塔(一)	三七三
辨財天―須崎(四)	四九	法源寺(三)	五五	北條時宗の石塔(一)	三七三
辨財天―回向院(四)	五四	〔法泉寺〕(二)	四九	北條陸奥守制札(一)	六三
辨財天―行徳(四)	二九〇	法泉寺(二)	四九	豐徳山誓願寺(三)	五〇四
遍覽亭(四)	三三	寶仙寺(二)	四九	〔法得寺緣起〕(三)	四五八
		寶泉寺(二)	五五	〔法明寺〕(二)	六四二
		法禪寺(四)	四	法明寺(二)	六四九
		寶誓齋其角翁の墓(二)	七	煩燒藥師(一)	一〇三
		寶聚山大法寺(四)	一五	鳳來寺峰の藥師(一)	四三

ホ

―― 畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ――

鳳來寺薬師(一)	一七〇	時鳥一目白臺(二)	六〇四	〔本牧〕(一)	五六八
寶林山靈雲寺(三)	一六九	本覺山妙光院(二)	五五〇	〔本牧吾妻權現宮〕(一)	五六六
〔法蓮寺〕(一)	四八	本覺山妙勝寺(四)	二六六	本牧十二天宮(一)	五五九
寶蓮寺(四)	一六	本覺寺切通(一)	五五五	〔本牧十二天社〕(一)	五六四
註法華經(一)	四〇七	本久寺(四)	一六八	〔本門寺〕(一)	四〇〇
星降松(四)	一四六	本行寺(三)	二六二	堀兼の井(三)	一三九
星の清水(二)	六四一	〔本光寺〕(一)	三三三	〔堀兼の井〕(三)	一三〇
星谷の井舊地(二)	六三五	本郷の溜池(四)	三三三	〔堀留〕(一)	七三
細井廣澤の墓(二)	一三八	本淨寺(二)	六三三	堀の内山王權現宮(一)	四六六
菩提樹(一)	五二	〔本所一ッ目〕(四)	五	〔堀の内妙法寺〕(二)	五〇〇
帆立櫻(二)	五三	本銀村封疆(一)	七六		
螢―佛橋(二)	五七〇	〔品川寺〕(一)	三六二		
螢―落合(二)	五七四	〔本町薬種店〕(一)	六四	蒔田城跡(一)	五八二
〔螢澤〕(三)	二六一	本傳寺(二)	六一	馬込八幡宮(一)	四二二
法華寺(二)	二六	本納寺(二)	六四	〔馬込八幡宮〕(一)	四三三
〔法華八講〕(三)	二四六	本妙山感通寺(二)	五四〇	菰が淵(一)	八三
布袋丸の井(一)	五二	本妙寺(四)	三二	升井(二)	四二七

―― 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

升形山(二)	二二三	前野(三)	四三	除蝮蛇神符(一)	二一〇
増山の井(二)	六〇四	前不動(二)	一〇八	〔萬藏院〕(三)	七一
眞先稻荷明神社(三)	五九	眞間山弘法寺(四)	三三	萬徳山明王院(三)	五五
眞土山(三)	五三	眞間の井(四)	三三	萬徳山福勤寺(四)	四九
〔眞土山聖天宮〕(三)	五六六	眞間の入江(四)	三六	曼荼羅石(一)	二二
松戸堤(四)	二八三	眞間の浦(四)	三七	〔曼荼羅が淵〕(三)	一〇四
〔松戸の里〕(四)	二八六	眞間の於須比(四)	三九	萬年山祝言寺(三)	四六五
松戸の津(四)	二八三	〔眞間の弘法寺〕(四)	三三	萬年山青松寺(一)	二四〇
松の寺(一)	三五四	眞間の繼橋(四)	三九	萬年石の記(一)	三四
〔松橋辨財天の窟〕(三)	三四八	眞間の手兒名舊蹟(四)	三二	〔萬福寺〕(一)	四三
松橋辨財天(三)	三五三	眞間の濱(四)	二八	丸子の渡し(二)	二六〇
松原小路(一)	五二	滿願寺(二)	一三	圓山(二)	二二
町屋村(一)	六〇八	〔滿願寺〕(二)	一三四	〔丸山淨心寺〕(三)	二九三
組橋(一)	八三	萬願寺(二)	三九三		
麻耳山(一)	五九三	萬吉山松月院(三)	四八	三日月上人(三)	一三
摩尼珠山眞福寺(一)	二二七	萬昌山圓滿寺(三)	一八七	身代觀世音菩薩(四)	二一〇
		萬松山泉岳寺(一)	二八九		

―― 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( )――



〔右橋〕(一)	五七三	三ツ橋(一)	一六二	宮之姫社(一)	三四五
右橋(一)	五七四	〔三ツ橋〕(一)	一六四	宮本の郷(三)	一六一
造酒地藏尊(一)	六八	〔三派〕(一)	一三四	宮本笹川大明神社(三)	一六一
尊櫻(三)	一〇	三派(一)	一三六	宮本笹川の社(三)	一六一
〔三崎稻荷社〕(一)	九四	〔水村〕(一)	三七八	妙永山本納寺(一)	一六二
三島明神社(三)	四三五	湊稻荷社(一)	一七一	明王院―目黒村(一)	九
〔三島明神社〕(三)	四三八	〔湊稻荷社〕―佃島(一)	一七六	明王院―梅田村(三)	五二五
三島山(一)	五四	箕輪の天王(三)	五〇一	妙音寺(四)	二六五
三田(一)	二〇	〔三橋〕(三)	二二八	明王山東覺寺(四)	一三五
御田―府中(一)	三六〇	御穂神社(一)	二五	明王山寶仙寺(一)	四九一
〔三田春日明神社〕(一)	二六四	〔御穂神社〕(一)	二七五	明覺寺(一)	四二九
御嶽山清立院(一)	六四〇	〔三室村元笹河神社〕(三)	一五四	妙龜山總泉寺(三)	五五一
三田八幡宮(一)	二六三	三室山(三)	一六一	妙龜塚(三)	五五二
〔三田八幡宮〕(一)	二六六	三園稻荷社(四)	一六九	明顯山祐天寺(一)	二二五
〔道山幸神社〕(一)	六〇五	〔三園稻荷社〕(四)	一七四	妙顯寺(三)	一四七
水稻荷(一)	五五三	郡島(四)	三三	〔妙顯寺〕(三)	一四九
密乘院(三)	五八	宮坂八幡宮(一)	二〇四	妙源寺(四)	一六八

――畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

妙見大菩薩(一)	八九	彌勒寺(四)	四九	六浦(一)	六六五
妙見大菩薩(四)	一四六	〔彌勒寺〕(四)	五〇	六浦川(一)	六六八
妙光院(一)	三六〇	彌勒寺(一)	三七四	〔六浦上行寺〕(一)	六六〇
妙正ヶ池(四)	三四九	向の岡―久米村(三)	一〇〇	〔無動寺〕(一)	四八二
妙勝寺(四)	二六六	向の岡―谷口村(一)	四三九	〔宗岡の里〕(三)	七〇
妙正大明神祠(四)	三九	武笠(三)	一六一	宗岡の宿(三)	一六九
妙典山戒行寺(一)	二六五	向砂利場(一)	五六一	宗像の社(三)	一六三
妙典寺(三)	一六一	武藏―國號の基(一)	二九	叢雲の御劍(四)	三六六
妙福寺(四)	二七七	むさし塚(一)	五二	〔無量院〕(三)	三三四
妙法山法華寺(一)	一三六	武藏野(一)	三三八	無量山傳通院(三)	一八
妙法寺(一)	五〇三	武藏野の翁(一)	三三三	〔無量院〕(三)	三〇七
〔妙法華經寺〕(四)	三四三	武藏國總社六所明神社(一)	三四一	目赤不動堂(三)	二九三
妙樂院(三)	五四	武藏國造兄武日命殿館舊跡(一)	三六一	目當燈籠(一)	五二一
妙樂寺(三)	二三八	蟲食の柱(一)	六七	女男松(三)	三六
妙龍水(三)	一七	無聲の蛙(三)	三		
妙龍水(三)	四六八				
妙林寺(三)	二八五				

――畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )――

〔女男の松〕(三)	三	〔木母寺〕(四)	二六	〔桃園春興〕(二)	四九八
〔目黒館〕(二)	一〇四	元伊勢(二)	五〇二	森島(一)	一八三
目黒不動(二)	一〇一	本木薬師如来(三)	一五	茂侶の神社(四)	三七五
〔目黒不動〕(二)	一〇六	元品川(一)	三八〇	〔茂侶神社〕(四)	三七六
〔目白下大洗堰〕(二)	六〇〇	元根津(三)	二八一		
〔目白不動堂〕(二)	六〇六	元札の辻(一)	二八八		
目白不動堂(二)	六〇八	斥候塚(二)	一六二		
目玉の観音(二)	二八八	〔紅葉〕—海晏寺(一)	三七一	〔焼米坂〕(三)	一四六
		紅葉—音無河(三)	三五〇	薬王寺—金澤(一)	六三〇
		文殊櫻—下谷(三)	三三三	薬王寺—牛込(二)	四六一
		文殊櫻—六浦(一)	三三九	〔薬王寺〕—牛込(二)	四六二
		間答河岸(一)	三三〇	薬王寺—牛込(二)	四六五
		主水河岸(一)	三三六	〔薬王寺〕—所澤(三)	一四二
		〔主水の井〕(一)	八七	薬王山善養寺(三)	四七五
		桃園—中野(二)	四九七	薬師堂—日本橋(一)	一四八
		桃園観音堂(二)	四九七	薬師堂—京橋(一)	一七〇
		桃林—川崎(一)	四九七	薬師堂—芝(一)	二三〇
			四六七	薬師堂—金澤(一)	六三〇

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

薬師堂—長尾村(二)	二二七	ハッ小路の辻(一)	八五	〔藪小路〕(一)	二二八
薬師堂前(三)	四六三	〔八見橋〕(一)	五四	谷保天神社(二)	三七五
薬師如来縁起—青龍山(四)	二四四	谷山(一)	三〇四	〔谷保天神社〕(二)	三七六
薬師横町(二)	一九	〔谷中感應寺〕(三)	二六三	〔山口観音堂〕(三)	二一六
矢口新田神君廟碑(一)	四三九	〔柳島妙見堂〕(四)	一四四	山口観音堂(三)	二三〇
矢口の沼(一)	四三八	柳堤(一)	一〇七	〔山口の岡〕(三)	二一八
八國見(二)	四二七	柳橋(一)	二四	山住彦三郎舊跡(三)	二一七
除厄大師堂—川崎(一)	四六七	〔柳原堤〕(一)	一〇四	〔日本武尊岩倉山に武具を收む〕	三〇
除厄太子堂—淺草(三)	四六五	柳原封疆(一)	一〇六		
厄除の本尊(三)	四七〇	柳の井—芝(一)	三二	日本武尊祠(一)	四三八
除厄の御影(二)	五〇三	柳の井—麴町(二)	三三	〔山吹の井〕(二)	五六五
櫓下(三)	七四	〔柳の井〕(二)	三三	山吹の里(二)	五六一
薬龍山正藏院(二)	五三〇	〔柳の水〕(二)	二五	〔山吹の里〕(二)	五六二
〔八景坂〕(一)	三九四	〔谷之口穴澤天神〕(二)	四三六	八代曾河岸(一)	五二
やげん坂(一)	三九六	矢の崎(二)	三六一	柵門(一)	二二四
〔薬研堀〕(一)	一一二	天拾観世音(二)	一七一	〔八幡不知森〕(四)	三三六
康家清光の社(三)	三三九	藪小路(一)	三七七	八幡不知の森(四)	三三八

—— 畫挿はるたし附を〔 〕・數冊は四・三・二・一の中( ) ——

〔八幡塚の八幡宮〕(一)	四五	〔雪ヶ坂〕(一)	三五	浴鳳池(一)	三三
〔八幡の八幡宮〕(四)	三六	雪見寺(三)	二七	〔横濱辨財天〕(一)	五六〇
夕顔觀音堂(四)	二七八	湯島天満宮(三)	二〇六	横溝八郎の墳墓(二)	四三〇
〔夕顔觀音堂〕(四)	二八〇	〔湯島天満宮〕(三)	二〇八	義尙の墓(一)	二二三
祐慶(三)	一七三	震松(一)	三九六	義尙入道の墓(一)	五二〇
遊石山新光寺(三)	一四三	陽嶽寺(四)	二	〔義高入道の墓〕(一)	五〇九
遊女の松(二)	二七九	楊貴妃の玉簾(一)	六二	吉原町舊地(一)	一三八
祐天寺(二)	一五	養玉院(三)	四四	吉水(三)	一三
〔祐天寺〕(二)	一〇	影向石の碑(二)	二四〇	淀橋(二)	四八五
祐天大僧正(二)	一三三	影向の松(四)	一四六	〔淀橋水車〕(二)	四八一
〔夕日の岡〕(二)	九〇	陽光院(一)	五五	〔四日市〕(一)	一三八
夕日の岡(二)	九七	〔養光寺〕(一)	四九〇	四日市(一)	一四二
幽靈坂(二)	五三六	〔楊枝店〕—淺草(三)	四〇五	世繼稻荷(一)	八三
行逢の橋(一)	三三七	養福寺(三)	二七五	四辻有理墓碑(三)	五五三
雪ヶ坂(二)	二三四	楊柳水(二)	三	四谷(二)	二六一
				四谷大木戸(二)	二六八
				〔四谷大木戸〕(二)	二七〇

畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )

〔四谷牛頭天王社〕(二)	二六二	〔龍華寺〕—町屋村(一)	六三三
〔代々木八幡宮〕(二)	二九二	龍眼寺(二)	一三
寄木明神社(一)	三三七	龍華樹(二)	二〇九
〔寄木明神社〕(一)	三五〇	龍谷山功運寺(一)	二六五
頼朝松(一)	三七四	龍虎梅竹(一)	五三
米ヶ先村(四)	三七四	龍泉寺(二)	一四三
代々木野八幡宮(二)	二八九	〔龍泉寺〕(二)	一四四
鐘ヶ洲(一)	一四五	龍燈の松—子安村(一)	五二
鐘懸松(一)	三九三	龍燈の松—町屋村(一)	六三五
〔鐘懸松〕(一)	三九四	龍燈の松—龜戸村(四)	一三四
鐘島(一)	一八三	龍燈の松—品川(一)	三七四
鐘島山(一)	一四八	龍徳山雲光院(四)	四三
〔鐘塚〕(三)	三三	龍門山高安護國禪寺(二)	三三三
鐘の渡し(一)	一四一	了翁僧部の傳(三)	二四四
〔鐘の渡し〕(一)	一四二	了海上人産生湯井(一)	三八三
鐘明神祠(二)	四七九	〔了海上人誕生の圖〕(二)	四〇
〔鐘明神社〕(二)	四七七	龍ヶ淵(一)	三七四

畫挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中( )

兩溪橋(一)	三七四	靈雲山蟠龍寺(一)	九七
兩國橋(一)	二二四	靈雲寺(三)	一九六
〔兩國橋〕(一)	二二六	〔靈雲寺〕(三)	二〇二
龍宿山最明寺(一)	二五三	靈巖寺(四)	二二九
〔兩大師遷座〕(三)	二五〇	靈巖嶋(一)	一六二
了然禪尼菴室の地(一)	一七四	靈龜山慶養寺(三)	五六〇
了然尼(二)	五八六	靈驗不動尊(三)	二八五
療病院(三)	二六	靈山寺(四)	一五六
麟祥院(三)	二〇七	嶺松寺(一)	六六四
〔麟祥院〕(三)	二二〇	靈南坂(一)	三〇四
		靈南坂(二)	三三
瑠璃山光嚴寺(一)	三三三	例幣使の松(三)	三九九
		連歌家(四)	二二八
		蓮華寺(四)	一九三
		蓮成寺(二)	六五一
靈雲院(四)	四三	〔連理の樟〕(四)	三三六
〔靈雲院〕(四)	四四		
		朗羽山長照寺(一)	四五六
		朗師坂(一)	四〇六
		〔六阿彌陀廻り〕(三)	五二二
		六月村(三)	五二五
		六郷の渡し(一)	四五六
		〔六郷の渡し〕(一)	四五八
		六郷八幡宮(一)	四五六
		六字名號の石碑(一)	四七二
		六所の宮御旅所(二)	三五九
		〔六所の宮田植〕(二)	三五六
		六所明神社(一)	三四一
		〔六所明神の祭禮〕(二)	三五二
		六地藏の石燈籠(三)	四〇七
		六地藏河岸(三)	四〇七
		六地藏の石燈籠(三)	四〇二

—— 靈挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の ( ) ——

六人河岸(一)	一七五	和田戸山(二)	五六〇
六浦山上行寺(一)	六五九	和田八幡宮(二)	五〇三
六面塔(二)	三六七	〔和田の曲り松〕(二)	五〇六
		巨新左衛門舊址(一)	四八六
		〔巨新左衛門墓〕(一)	四八二
		和銅寺廢址(四)	二八二
		藁裏辨財天(四)	五四
		巖(三)	一五
別旅明神(二)	四〇八		
若菜神供(四)	一八		
若宮八幡宮—馬牽澤村(二)	一九三		
若宮八幡宮—牛込(二)	五三六		
〔若宮八幡宮〕(二)	五三四		
〔若宮八幡宮〕(三)	二七三		
若宮八幡宮—若宮村(四)	二三三		
若宮八幡宮—中山(四)	三四八		
別れの淵(一)	一六		
鷺大明神社(三)	五二		
〔鷺大明神社〕(三)	五三		
〔鷺大明神社祭禮〕(三)	五四		

江戸名所圖會 内容細目終

—— 靈挿はるたし附を〔〕・數冊は四・三・二・一の中 ( ) ——

一	大田原(一)	大田原(二)	大田原(三)	大田原(四)	大田原(五)	大田原(六)	大田原(七)	大田原(八)	大田原(九)	大田原(十)	大田原(十一)	大田原(十二)	大田原(十三)	大田原(十四)	大田原(十五)	大田原(十六)	大田原(十七)	大田原(十八)	大田原(十九)	大田原(二十)
二	大田原(二十一)	大田原(二十二)	大田原(二十三)	大田原(二十四)	大田原(二十五)	大田原(二十六)	大田原(二十七)	大田原(二十八)	大田原(二十九)	大田原(三十)	大田原(三十一)	大田原(三十二)	大田原(三十三)	大田原(三十四)	大田原(三十五)	大田原(三十六)	大田原(三十七)	大田原(三十八)	大田原(三十九)	大田原(四十)
三	大田原(四十一)	大田原(四十二)	大田原(四十三)	大田原(四十四)	大田原(四十五)	大田原(四十六)	大田原(四十七)	大田原(四十八)	大田原(四十九)	大田原(五十)	大田原(五十一)	大田原(五十二)	大田原(五十三)	大田原(五十四)	大田原(五十五)	大田原(五十六)	大田原(五十七)	大田原(五十八)	大田原(五十九)	大田原(六十)
四	大田原(六十一)	大田原(六十二)	大田原(六十三)	大田原(六十四)	大田原(六十五)	大田原(六十六)	大田原(六十七)	大田原(六十八)	大田原(六十九)	大田原(七十)	大田原(七十一)	大田原(七十二)	大田原(七十三)	大田原(七十四)	大田原(七十五)	大田原(七十六)	大田原(七十七)	大田原(七十八)	大田原(七十九)	大田原(八十)
五	大田原(八十一)	大田原(八十二)	大田原(八十三)	大田原(八十四)	大田原(八十五)	大田原(八十六)	大田原(八十七)	大田原(八十八)	大田原(八十九)	大田原(九十)	大田原(九十一)	大田原(九十二)	大田原(九十三)	大田原(九十四)	大田原(九十五)	大田原(九十六)	大田原(九十七)	大田原(九十八)	大田原(九十九)	大田原(一百)

昭和二年八月十三日發行  
 昭和二年八月十三日發行

有朋堂文庫  
 江戸名所圖會四 (非賣品)

編輯者 塚本哲三

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地

印刷者兼發行所 三浦理

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所 有朋堂印刷所

東京市神田區錦町一丁目十九番地

發行所 有朋堂書店

不許複製

(本製山岡)

不 存 原 唯

管 行 報

許 照 堂 書 畫

中 國 報

許 照 堂 印 像 刊

中 國 報

三 部 照

國 報

本 部 三

原 刊 於 大 文 明 報 第 一 千 二 百 三 十 八 號

第 二 千 八 百 三 十 三 日 報

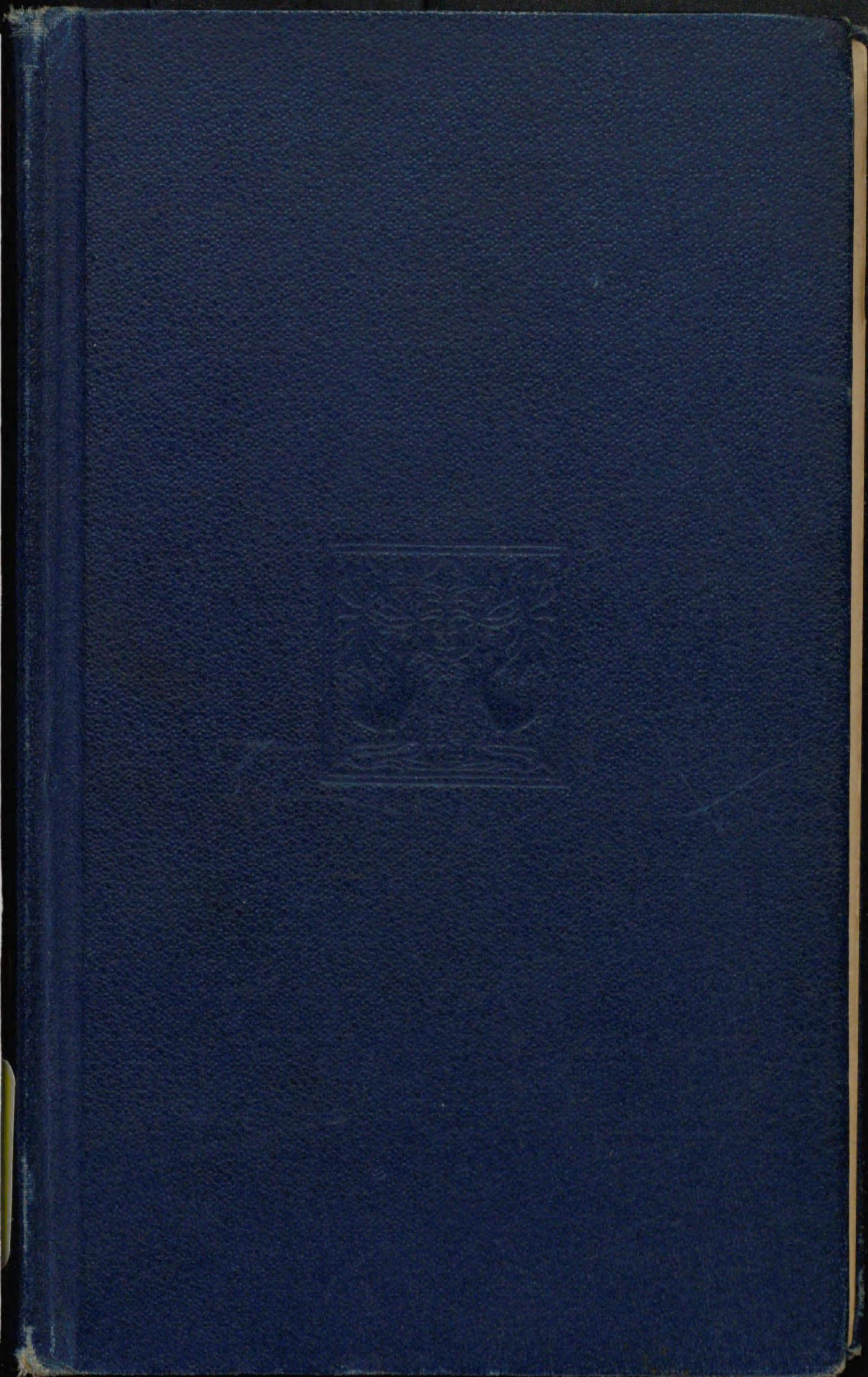
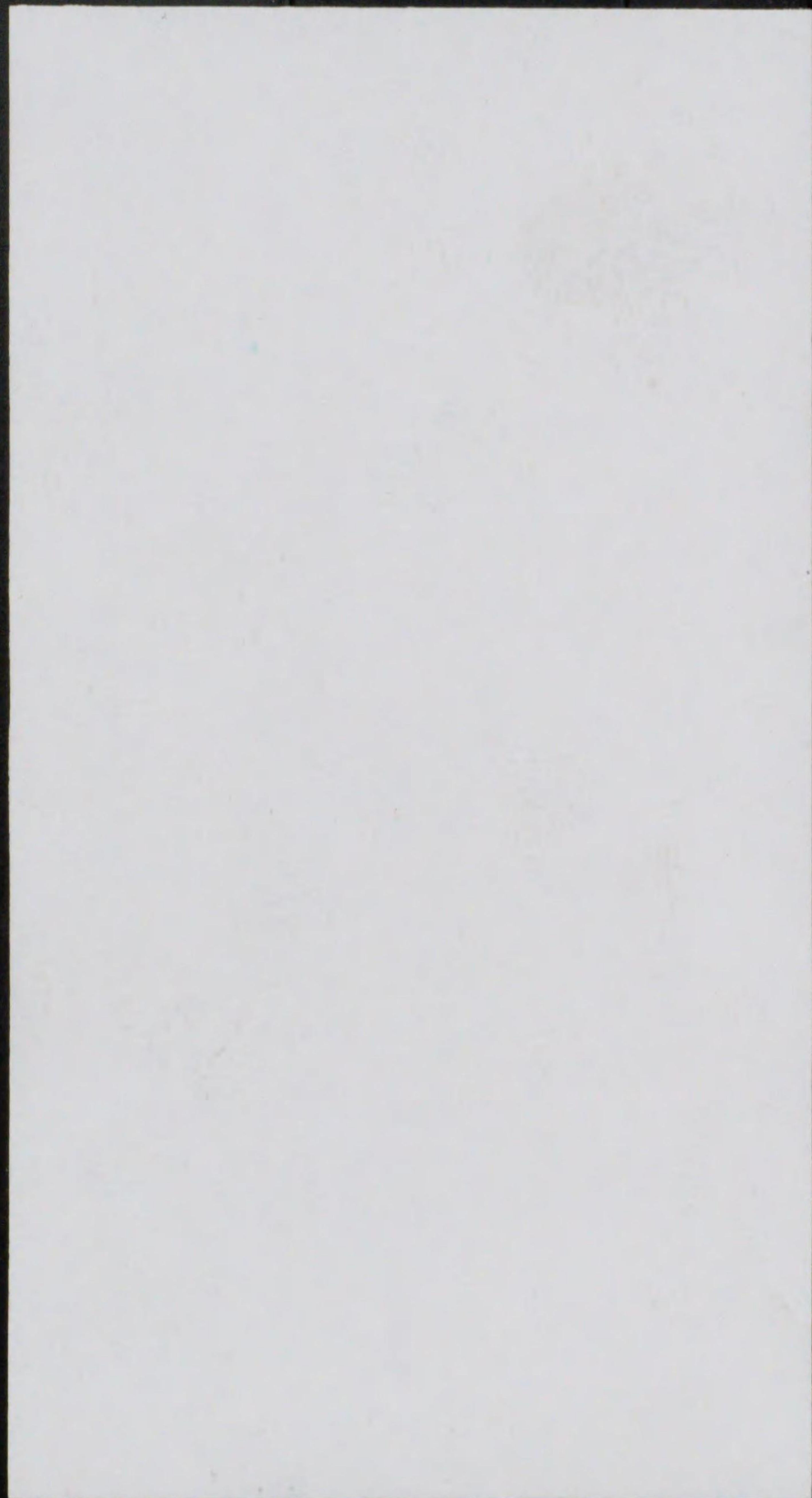
第 二 千 八 百 三 十 三 日 報

( 潤 山 謹 本 )

543  
65



74



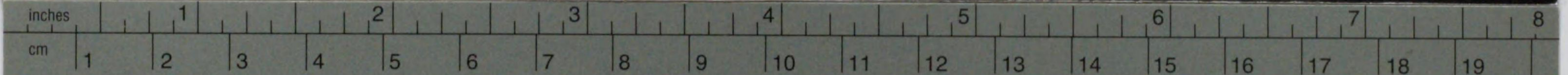


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

